GS350 / GS250

取扱説明書

イラスト目次　**イラスト**から検索

1 安全・安心のために　お客様に**必ずお読みいただきたいこと**

2 メーターの見方　メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作　ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転　運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能　室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた　車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には　故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報　車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん
- **症状**から検索
- **音**から検索
- **アルファベット**で検索
- **五十音**で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方..... 10
検索のしかた..... 11
イラスト目次..... 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 26
シートベルト 28
SRS エアバッグ..... 33
お子さまの安全のために 41
子供専用シート..... 42
チャイルドシートの取り付け 50
排気ガスに対する注意 56

1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 57
オートアラーム..... 58

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯..... 66
計器類 71
マルチインフォメーションディスプレイ 74
ヘッドアップディスプレイ 82

3 各部の操作

3-1. キー
キー 92

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
スマートエントリー＆スタートシステム 97
ワイヤレスリモコン 107
ドア 109
トランク..... 113

3-3. シートの調整
フロントシート 120
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 123
ヘッドレスト..... 128

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル..... 130
インナーミラー 131
ドアミラー..... 133

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 136
ムーンルーフ..... 139

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 144
荷物を積むときの注意 152

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 153
オートマチックトランスミッション 161
方向指示レバー 167
パーキングブレーキ 168
ホーン（警音器） 170

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 171
オートマチックハイビーム 174
フォグランプスイッチ 180
ワイパー＆ウォッシャー 182
ヘッドランプクリーナー 188

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 189

4-5. 運転支援装置について

クルーズコントロール 194
レーダークルーズコントロール 198
LKA（レーンキーピングアシスト） 209
ドライブモードセレクトスイッチ 218
運転を補助する装置 223
ヒルスタートアシストコントロール 231
PCS（プリクラッシュセーフティシステム） 233
BSM（ブラインドスポットモニター） 242
ナイトビュー（歩行者検知機能付） 247

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 258

5 室内装備・機能

5-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 264
・インテリアランプ..... 265
・パーソナルランプ..... 265

5-2. 収納装備

収納装備一覧 267
・グローブボックス..... 268
・コンソールボックス..... 269
・カップホルダー 270
・小物入れ 272
トランク内装備..... 273

5-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー／
バニティミラー..... 276
時計 277
灰皿 278
アクセサリーソケット 279
ステアリングヒーター 281
シートヒーター／
シートベンチレーター 282
リヤアームレスト..... 287
リヤサンシェード／
リヤドアサンシェード 288
トランクスルー..... 291
コートフック 292
アシストグリップ..... 293
ユーティリティーフック 294

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 296
内装の手入れ..... 300

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 303
ガレージジャッキ..... 305
エンジンルームカバー 307
ウォッシャー液の補充 309
タイヤについて 310
電子キーの電池交換 319
ヒューズの点検・交換 321
電球（バルブ）の交換 332

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは..... 348
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 349
発炎筒 350
車両を緊急停止するには..... 352

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 353
警告灯がついたときは..... 358
警告メッセージが表示されたときは..... 364
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 385
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 395
エンジンがかからないときは..... 411
シフトレバーがシフトできないときは..... 413
パーキングブレーキが解除できないときは..... 414
電子キーが正常に働かないときは..... 416
バッテリーがあがったときは..... 418
オーバーヒートしたときは 421
スタックしたときは..... 424

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）... 428

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 434

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 444

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 446
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 450
アルファベット順さくいん..... 452
五十音順さくいん 454

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- エアコン・デフォッガー
- ミラーヒーター
- 音声操作システム
- クリアランスソナー
- ETC システム
- バックガイドモニター
- ハンズフリー
- G-Link

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。

EDR は次のようなデータを記録します。
・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは
・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

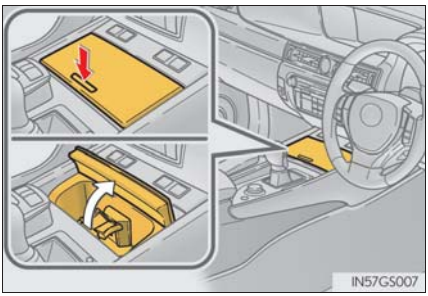
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3 … 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

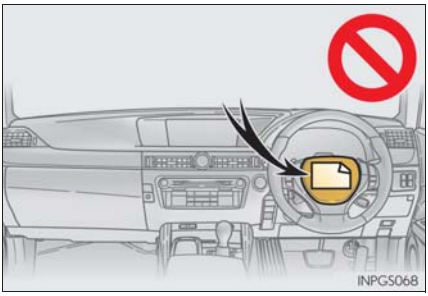
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

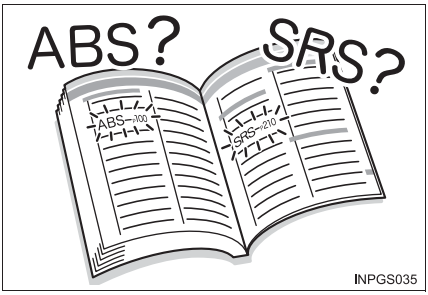


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ **名称から探す**

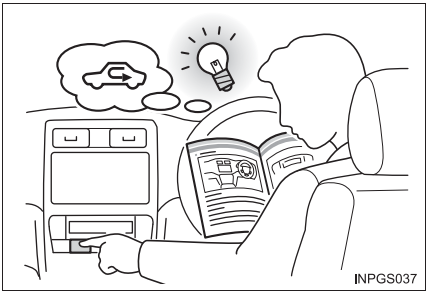
・五十音順さくいん.....454
・アルファベット順
さくいん 452



INPGS035

■ **取り付け位置から探す**

・イラスト目次.....12


INPGS037

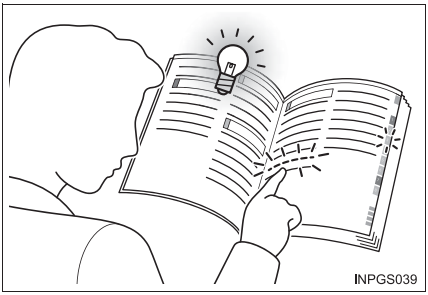
■ **症状や音から探す**

・こんなときは
（症状別さくいん）.....446
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....450

INPGS038

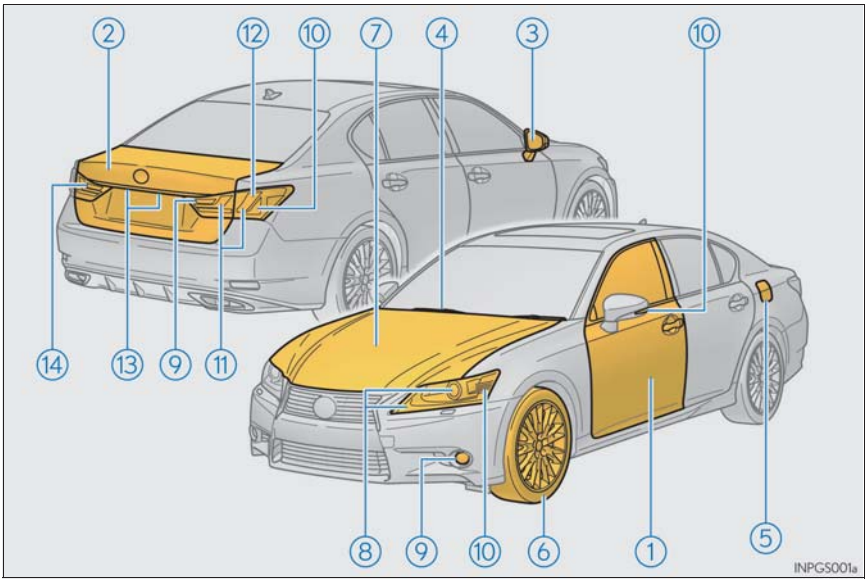
■ **タイトルから探す**

・目次 2


INPGS039

イラスト目次

■外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。(→ P. 332)

① **ドア . . . . . .P. 109**
施錠／解錠 . . . . . .P. 98, 107
ドアガラスの開閉 . . . . . .P. 136
メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . .P. 416
警告灯・警告メッセージ . . . . . .P. 361, 370
② **トランク . . . . . .P. 113**
車内から開ける . . . . . .P. 113
車外から開ける . . . . . .P. 98, 107
メカニカルキーで開ける . . . . . .P. 416
警告灯・警告メッセージ . . . . . .P. 361, 371
③ **ドアミラー . . . . . .P. 133**
鏡面の角度調整 . . . . . .P. 133
ミラーの格納 . . . . . .P. 133
調整位置の登録 . . . . . .P. 123
曇りを取る（ミラーヒーター）※

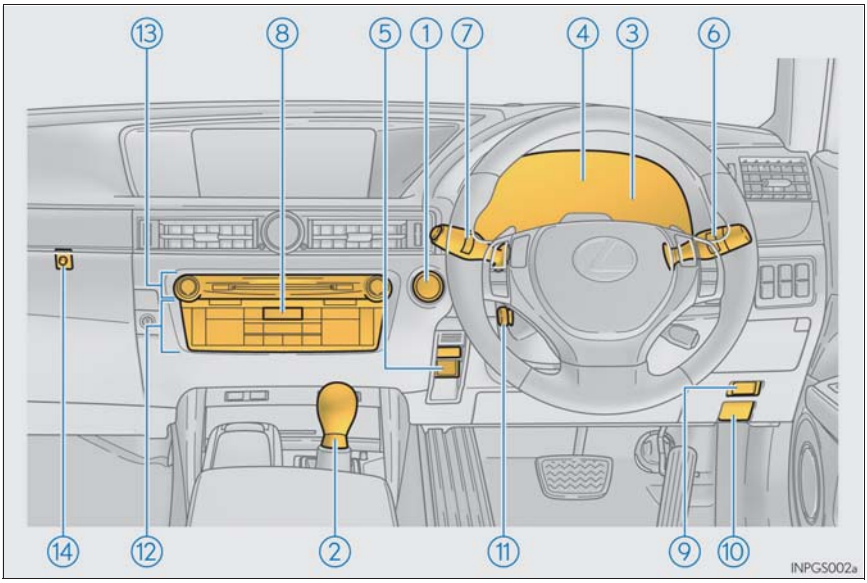
④ **ワイパー** . . . . . **P. 182**
冬季の注意 . . . . . P. 258
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★※
洗車時の注意 . . . . . P. 298
⑤ **給油口** . . . . . **P. 189**
給油方法 . . . . . P. 189
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 428
⑥ **タイヤ** . . . . . **P. 310**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 432
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 258
点検・ローテーション・空気圧警報システム . . . . . P. 310
パンク時の対処 . . . . . P. 385, 395
⑦ **ボンネット** . . . . . **P. 303**
開け方 . . . . . P. 303
エンジンルームカバー . . . . . P. 307
エンジンオイル . . . . . P. 428
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 421
警告メッセージ . . . . . P. 370

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 332, ワット数：P. 433）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト** . . . . . **P. 171**
⑨ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ** ★ . . . . . **P. 180**
⑩ **方向指示灯** . . . . . **P. 167**
⑪ **尾灯** . . . . . **P. 171**
⑫ **制動灯**
坂道などでの発進補助 . . . . . P. 231
⑬ **番号灯** . . . . . **P. 171**
⑭ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . P. 161

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■インストルメントパネル

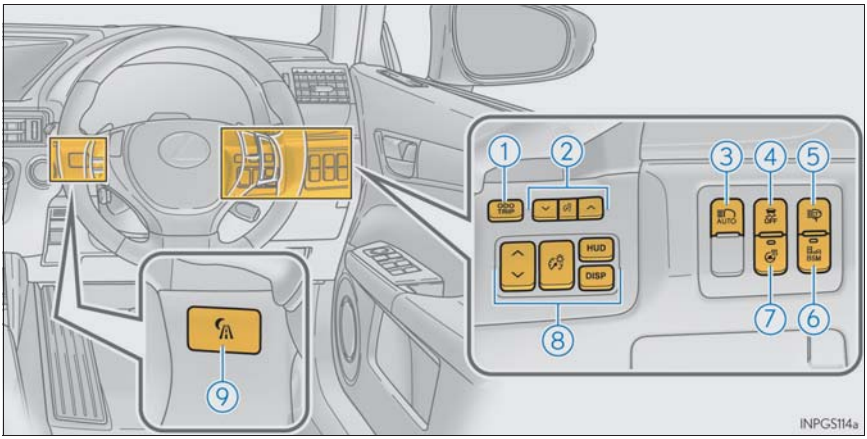


① **エンジンスイッチ** . . . . . **P. 153**
エンジンの始動・モード切りかえ . . . . . P. 153
エンジンの緊急停止 . . . . . P. 352
エンジンが始動できないときの対処 . . . . . P. 411
警告メッセージ . . . . . P. 379
② **シフトレバー** . . . . . **P. 161**
シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 161
けん引時の注意 . . . . . P. 353
シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 413
③ **メーター** . . . . . **P. 71**
見方・明るさの調整 . . . . . P. 71
警告灯／表示灯 . . . . . P. 66
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 358

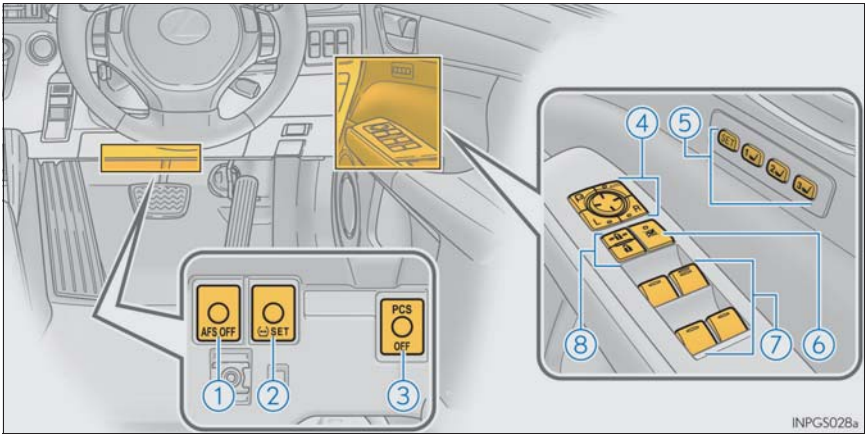
④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . .P. 74**
表示内容 . . . . . .P. 74
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . .P. 364
⑤ **パーキングブレーキ . . . . . .P. 168**
かける・解除する . . . . . .P. 168
冬季の注意 . . . . . .P. 259
警告ブザー・警告メッセージ . . . . . .P. 364
⑥ **方向指示レバー . . . . . .P. 167**
ランプスイッチ . . . . . .P. 171
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・LED デイライト . . . . . .P. 171
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★ . . . . . .P. 180
⑦ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ . . . . . .P. 182**
使い方 . . . . . .P. 182
ウォッシャー液の補充 . . . . . .P. 309
⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . .P. 349**
⑨ **トランクオープナー . . . . . .P. 113**
⑩ **ボンネット解除レバー . . . . . .P. 303**
⑪ **ハンドル位置調整スイッチ . . . . . .P. 130**
調整方法 . . . . . .P. 130
調整位置の登録 . . . . . .P. 123
⑫ **オートエアコン※**
操作方法※
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）※
⑬ **オーディオ※**
音楽を聴く※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※
⑭ **トランクオープナーメインスイッチ . . . . . .P. 114**

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類

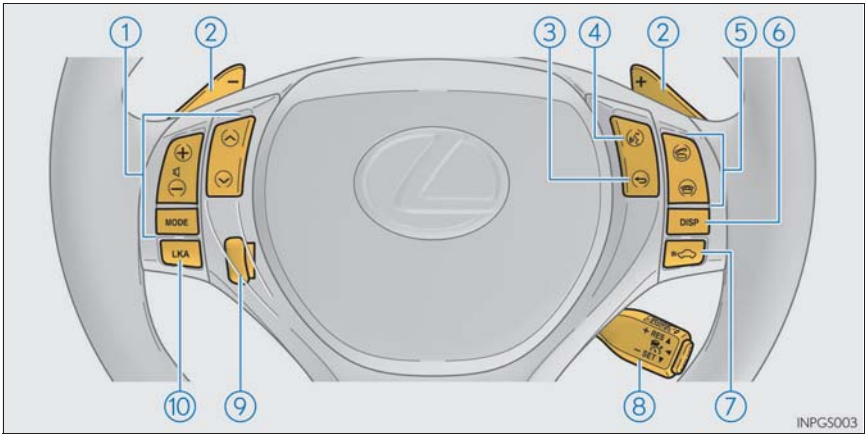


① オドメーター／トリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットボタン . . . . . .P. 72
② インストルメントパネル照度調整スイッチ . . . . . .P. 72
③ オートマチックハイビームスイッチ★. . . . . .P. 174
④ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 225
⑤ ヘッドランプクリーナースイッチ★ . . . . . .P. 188
⑥ BSM（ブラインドスポットモニター）メインスイッチ★. . . . . .P. 242
⑦ ステアリングヒータースイッチ★ . . . . . .P. 281
⑧ ヘッドアップディスプレイスイッチ★. . . . . .P. 82
⑨ ナイトビュースイッチ★ . . . . . .P. 247

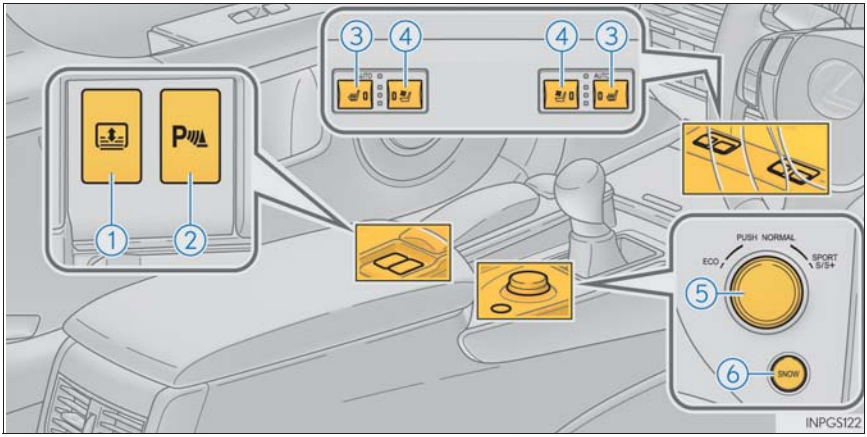


① AFS OFF スイッチ . . . . . .P. 172
② タイヤ空気圧警報リセットスイッチ . . . . . .P. 312
③ PCS OFF スイッチ★ . . . . . .P. 235
④ ドアミラースイッチ . . . . . .P. 133
⑤ ポジションメモリーボタン . . . . . .P. 123
⑥ ウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 136
⑦ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 136
⑧ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 109

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。



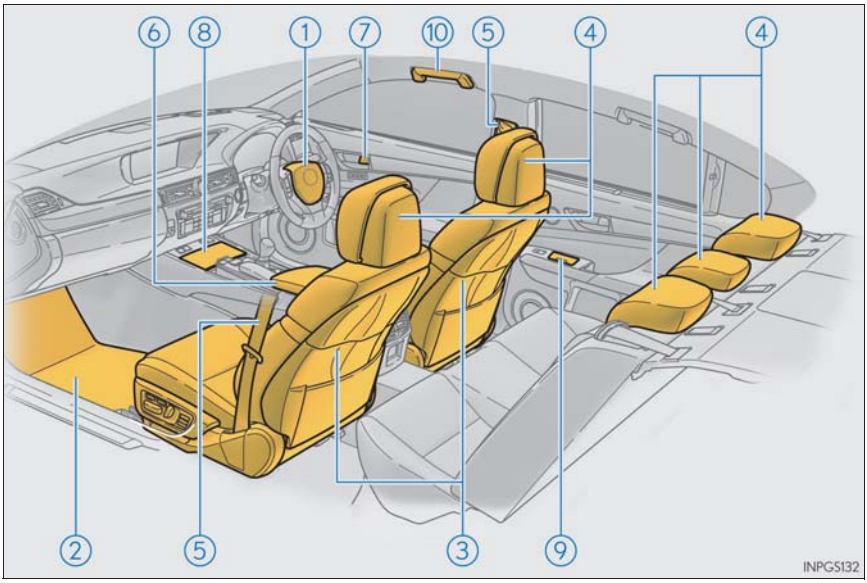
① オーディオスイッチ※
② パドルシフトスイッチ . . . . . .P. 163
③ 戻るスイッチ※
④ トークスイッチ※
⑤ 電話スイッチ※
⑥ DISP スイッチ . . . . . .P. 75
⑦ 車間距離切りかえスイッチ★ . . . . . .P. 198
⑧ クルーズコントロールスイッチ
クルーズコントロール★ . . . . . .P. 194
レーダークルーズコントロール★ . . . . . .P. 198
⑨ ハンドル位置調整スイッチ. . . . . .P. 130
⑩ LKA（レーンキーピングアシスト）スイッチ★. . . . . .P. 209



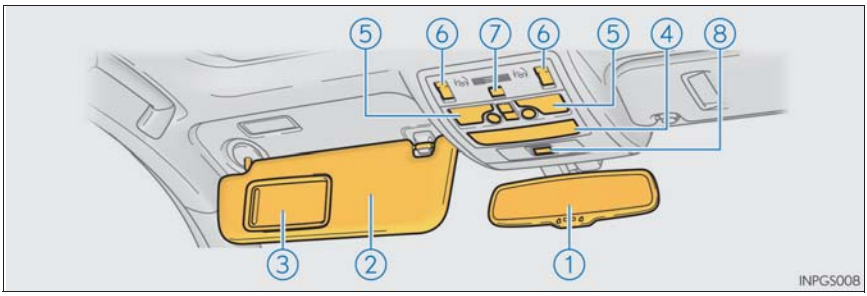
① リヤサンシェードスイッチ★ . . . . . .P. 288
② クリアランスソナースイッチ★※
③ シートヒータースイッチ★ . . . . . .P. 282
④ シートベンチレータースイッチ★ . . . . . .P. 282
⑤ ドライブモードセレクトスイッチ . . . . . .P. 218
⑥ スノーモードスイッチ . . . . . .P. 162

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■室内



① SRS エアバッグ . . . . . .P. 33
② フロアマット . . . . . .P. 24
③ フロントシート . . . . . .P. 120
④ ヘッドレスト . . . . . .P. 128
⑤ シートベルト . . . . . .P. 28
⑥ コンソールボックス . . . . . .P. 269
⑦ ロックレバー . . . . . .P. 109
⑧ カップホルダー . . . . . .P. 270
⑨ 小物入れ★ . . . . . .P. 272
灰皿★ . . . . . .P. 278
⑩ アシストグリップ . . . . . .P. 293



① インナーミラー . . . . . .P. 131
② サンバイザー※1 . . . . . .P. 276
③ バニティミラー . . . . . .P. 276
④ インテリアランプ . . . . . .P. 265
⑤ パーソナルランプ※2 . . . . . .P. 265
⑥ ムーンルーフスイッチ★ . . . . . .P. 139
⑦ 侵入センサー OFF スイッチ . . . . . .P. 61
⑧ ヘルプネットスイッチパネル※3

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 54)

※2：図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※3：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために
～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために.....26
シートベルト 28
SRS エアバッグ.....33
お子さまの安全のために.....41
子供専用シート 42
チャイルドシートの取り付け 50
排気ガスに対する注意.....56
1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム 57
オートアラーム 58

運転する前に

点検整備

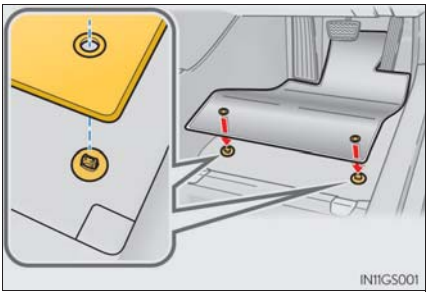
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

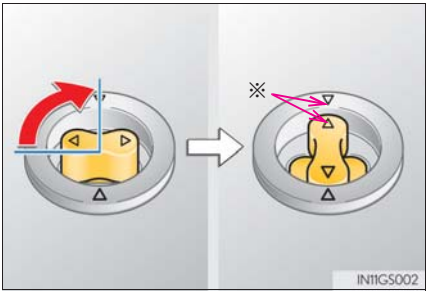
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になるほか、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

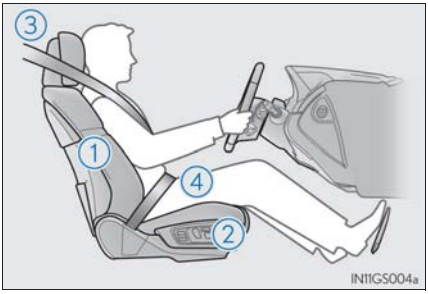
■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 120）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 120）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 128）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 131, 133）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

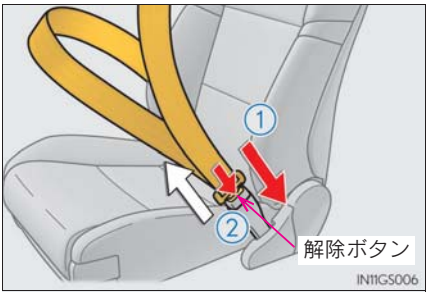
- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

着け方・はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

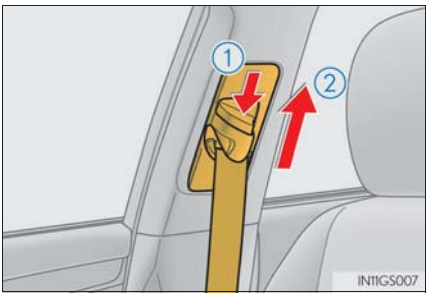


シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

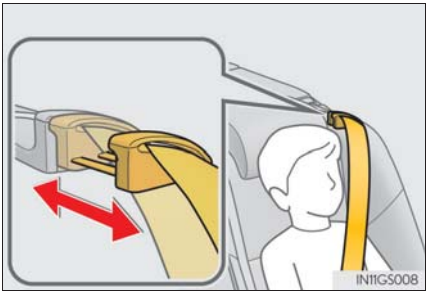
②アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）

お子さまや体の小さい方はコンフォートガイドを前方にスライドさせて肩部ベルトが首にかからないように調整してください。

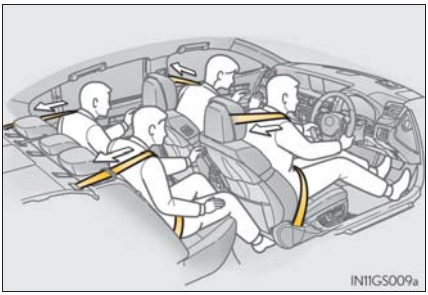


シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。（→ P. 233）

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→ P. 42)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 28)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

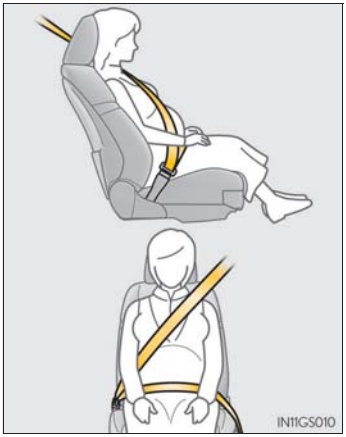
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

⚠ 警告

■お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

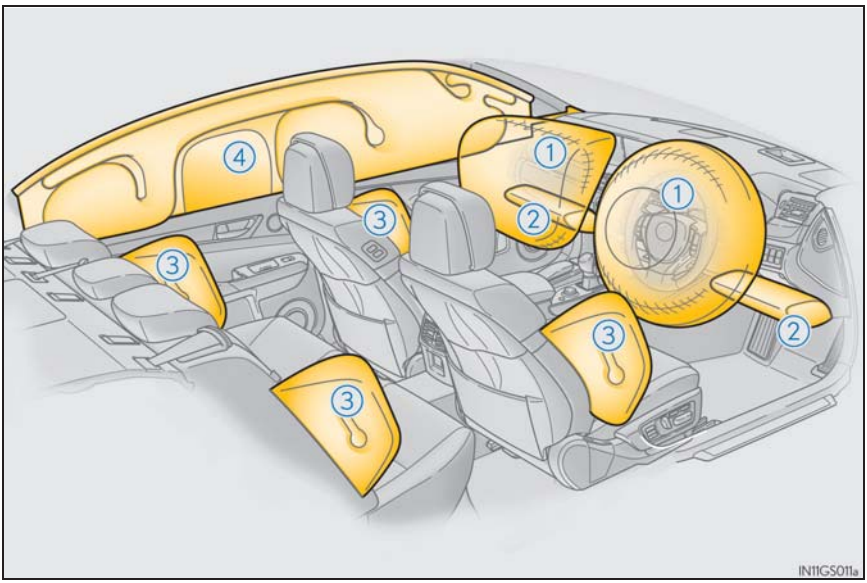
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

助手席側の SRS ニーエアバッグは、グローブボックスのドアに内蔵されています。

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

SRS リヤサイドエアバッグ★
（リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

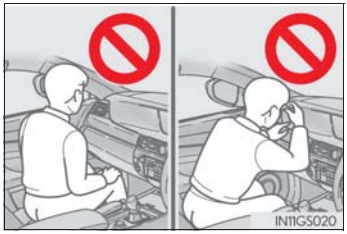
④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

⚠ 警告

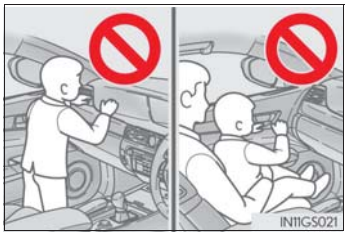
■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 42）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

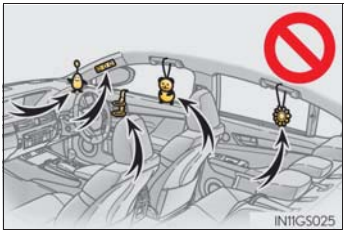
⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

●助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部・グローブボックスのドアなどには何も取り付けたり、置いたりしない

●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→ P. 406）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

●SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部・グローブボックスのドア・フロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・グローブボックス・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動するとき

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・グローブボックス・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●G-Link の契約期間内は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

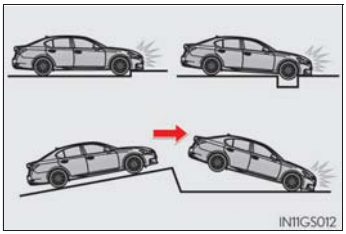
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

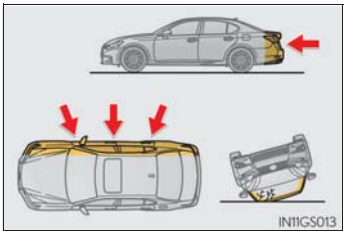
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

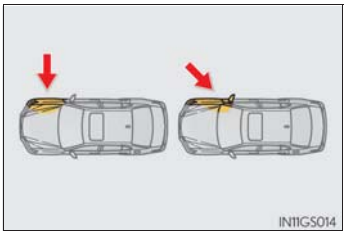
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

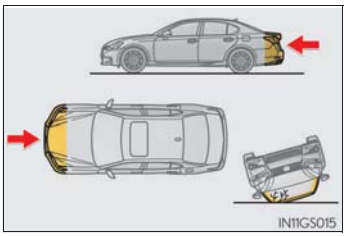
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- ●客室部分以外の側面への衝撃
- ●斜めからの衝撃



SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

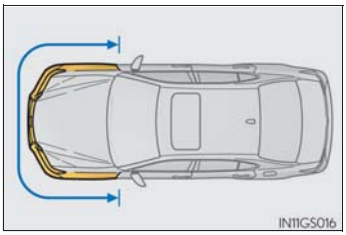
- ●前方からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転



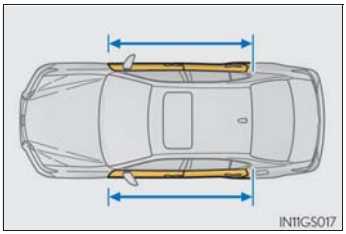
■レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

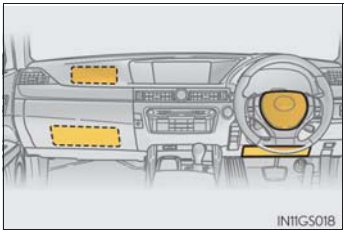
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



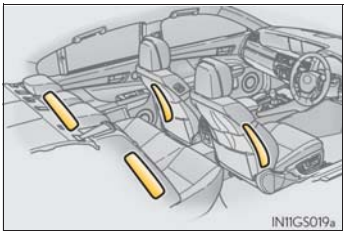
- SRSサイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



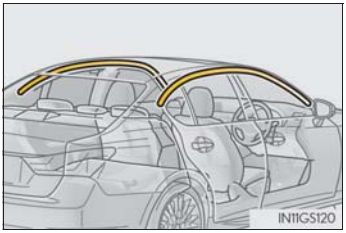
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近･インストルメントパネル下部・グローブボックスのドアが傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部･リヤピラー部･ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 42)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 110)・ウインドウロックスイッチ(→ P. 136)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 50)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0＋　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

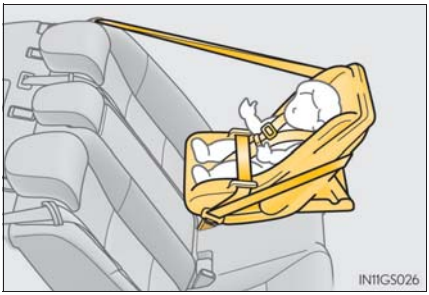
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0 ＋に相当



▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0 ＋、I に相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	U
0 ＋（13kg まで）	×	U	U
Ⅰ（9 ～ 18kg）	うしろ向き×	U ※2	U ※2
	前向き UF ※1,2		
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF ※1,2	U ※2	U ※2
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF ※1,2	U ※2	U ※2

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

※1 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。
表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 (ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0 ＋（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	×
I （9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF※, IL※
	B1	ISO/F2X	IUF※, IL※
	A	ISO/F3	IUF※, IL※

● 上表に記入する文字の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL： ISOFIX 子供専用シートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×： ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。
表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0 ＋（13kg まで）	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
I （9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 44）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→ P. 45）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順1で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0 +」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

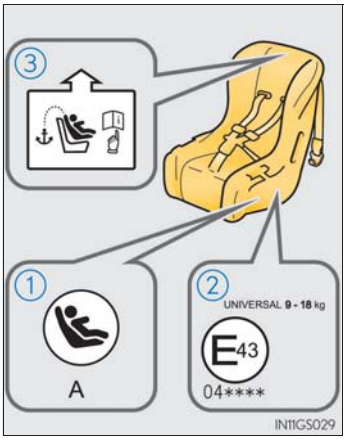
（例 2）：質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→ P. 46）で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。

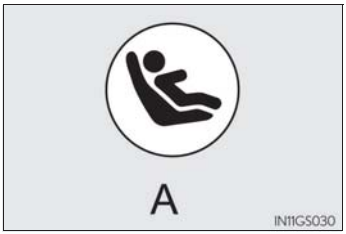
※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

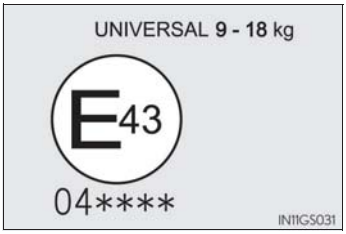
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順2で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



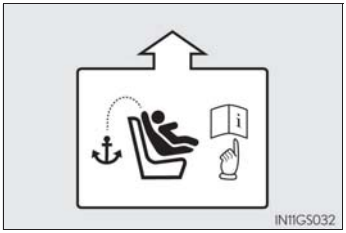
② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



③ トップテザー（→ P. 50）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



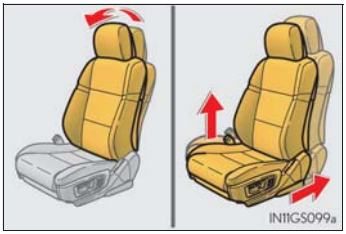
■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- シートをいちばんうしろにさげる



■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

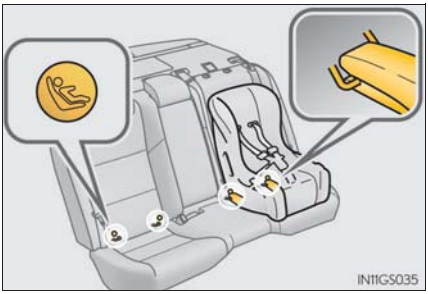
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
（→ P. 51）

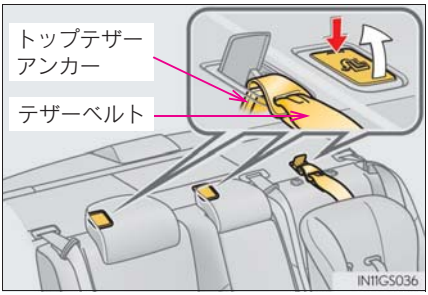
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→ P. 52）

リヤ外側シートに装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）



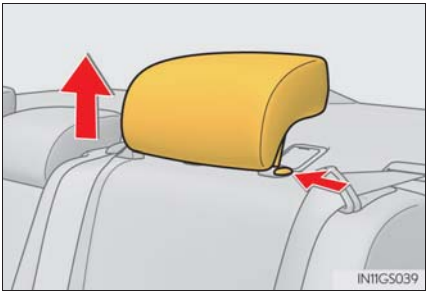
トップテザーアンカー（→ P. 52）

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。



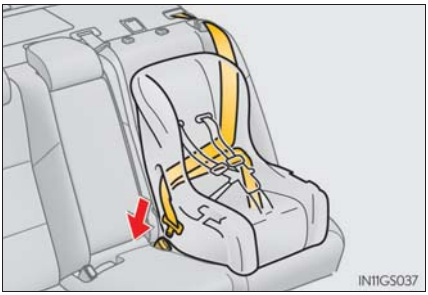
シートベルトで固定する

1 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→ P. 128）



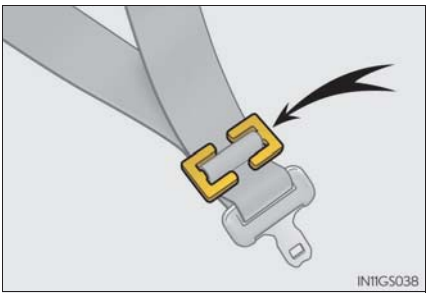
2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



3 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

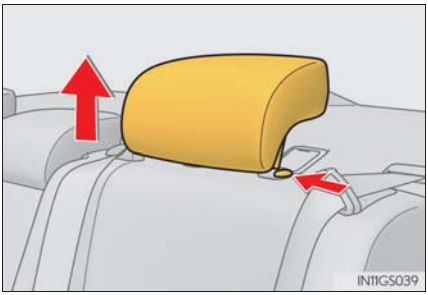
ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

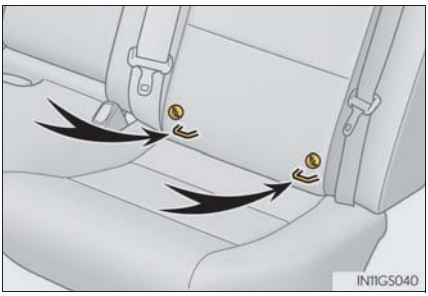
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

1 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→ P. 128）



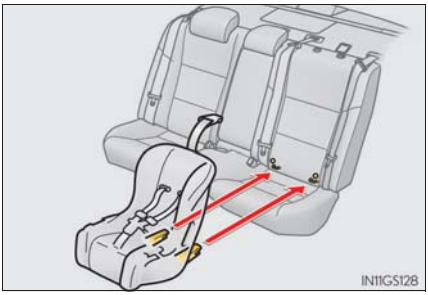
2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



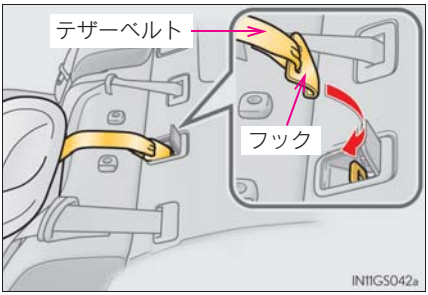
3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

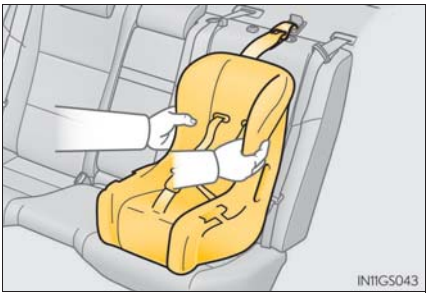


4 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



⚠ 警告

■チャイルドシートについて

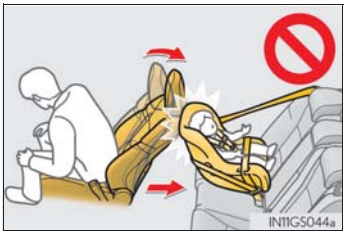
- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
  助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

エンジンイモビライザーシステム

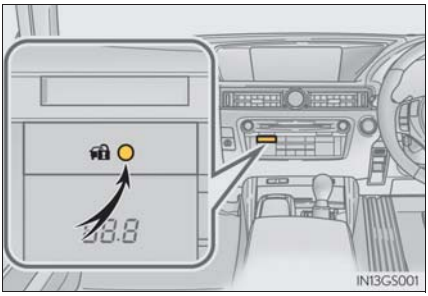
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ **メンテナンスについて**

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ **エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

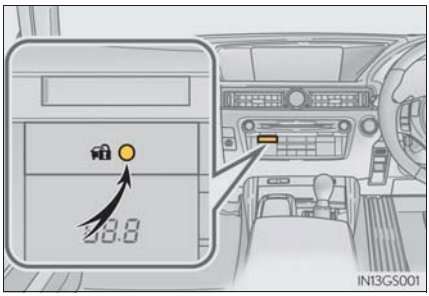
- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／ G-Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアまたはトランクを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

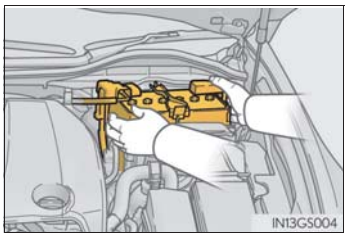
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたとき

- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき（→ P. 419）



■オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフの閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／ G-Security」を参照してください。

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したときにオートアラームが作動するよう、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 434）

⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサーとは

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→ P. 58)

■ 侵入センサーを停止する

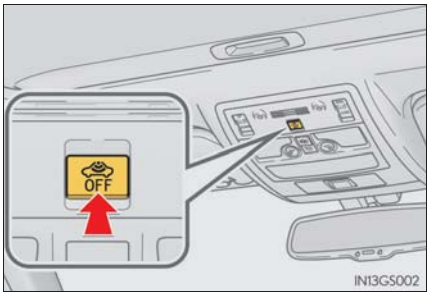
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 侵入センサーOFF スイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。



知識

■侵入センサーの作動・停止について

●侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

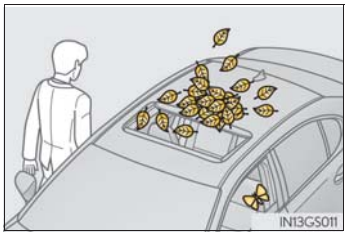
●侵入センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

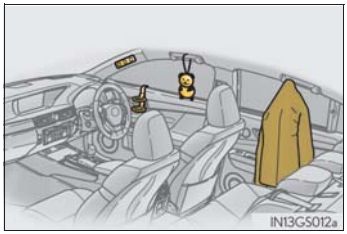
■侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合､次のものを検知することがあります。
・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
・ 室外の歩行者の動き



●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



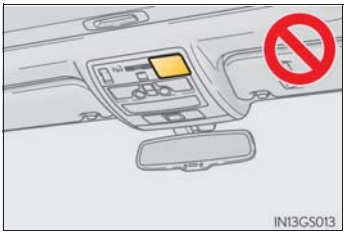
●振動や騒音が激しい場所、または連続的な衝撃や振動が車両に伝わる状況
・ 立体駐車場に駐車したとき
・ フェリー・トレーラー・列車などで車両を運搬するとき
・ ガラスに付着した氷を削り落すとき
・ 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
・ ひょう・落雷などのとき

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

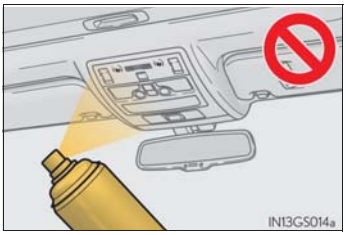
⚠ 注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。



●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

メーターの見方 2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 66
計器類 71
マルチインフォメーション
ディスプレイ 74
ヘッドアップディスプレイ 82

警告灯／表示灯

メーター、ドアミラー内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター

◆ ドアミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告灯

システム異常などを警告します。

※
ブレーキ警告灯（→ P. 358）

※
充電警告灯（→ P. 358）

※
エンジン警告灯（→ P. 359）

※
SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（→ P. 359）

※
ABS &ブレーキアシスト警告灯（→ P. 359）

※
パワーステアリング警告灯（→ P. 359）

※

（点滅）
PCS 警告灯★（→ P. 359）

※
スリップ表示灯（→ P. 360）

※

（点滅）
AFS OFF 表示灯（→ P. 360）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→ P. 360）

※
ブレーキ警告灯（→ P. 360）

半ドア警告灯（→ P. 361）

燃料残量警告灯（→ P. 361）

シートベルト非着用警告灯（→ P. 361）

※
マスターウォーニング（→ P. 361）

※
タイヤ空気圧警告灯（→ P. 361）

※ 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→ P. 167）

尾灯表示灯（→ P. 171）

ハイビーム表示灯（→ P. 171）

オートマチックハイビーム表示灯★（→ P. 174）

フロントフォグランプ表示灯（→ P. 180）

リヤフォグランプ表示灯★（→ P. 180）

クルーズコントロール表示灯★（→ P. 194）

レーダークルーズコントロール表示灯★（→ P. 198）

クルーズコントロールセット表示灯★（→ P. 194）

LKA（レーンキーピングアシスト）表示灯★（→ P. 211）

クリアランスソナー表示灯★（→別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照）

※ 1

AFS OFF 表示灯（→ P. 172）

※ 1

スリップ表示灯（→ P. 225, 231）
（点滅）

※ 1

VSC OFF 表示灯（→ P. 225）

※ 1

PCS 警告灯★（→ P. 235）
（点灯または速い点滅）

パーキングブレーキ表示灯（→ P. 168）

※ 2,3

BSM（ブラインドスポットモニター）ドアミラーインジケーター★（→ P. 242）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。

・ BSM メインスイッチが ON の状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき

・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

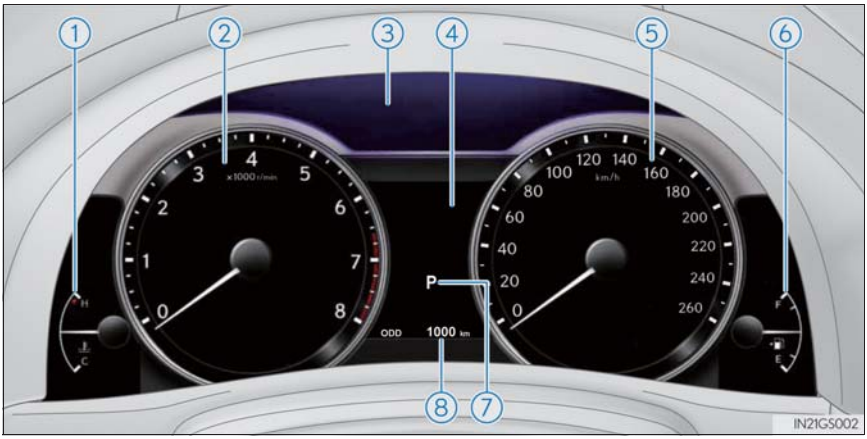
※3 ドアミラーに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

計器類



① 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

② タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

③ ECO ランプ（青）・SPORT ランプ（赤）

走行モードや運転状態によって色や明るさがかわります。（→ P. 73）

④ マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 74）

⑤ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑥ 燃料計

燃料残量を示します。

⑦ シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。（→ P. 161）

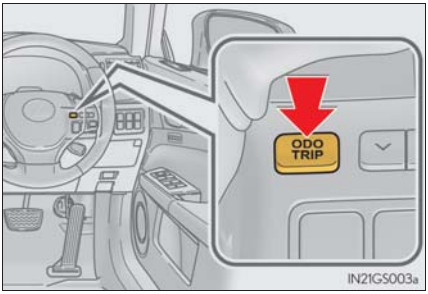
⑧ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

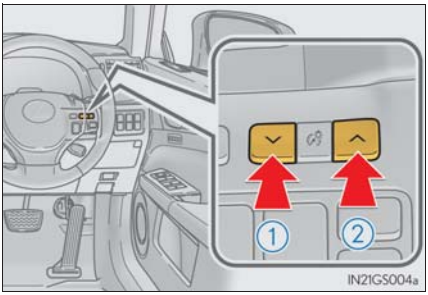
ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



インストルメントパネル照度調整スイッチ

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

① 暗くする
② 明るくする



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■インストルメントパネルの照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。
ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

■インストルメントパネル照度の減光制御について

インストルメントパネル照度は、周囲の明るさをライトセンサーで感知して自動調整されます。ただし、手動操作で照度を最も明るく、または最も暗くしたときは、インストルメントパネル照度は自動調整されません。

■ECO ランプ・SPORT ランプの点灯条件について

●走行モードがスポーツモードのときは、SPORT ランプ（赤）が点灯します。

●次の条件を満たして走行しているとき、ECO ランプ（青）が点灯します。（より環境に配慮した運転状態であるほど ECO ランプが明るくなり、非エコ運転の範囲に近付くほど暗くなります。また、エコ運転の範囲をこえた状態では消灯します[→ P. 80]。ただし、ECO モード選択時はエコ運転の範囲をこえた状態でも消灯しません）
・ シフトレバーが D にあるとき
・ パドルシフトスイッチを操作していないとき
・ 走行モードがノーマルモードまたはエコドライブモードのとき
・ 車速が約 100km/h 以下のとき

■カスタマイズ機能

ECO ランプ・SPORT ランプの点灯条件などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 436）

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

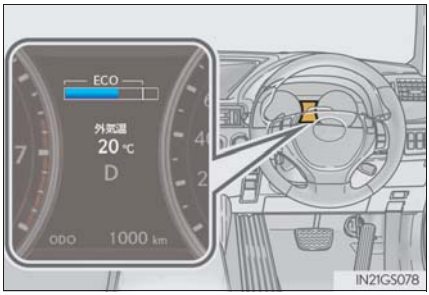
●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 421）

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。



- エコドライブインジケーター（→ P. 80）
- 外気温表示（→ P. 75）
- トリップインフォメーション（→ P. 75）

  航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。
- タイヤ空気圧表示★（→ P. 77）
- ドライブモニター（→ P. 77）
- クリアランスソナー表示★※（→別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照）
- レーダークルーズコントロール表示★※（→ P. 198）
- LKA（レーンキーピングアシスト）表示★※（→ P. 212）
- 警告メッセージ（→ P. 364）

  各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。DISP スイッチを押すと、表示を切りかえることができます。（→ P. 75）

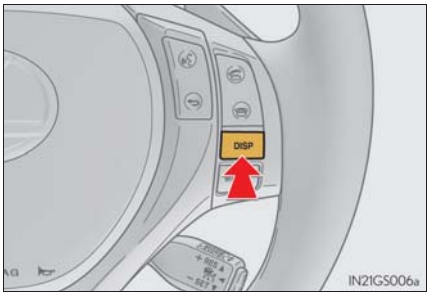
※ システム使用時に自動で表示されます。DISP スイッチを押すと、表示を切りかえることができます。（→ P. 75）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

トリップインフォメーション

■ 表示の切りかえ

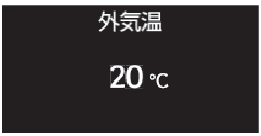
DISP スイッチを押すごとに切りかわります。



■ エコドライブインジケーター

→ P. 80

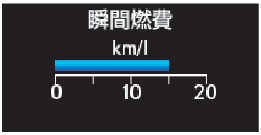
■ 外気温



外気温を表示します。

－ 40 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます。

■ 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費

給油をしてからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

・ リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ タイヤ空気圧★

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

応急用タイヤ装着車：応急用タイヤの空気圧は表示されません。

ドライブモニター

外気温・給油後平均燃費・航続可能距離のいずれかを選択して表示させることができます。
ドライブモニターに表示させると、他の走行に関する情報や自動表示される警告メッセージと同時に表示させることができます。

表示・選択方法は、「ディスプレイの設定変更」を参照してください。

ドライブモニターで表示中の情報は、トリップインフォメーション画面では表示されなくなります。

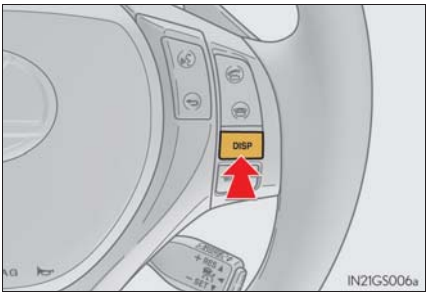
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ディスプレイの設定変更

1 停車した状態で、「カスタマイズ」画面が表示されるまでDISPスイッチを押す

2 DISP スイッチを押し続ける

設定項目の選択画面が表示されます。



3 設定変更を行う項目を選択し、DISP スイッチを押し続ける

DISP スイッチを押すたびに、カーソルが次の項目へ移動します。

目的の項目にカーソルを合わせ、DISP スイッチを押し続けると、その項目の設定画面が表示されます。

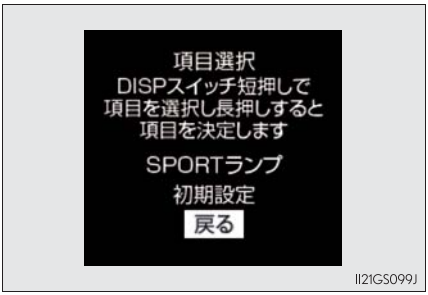
4 設定を変更する

DISP スイッチを押すとカーソルが移動します。

目的の項目にカーソルを合わせ、DISP スイッチを押し続けると、設定が変更され、手順 **3** の画面にもどります。

5 「戻る」を選択して DISP スイッチを押し続ける

手順 **1** の画面にもどります。
(「戻る」の確定操作を行わなくても、数秒後に自動で、手順 **1** の画面にもどります)



知識

■システムチェック表示

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき、「SYSTEM CHECK」と表示されます。

■エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

① 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点滅します。
このとき、ECO ランプは消灯します。

② エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチを操作しているとき
- 走行モードがノーマルモードまたはエコドライブモード以外のとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■カスタマイズ画面について

次の場合はカスタマイズ画面が自動的に終了します。

- カスタマイズ画面表示中に警告メッセージが表示されたとき
- カスタマイズ画面表示中に走行し始めたとき

■タイヤ空気圧表示について★

●エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。

●電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは“---”と表示されることがあります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 436）

⚠ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ヘッドアップディスプレイ★

機能概要

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウに現在の車速やナビゲーションシステムのルート案内表示などの情報を表示することができます。

① 表示位置調整スイッチ

② 表示輝度調整スイッチ

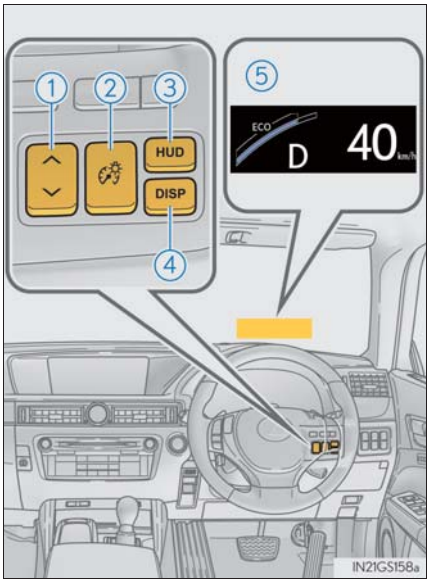
表示輝度はお好みの明るさに調節することができます。

③ HUD（ヘッドアップディスプレイ）メインスイッチ

④ DISP スイッチ

⑤ ヘッドアップディスプレイ

表示輝度は、周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ヘッドアップディスプレイの表示内容

- 車速表示
- タコメーター
- シフトポジション・シフトレンジ表示 (→ P. 161)

  選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。
- エコドライブインジケーター
- レーン表示 (→ P. 86)

  交差点にさしかかったとき、自動で車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。
- ルート案内表示 (→ P. 86)

  ナビゲーションシステムで、ルート案内を実行しているとき使用できます。

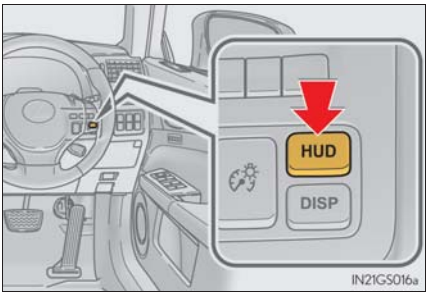
  交差点に近付いたとき、ヘッドアップディスプレイにルート案内（進行方向の矢印）が表示されます。
- 歩行者検知表示（ナイトビュー）★ (→ P. 87)
- 車線逸脱警報表示
  （LKA［レーンキーピングアシスト］）★ (→ P. 374)
- 接近警報表示（レーダークルーズコントロール）★ (→ P. 373)
- 衝突警告表示（プリクラッシュセーフティシステム）★ (→ P. 374)

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ヘッドアップディスプレイの切りかえ

■ HUD メインスイッチ

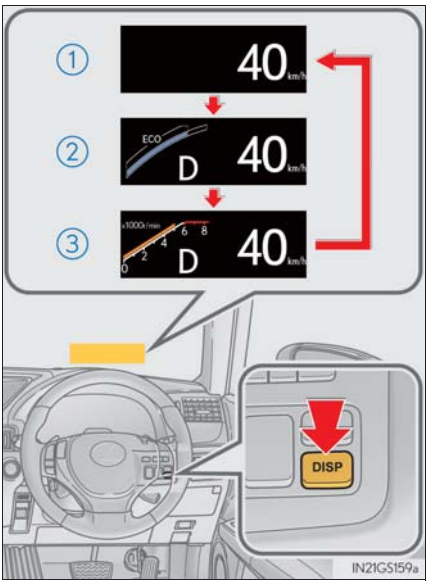
ヘッドアップディスプレイのON／OFF を切りかえる



■ DISP スイッチ

押すたびに車速以外の表示が次のように切りかわります。

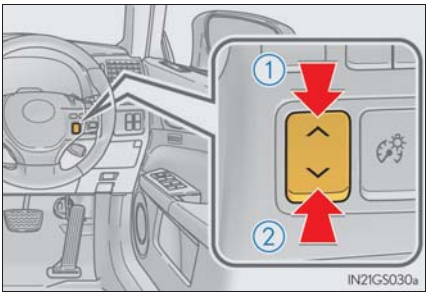
① 非表示
② エコドライブインジケーター
③ タコメーター



見やすく調整する

■ 表示位置の調整

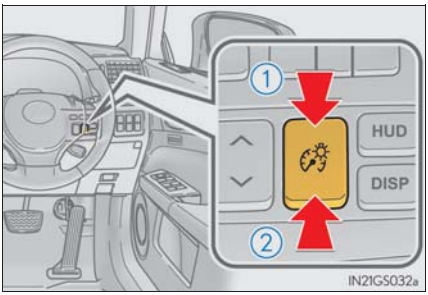
① 表示位置を上げる
② 表示位置を下げる



■ 表示輝度の調整

表示輝度は 9 段階あり、周囲の明るさに応じて自動で調整されますが、手動で調整することもできます。

① 明るくする
② 暗くする



ルート案内表示

交差点に接近すると、進路方向を矢印で指示します。

交差点から約 150m※1 まで接近すると、案内表示が開始され、交差点までの残距離※2 が表示されます。

※1 レーン表示機能が OFF のときは、約 300m 手前から、案内表示が開始されます。

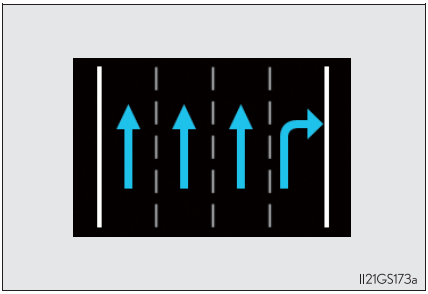
※2 50m ずつ減算表示され、交差点を通過すると表示が消えます。

レーン表示

交差点にさしかかると交差点の手前（約 300m 以内）では、レーン表示（レーンと車速表示）に自動的に切りかわります。

交差点の約 300m 手前から表示がはじまり、交差点を通過するとレーン表示が消え、もとの表示にもどります。

必要に応じて、レーン表示の表示／非表示を切りかえることができます。



ナイトビュー歩行者検知表示

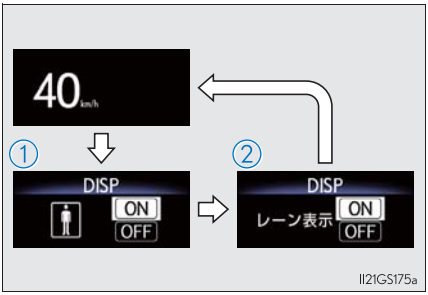
映像から歩行者を検知すると自動的にナイトビュー歩行者検知表示が表示されます。(→ P. 249)

表示のカスタマイズ

次の画面の表示／非表示を切りかえることができます。

① ナイトビュー歩行者検知表示★

② レーン表示



■ 設定変更のしかた

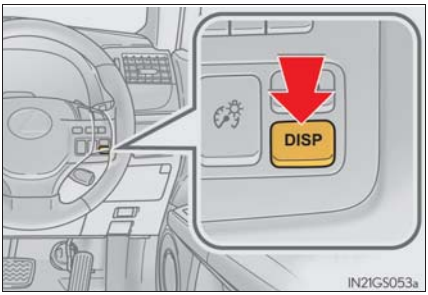
1 画面がかわるまで DISP スイッチを押し続け、設定を変更したい項目が表示されるまでくり返す

ヘッドアップディスプレイが ON で車速が 8km/h 未満のときに操作ができます。

2 DISP スイッチを押して ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。

スイッチを操作しないまましばらく放置した場合は、自動で設定が終了します。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■ヘッドアップディスプレイについて

- サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。
- ヘッドアップディスプレイを OFF にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度イグニッション ON モードにしても、ヘッドアップディスプレイは OFF のままです。
- エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき、ヘッドアップディスプレイが ON になっているとスタートアップムービーが表示されます。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

ヘッドアップディスプレイのカスタマイズ設定がリセットされます。

■レーン表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現状の標識、道路形状に従って走行してください。

⚠ 警告

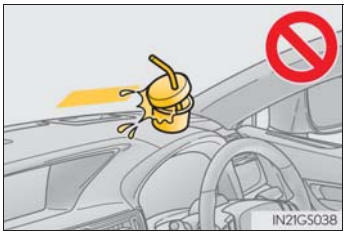
■ヘッドアップディスプレイ使用上の留意点

映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。
- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。



3-1. キー
キー.....92
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
スマートエントリー＆
スタートシステム.....97
ワイヤレスリモコン.....107
ドア.....109
トランク.....113
3-3. シートの調整
フロントシート.....120
パワーイージーアクセスシステム／
ポジションメモリー／
メモリーコール機能.....123
ヘッドレスト.....128
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル.....130
インナーミラー.....131
ドアミラー.....133
3-5. ドアガラス・
ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ.....136
ムーンルーフ.....139

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

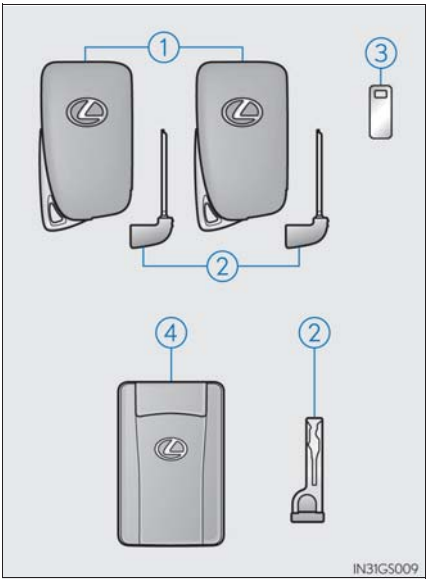
① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 97）
- ワイヤレス機能の作動 （→ P. 107）

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

④ カードキー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 97）

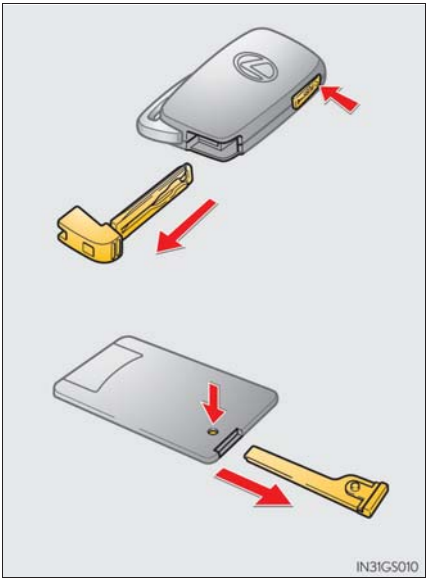


メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 416)



知識

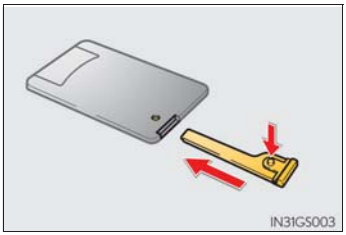
■カードキーについて

●カードキーは非防水です。

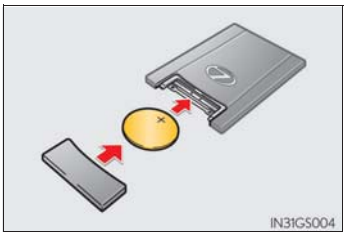
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF にして、グローブボックス・アームレストドアを施錠します。(→ P. 114, 268, 291)
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は不用意に分解しないでください。
  分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

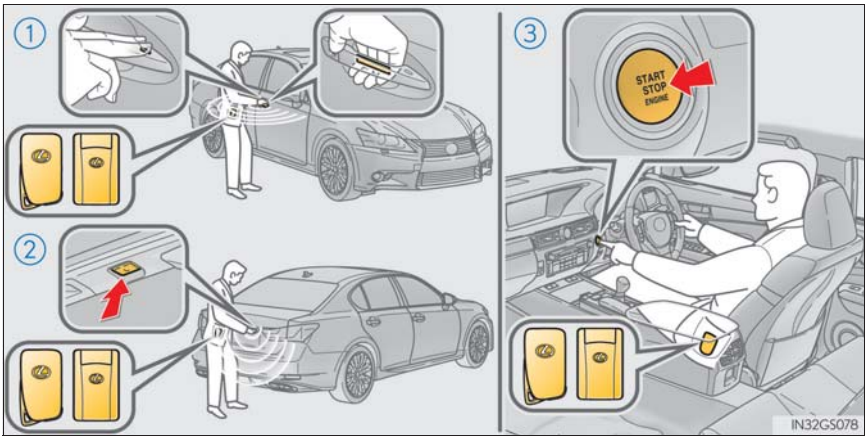
■ **カードキーの取り扱いについて**

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
  水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
  無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
  ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
  ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
  ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

スマートエントリー＆スタートシステム

機能概要

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）



① ドアを解錠・施錠する　（→ P. 98）

② トランクを開ける　（→ P. 98）

③ エンジンを始動する（→ P. 153）

知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■解錠操作のセキュリティ機能

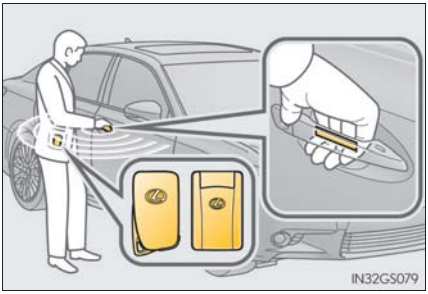
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

ドアの解錠・施錠

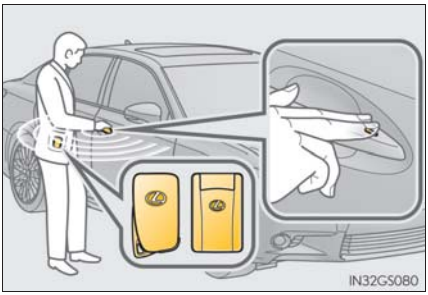
ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



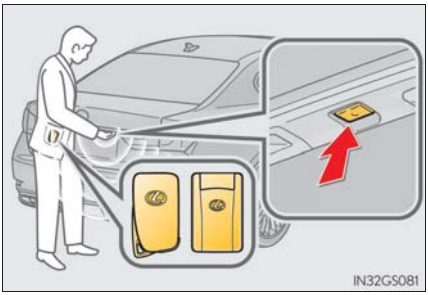
ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する



トランクを開ける

スイッチを押す

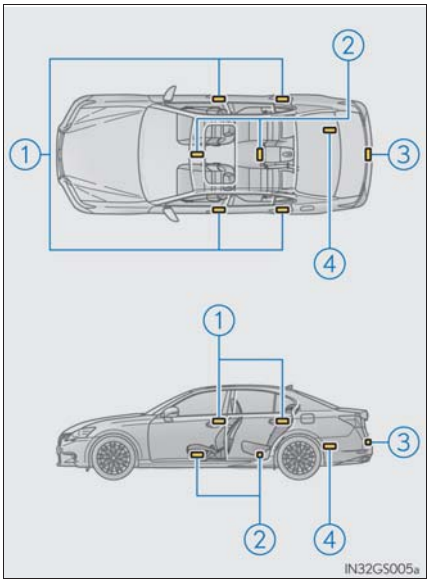
パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。



アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

① 車外アンテナ
② 車内アンテナ
③ トランク外アンテナ
④ トランク内アンテナ



■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

: ドアの施錠・解錠時

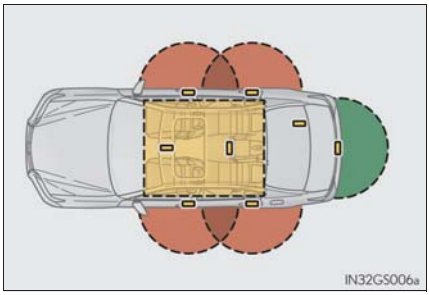
ドアハンドルから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

: トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

: エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

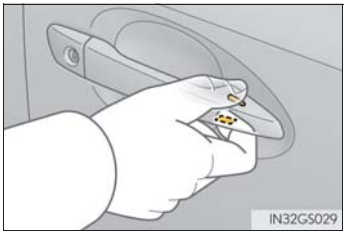
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



知識

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→ P. 379)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる
車内から“ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（エンジンスイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入センサーを停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→ P. 61）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に、 または のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。(ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→ P. 58)

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・ 5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー& スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 416）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・ 金属製の財布やかばん
  - ・ 小銭
  - ・ カイロ
  - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
  - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
  - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
  - ・ デジタルオーディオプレーヤー
  - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
・電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 102）

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
・電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 102）

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。(→ P. 434)

■オートアラームについて

スマートエントリー＆スタートシステムで施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 58)

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 100)

●トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（応急用タイヤ★付近、トランク内側の端)、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など)、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。(→ P. 115)

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 416

●エンジンの始動：→ P. 417

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は１～２年です。(カードキーの電池は１年半程度で消耗します)

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→ P. 383)

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
・ スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・ 作動範囲が狭くなった
・ 電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため､次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・ TV
・ パソコン
・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・ 電気スタンド
・ 電磁調理器

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■電池が切れたとき

→ P. 319

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 434）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 107, 416）
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 417
- エンジンの停止：→ P. 154

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 99）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

機能概要

ドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。

① 全ドアを施錠する

② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める（押し続ける）※

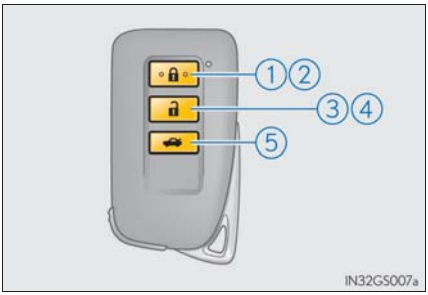
③ 全ドアを解錠する

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く（押し続ける）※

⑤ トランクを開ける（押し続ける）

パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 434）



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■作動の合図

ドア：
ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：
ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ★：
ブザーで知らせます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■解錠操作のセキュリティ機能

→ P. 97

■オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 58）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 102

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 416

■電池の消耗について

→ P. 105

■電池が切れたとき

→ P. 319

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■カスタマイズ機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 434）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ドア

ドアの解錠／施錠

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

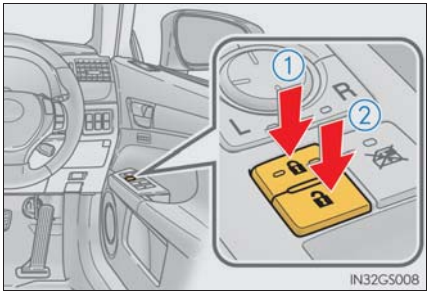
→ P. 97

◆ ワイヤレス機能

→ P. 107

◆ ドアロックスイッチ

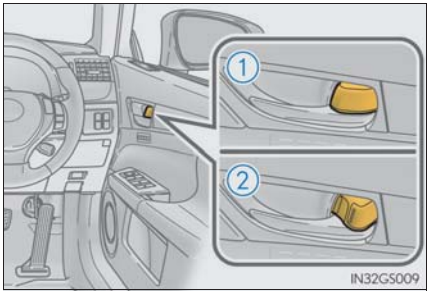
① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める
エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

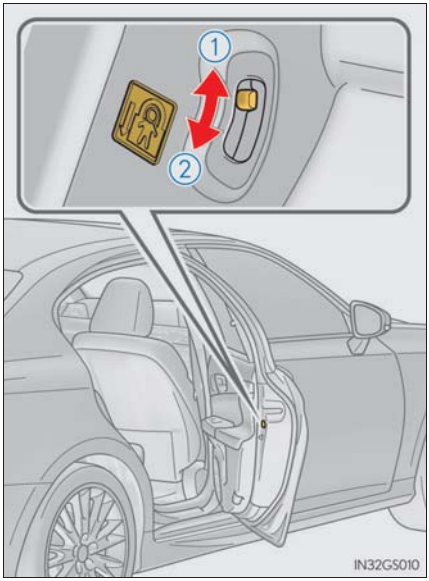
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 434 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中にシフトレバーをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーをPに入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 416)

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 434)

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

トランク

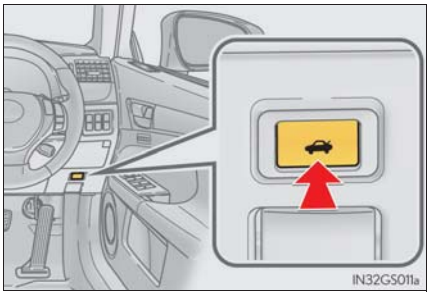
トランクオープナーやトランクオープンスイッチ、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

パワートランクリッド装着車は、トランククローザーで閉めることもできます。

車内からトランクを開ける

トランクオープナースイッチを押す

パワートランクリッド装着車は、自動で全開します。

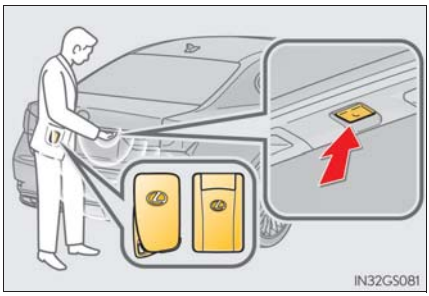


車外からトランクを開ける

■ トランクオープンスイッチ

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

車内のロックレバー以外ですべてのドアが解錠されているときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。



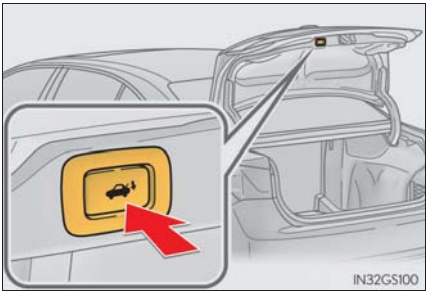
■ ワイヤレスリモコン

→ P. 107

トランククローザー（パワートランクリッド装着車）

スイッチを押すとブザーが鳴り、トランクが自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクは再び開きます。



トランクオープナーを一時的に無効にする

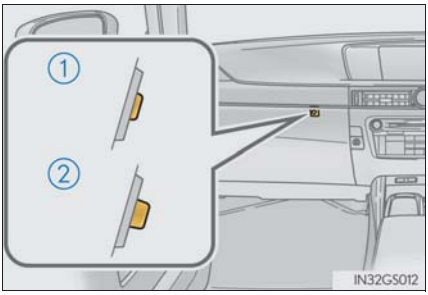
トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

① ON

② OFF

ワイヤレスリモコン・トランクオープンスイッチでもトランクを開けられなくなります。



知識

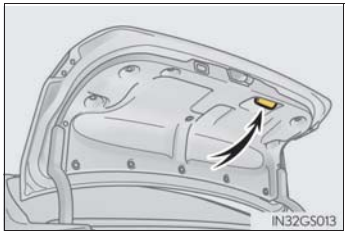
■トランクランプ

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

■トランクグリップ

トランクを閉めるときにお使いください。

引き下げるときは、トランクグリップを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。



■イージークローザー（パワートランクリッド装着車）

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

- エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■過負荷防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドの上に無理な力がかかっていると作動しません。

■落下防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■挟み込み防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクが閉まる途中でトランクリッドが異物を挟むと、作動が停止して開きます。

■メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→ P. 416）

■駐車場などでキーを預けるときは

→ P. 94

■カスタマイズ機能

トランクの解錠設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 437）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
  完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
  不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

IN32GS014

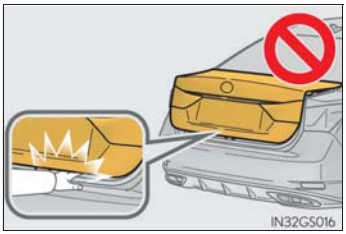
- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

IN32GS015

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■イージークローザーについて（パワートランクリッド装着車）

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。
また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。


IN32GS016

⚠ 警告

■パワートランクリッドについて（パワートランクリッド装着車）

パワートランクリッドの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜した場所では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いた後にトランクリッドが突然閉じる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切りかわり、トランクリッドが突然閉じるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・ エンジン停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■挟み込み防止機能（パワートランクリッド装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ **イージークローザーの故障を防ぐために（パワートランクリッド装着車）**

イージークローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

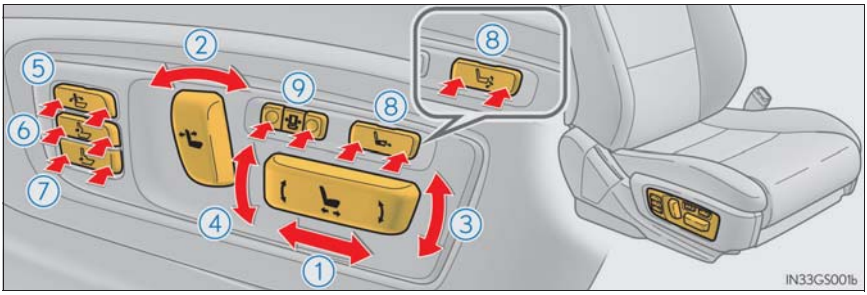
■ **パワートランクリッドの故障を防ぐために（パワートランクリッド装着車）**

- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や荷物などが乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

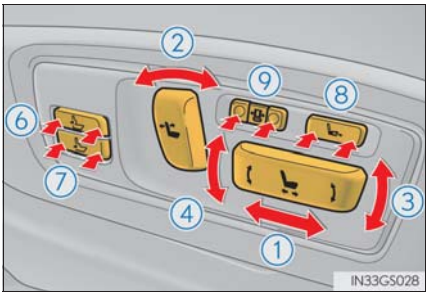
フロントシート

調整のしかた

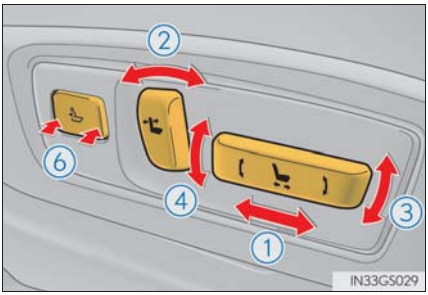
▶ A タイプ



▶ B タイプ



▶ C タイプ

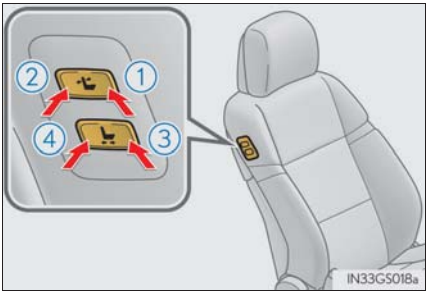


① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ クッション前端の上下調整
④ クッション後端の上下調整
⑤ 背もたれ上部角度調整★
⑥ 腰部位置調整
（ランバーサポート）
⑦ 腰部位置調整
（ペルビックサポート）★
⑧ クッションの長さ調整★／オットマン角度調整（助手席のみ）★
⑨ 背もたれ側部角度調整
（サイドサポート）★

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

助手席側面スイッチ★

① 背もたれを前に傾ける
② 背もたれをうしろに傾ける
③ シートを前方に動かす
④ シートを後方に動かす



知識

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。また、助手席ドアを開けると、助手席シートが動きます。(→ P. 123)

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席からの助手席操作について（助手席側面スイッチ装着車）

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。
足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■前後調整やオットマン★の操作をするとき

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 警告

■オットマンの使用について（オットマン装着車）

- 走行中は角度調整をしないでください。
  急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オットマン部分に座らないでください。
  シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オットマンの上には絶対に乗らないでください。
  オットマンが破損し、転倒などして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。
- 格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■運転席からの助手席操作について（助手席側面スイッチ装着車）

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

■オットマンの故障を防ぐために（オットマン装着車）

- 足元のスペースを確保しオットマンの作動を妨げないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを乗せないでください。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

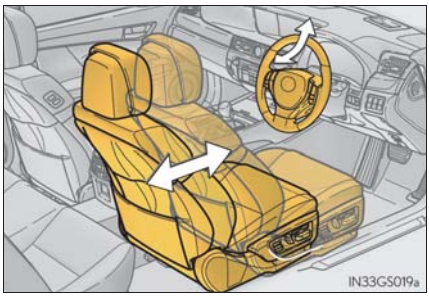
パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者・助手席乗員が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

■ 運転席

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

・ シフトレバーを P に入れる
・ エンジンスイッチを OFF にする
・ シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

・ エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにする
・ シートベルトを着用する

■ 助手席★

腰部位置（ランバーサポート）やオットマン★などが調整されていた場合、停車中に助手席ドアを開けると、調整前の状態にもどります。

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 434）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

■ 登録方法

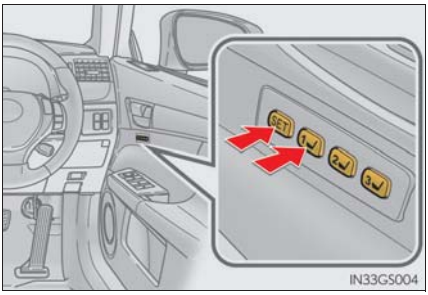
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



助手席側★を登録するときは、助手席をお好みの位置に調整し、助手席側のボタンで手順 4 の操作を行うと、助手席のシート位置が登録できます。

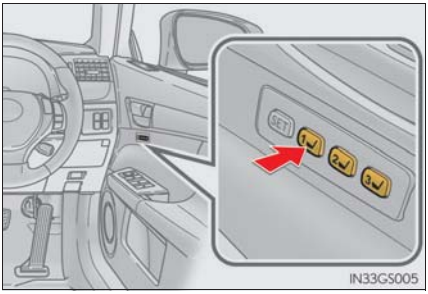
■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

助手席オットマン装着車：
オットマンは、上方向には作動しません。呼び出すときの位置より下に登録されている場合のみ作動します。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 ～ 3 のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 120）

▶背もたれ側部角度調整（サイドサポート）非装着車

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

▶背もたれ側部角度調整（サイドサポート）装着車

すべての位置が登録できます。

■オットマン★の自動調整

ポジションの呼び出し時、インストルメントパネル周辺にクッションの先端が接触しそうになると、自動でオットマンが格納されるよう調整します。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席側：
運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

助手席側★：
助手席ドアを開けて 180 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

メモリーコール機能（運転席のみ）

お好みのドライビングポジションに電子キー（カードキーを含む）を登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

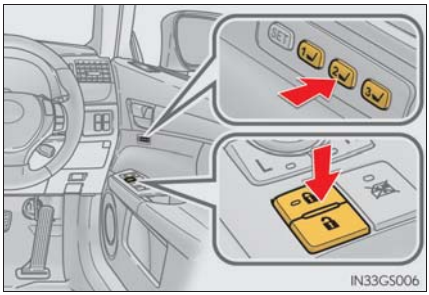
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

■ **解除方法**

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ **メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて**

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ **カスタマイズ機能**

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 434）

警告

■ **シート調整時の警告**

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

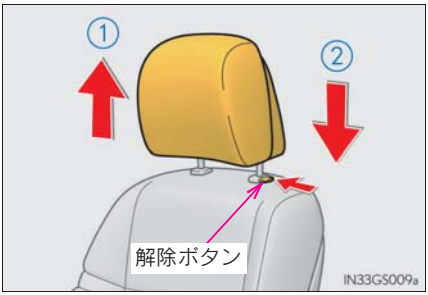
フロント席

上下調整

① 上げる

② 下げる

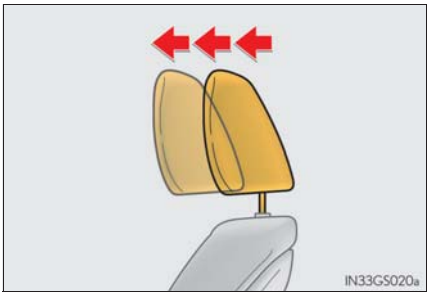
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



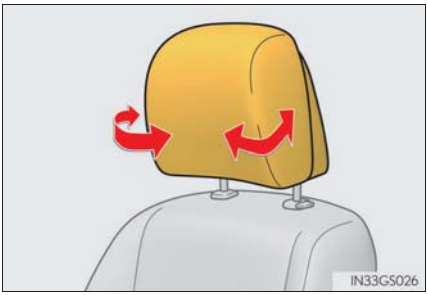
▶ 前後調整

ヘッドレストの前後位置を、4 段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。



▶ サイドサポート調整

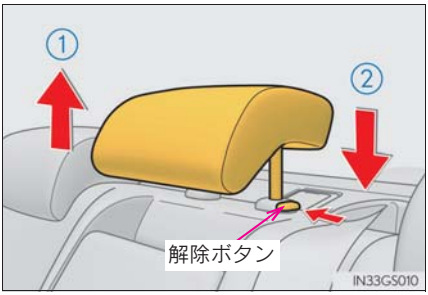


リヤ席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



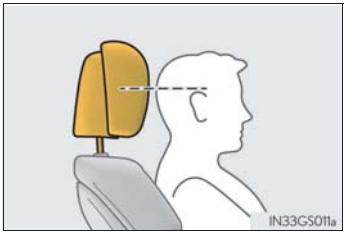
知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

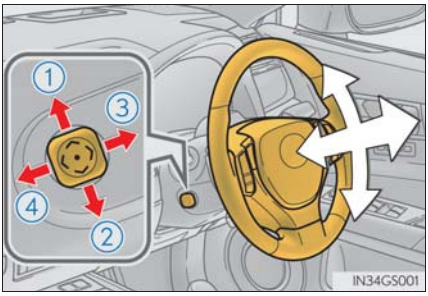
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

① 上方へ
② 下方へ
③ 手前へ
④ 前方へ



知識

■ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 123)

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→ P. 123)

⚠ 警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

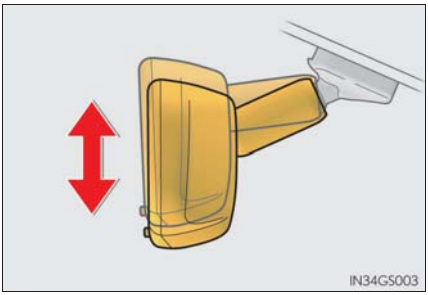
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

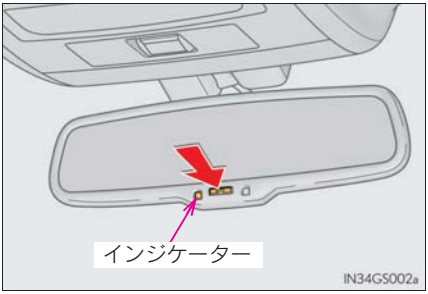


自動防眩機能

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON ／ OFF

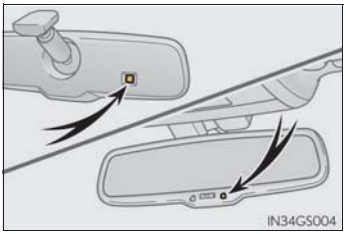
ON のときはインジケーターが点灯します。
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■インナーミラーの調整について（LKA［レーンキーピングアシスト］装着車）

白線認識用カメラの前にかからないようにしてください。
LKA の誤作動につながるおそれがあります。

ドアミラー

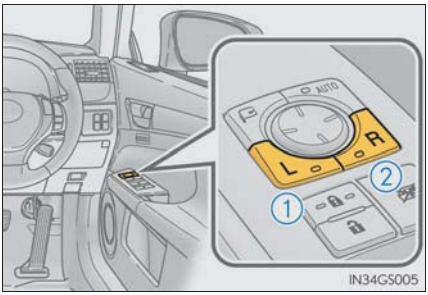
調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右

もう一度押すと、選択が解除されます。



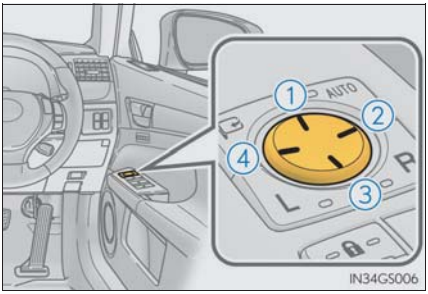
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

④ 左

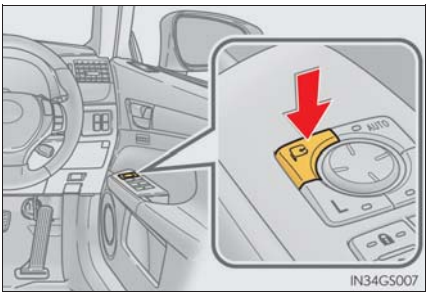


ドアミラーを格納する

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



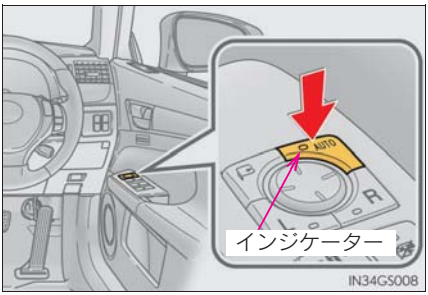
■ オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーターが点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■リバース連動機能

- ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。
- リバース連動機能の作動中に鏡面調整スイッチを操作すると、鏡面の角度を変更・記憶することができ、以降のリバース連動作動時には調整後の角度で作動します。ただし、リバース連動機能が作動していないときの鏡面角度を基準として鏡面が動くため、機能の非作動時に鏡面を調整すると、リバース連動作動時の鏡面角度もかわります。

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。
（別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください）

■ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。
（→ P. 123）

■自動防眩機能

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。（→ P. 131）

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

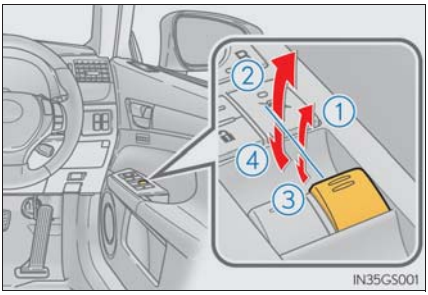
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

① 閉める
② 自動全閉※
③ 開ける
④ 自動全開※

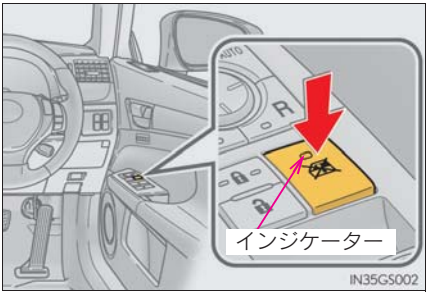
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、インジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ドアガラスを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 416）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 107）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 434）

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 59）

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 434）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

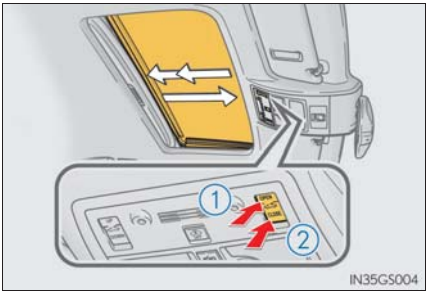
ムーンルーフを開閉する

① ムーンルーフを開く※

全開の手前の位置で止まります。(風切り音の低減機能)
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

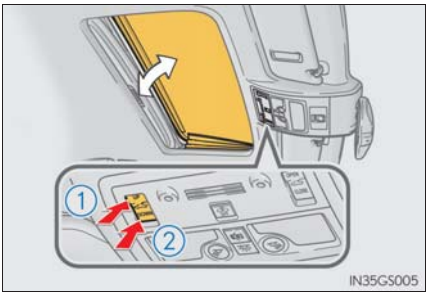


チルトアップ／ダウンする

① チルトアップ※

② チルトダウン※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 416）

●ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 107）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 420）

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 59）

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 434）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
  ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

4-1. 運転にあたって
運転にあたって..... 144
荷物を積むときの注意..... 152
4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ..... 153
オートマチックトランスミッション..... 161
方向指示レバー..... 167
パーキングブレーキ..... 168
ホーン（警音器）..... 170
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ..... 171
オートマチックハイビーム..... 174
フォグランプスイッチ..... 180
ワイパー＆ウォッシャー..... 182
ヘッドランプクリーナー..... 188
4-4. 給油のしかた
給油口の開け方..... 189
4-5. 運転支援装置について
クルーズコントロール.....194
レーダークルーズコントロール.....198
LKA（レーンキーピングアシスト）.....209
ドライブモードセレクトスイッチ.....218
運転を補助する装置.....223
ヒルスタートアシストコントロール.....231
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....233
BSM（ブラインドスポットモニター）.....242
ナイトビュー（歩行者検知機能付）.....247
4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転.....258

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 153

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 161）

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する（→ P. 168）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 161）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 シフトレバーを P にする（→ P. 161）

3 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→ P. 168）

4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。（→ P. 231）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●スポーツモードを選択しているとき（→ P. 218）

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 352 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 162）

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
  アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

⚠ 注意

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 385, 395 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー（AWD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- ●燃料が入った容器
- ●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- ●次の場所には荷物を積まないでください。
  - ・運転席足元
  - ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・パッケージトレイ
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
  - ・ナビゲーション画面の前
- ●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- ●荷物を積み過ぎないでください。
- ●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

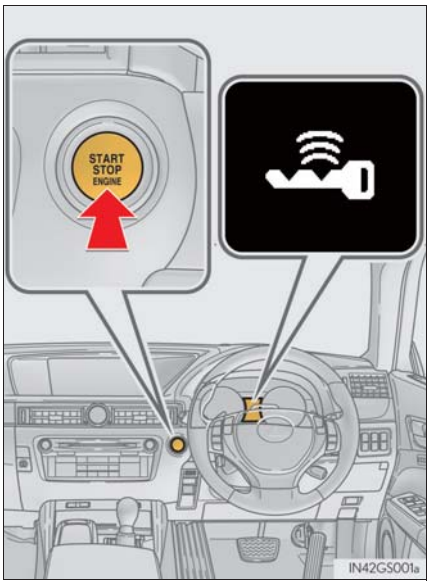
表示されないと、エンジンはかかりません。

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 シフトレバーを P の位置にする

3 パーキングブレーキをかける（→ P. 168）

4 エンジンスイッチを押す

5 ブレーキペダルから足を離した状態にしてマルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチ切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

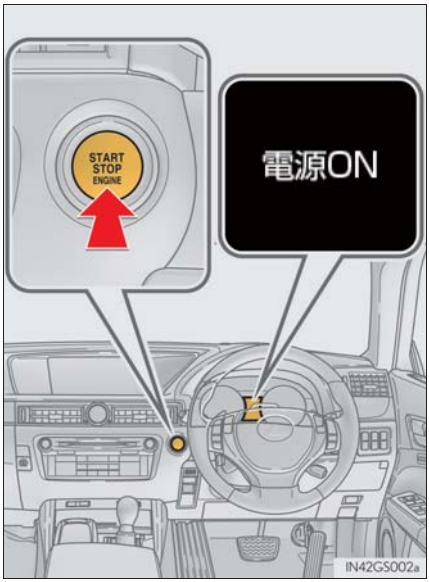
アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。

イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」と「電源を OFF して下さい」が交互に表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」と「電源を OFF して下さい」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 105

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 102

■ご留意いただきたいこと

→ P. 103

■エンジンが始動しないとき

●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります(→ P. 57)。レクサス販売店へご連絡ください。

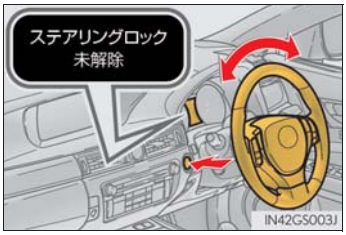
●シフトレバーがＰの位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、Ｐ 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに「始動時はＰレンジに入れて下さい」が表示されます。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ステアリングロック未解除」が表示されます。シフトレバーがP の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステムチェック」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 319

■エンジンスイッチの操作について

- エンジンスイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 437

⚠ 警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 352)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

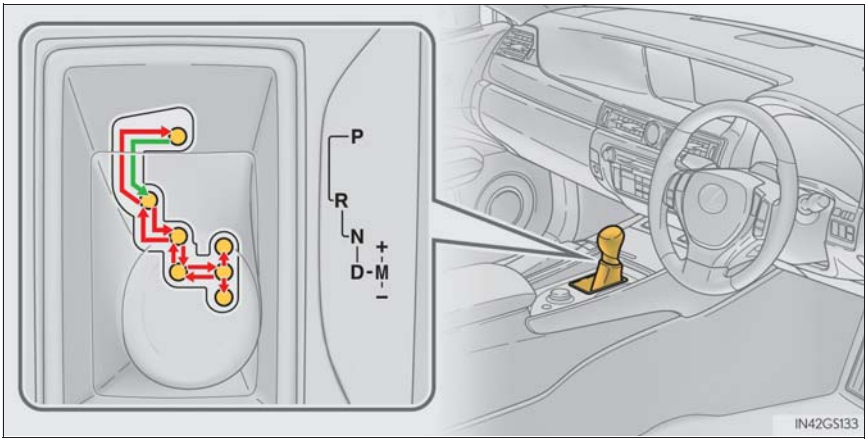
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
M	M モード走行※2（→ P. 164）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

走行モードの選択

■ スポーツモード・エコドライブモード

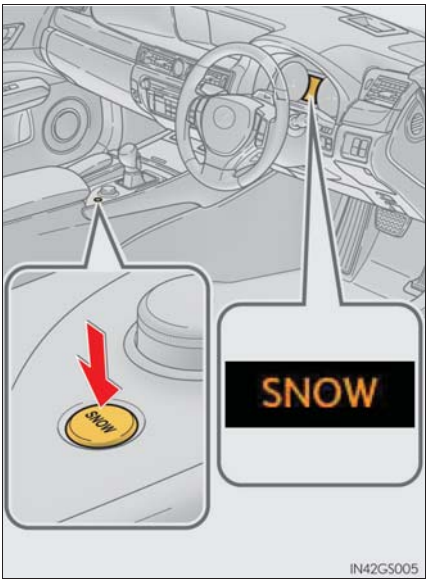
→ P. 218

■ スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに選択してください。

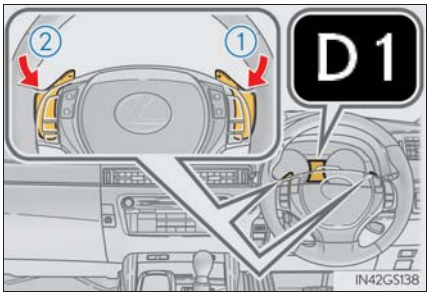
スノーモードスイッチを押す

通常走行モードにもどすときはスイッチをもう一度押します。



D ポジションでのレンジ選択

パドルシフトスイッチの“−”または“+”側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。
パドルシフトスイッチの”−”を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンシフトします。パドルシフトスイッチの“+”を操作したときは、現在のギヤ段より１つ上のレンジにシフトアップします。
レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。



① シフトアップ

② シフトダウン

６速オートマチック車：

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

８速オートマチック車：

D1 から D8 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。

■ シフトレンジ機能

メーター表示		機能
６速オートマチック車	８速オートマチック車	
D2 ～ D6	D2 ～ D8	スピードや走行条件に応じて、1 速から選択したギヤまで自動的にかわります。
D1		ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

M モードでのギヤ段選択

シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

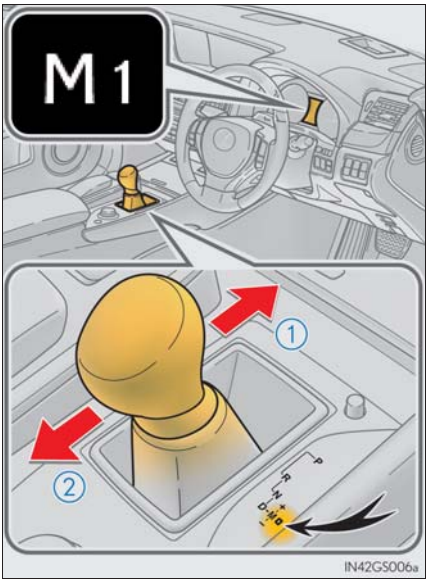
シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

6速オートマチック車：

M1 から M6 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

8速オートマチック車：

M1 から M8 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。



M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- オートマチックトランスミッションフルードやエンジン冷却水が低温の場合
- オートマチックトランスミッションフルードが高温の場合
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に達した場合

次の場合はシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しても変速しません。

- マルチインフォメーションディスプレイに「滑りやすい路面のため 1 速にできません」と表示されている場合
- 車速が低い場合（シフトアップのみ）

知識

■D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

●停車したとき

●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●シフトレバーを D 以外にしたとき

■オートマチックトランスミッションの保護

トランスミッションフルード、エンジンオイルの温度が高くなると、一時的に保護制御が働く場合があります。マルチインフォメーションディスプレイに「AT 油温異常」が表示されたら、レクサス販売店で点検を受けてください。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

→ P. 413

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき自動的に作動します（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

NAVI・AI-SHIFT：
ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

操作のしかた

レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

① 左折

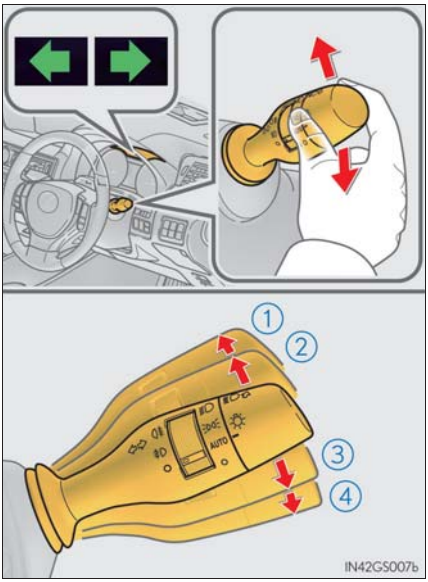
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の②または③の位置に操作してください。レバーを①または④の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

■カスタマイズ機能

方向指示灯の停止方法の設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

マニュアルモード

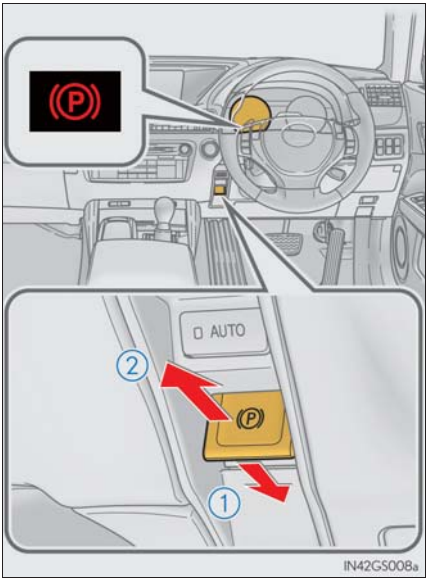
① パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。(→ P. 169)

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯が消灯します。ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



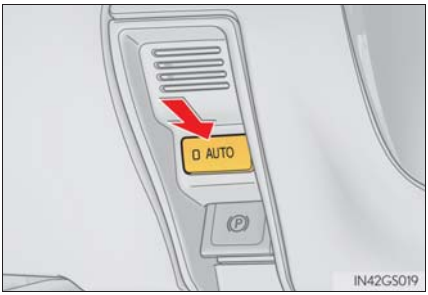
オートモード

シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。

オートマチックモードの ON ／ OFF を切りかえる

- P から P 以外にしたとき
  パーキングブレーキが解除されます。
- P 以外から P にしたとき
  パーキングブレーキがかかります。

  シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



知識

■パーキングブレーキの作動

●エンジンスイッチがイグニッションONモード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

●短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
イグニッション ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッション ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■システムに異常があるとき

警告灯や警告メッセージが点灯または点滅します。（→ P. 360, 368）
また、状況によってはパーキングブレーキ表示灯が点滅します。

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 259

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

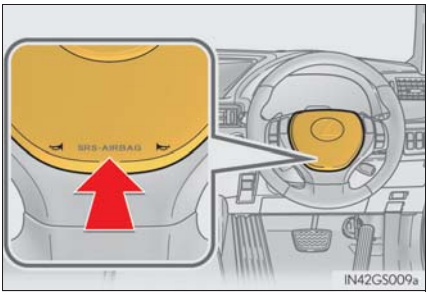
安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

手動解除用ツールを使用して、パーキングブレーキを完全に解除してください。（→ P. 414）
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

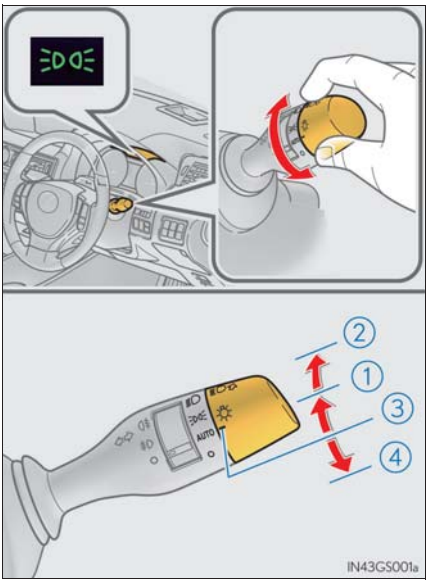
操作のしかた

① 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

② 上記ランプとヘッドランプを点灯

③ AUTO ヘッドランプ・LED デイライト・車幅灯などを自動点灯・消灯
（エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき）

④ 消灯



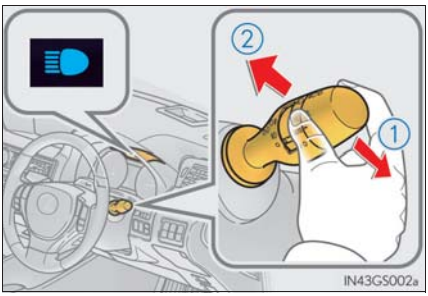
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



AFS（アダプティブフロントライティングシステム）

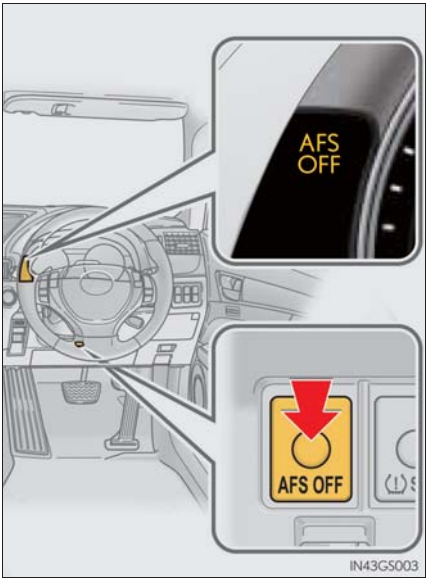
AFS は、交差点やカーブで優れた視認性を確保するため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには

AFS OFF スイッチを押す

AFS を OFF にすると AFS OFF 表示灯が点灯します。



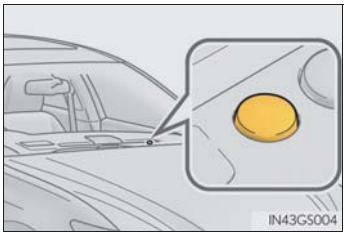
知識

■LED デイライト

日中走行時にお車が他の車両の運転手から見えやすくするために、エンジンを始動しパーキングブレーキを解除すると LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します。)
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはOFFにして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 または の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■AFS OFF 表示灯が点滅したとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 439)

注意

■バッテリーあがりを防止するために

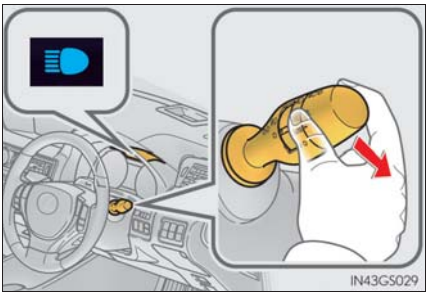
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、インナーミラーに設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

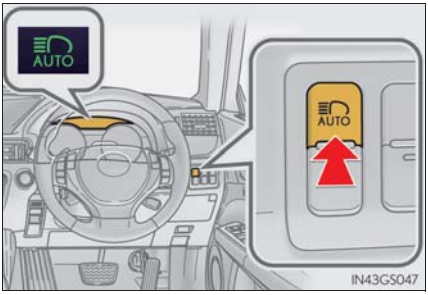
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチをAUTOまたは にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

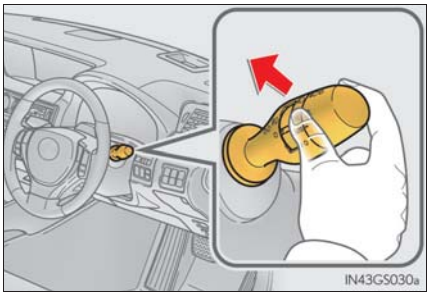
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

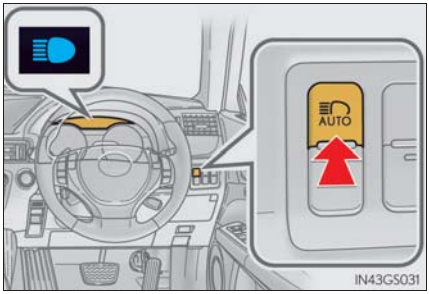


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■オートマチックハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・ 他車が前方を横切ったとき
・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
・ 対向車が離れた車線から接近してきたとき
・ 対向車または先行車が無灯火のとき

●対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・ 対向車または先行車のランプの明るさ
・ 対向車または先行車の動きや向き
・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
・ 対向車または先行車が二輪車のとき
・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・ 乗車人数や荷物の量

●オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・インナーミラーやカメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき

⚠警告

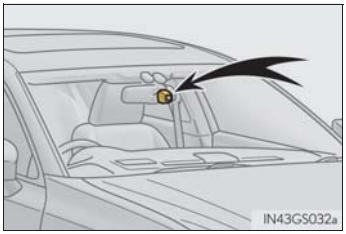
■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

⚠ 注意

■ **オートマチックハイビームを正しく作動させるために**

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- カメラセンサーのレンズにふれない
- インナーミラーやカメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーやカメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- インナーミラーやカメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- レクサス純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない
- レクサス純正品以外のヘッドランプに交換しない

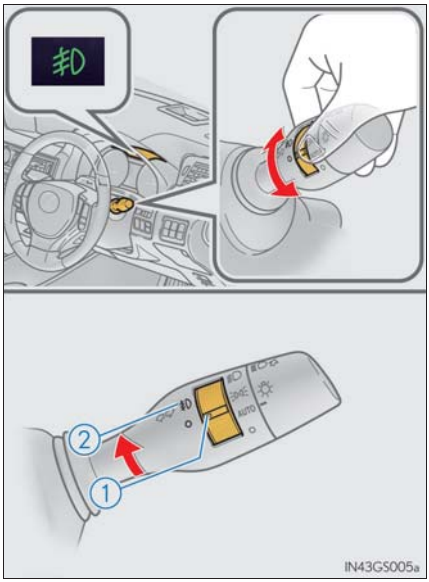
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ

① O 消灯する

② 点灯する



▶ フロント＆リヤフォグランプスイッチ

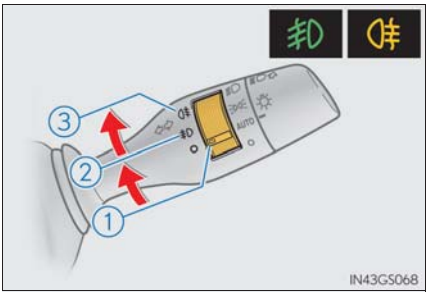
① O 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ：
リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー

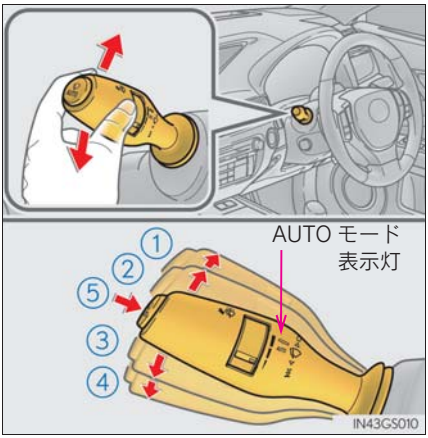
操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

① ○ レバーを 2 段階上げる
② △ レバーを 1 段階上げる
③ ▽ レバーを 1 段階下げる
④ ▽▽ レバーを 2 段階下げる
⑤ AUTO AUTOモードON／OFFスイッチ

雨滴量や車速に応じてワイパーが作動する AUTO モードの ON ／ OFF を切りかえます。

AUTO モードのときは、AUTO モード表示灯が点灯します。



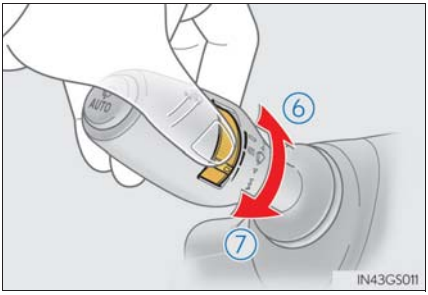
操作前の状態＼操作		○	△	▽	▽▽
停止		一時作動	一時作動	低速作動	高速作動
低速作動		停止	停止	高速作動	高速作動
高速作動		停止	低速作動	変化なし	変化なし
AUTO モード	間欠作動	停止	一時作動※1	低速作動※2	高速作動※2
	連続作動		変化なし		

※1：一時作動後、AUTO モードにもどります。
※2：AUTO モードは解除されます。

AUTO モードのときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

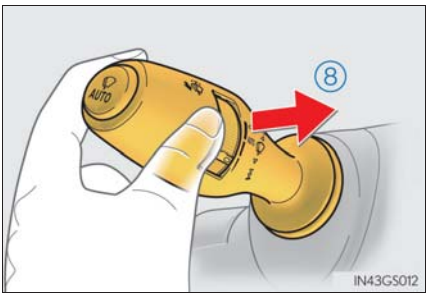
⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

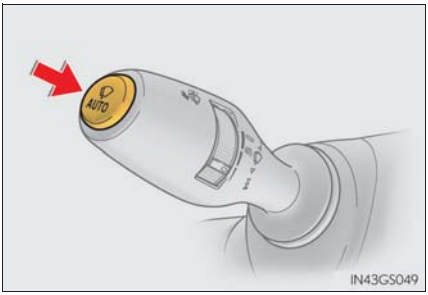


間欠時間調整式ワイパーへの切りかえ

雨滴量や車速に関係なく間欠作動する間欠時間調整式ワイパーとして使用することができます。停車中で、ワイパーが停止状態のときに切りかえることができます。AUTO モードのとき、または間欠作動中は切りかえることができません。

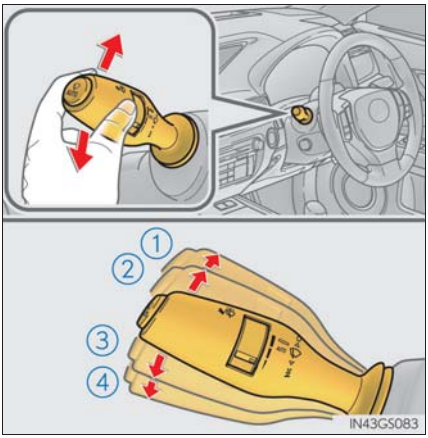
AUTO ボタンを AUTO モード表示灯の点滅が終わるまで押し続ける

もう一度 AUTO モード表示灯の点滅が終わるまで押し続けるともとにもどります。



■ 間欠時間調整式ワイパーの作動

① ○ レバーを 2 段階上げる
② △ レバーを 1 段階上げる
③ ▽ レバーを 1 段階下げる
④ ▽▽ レバーを 2 段階下げる

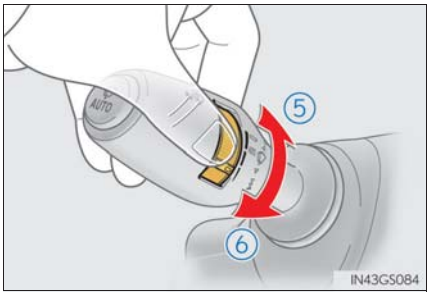


操作前の状態＼操作	○	△	▽	▽▽
停止	一時作動	一時作動	間欠作動	高速作動
間欠作動	停止	停止	低速作動	高速作動
低速作動	停止	間欠作動	高速作動	高速作動
高速作動	停止	低速作動	変化なし	変化なし

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

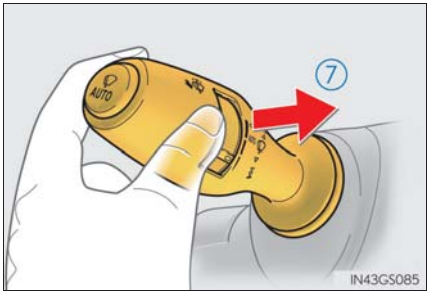
⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。
ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■車速による作動への影響

- 停車中は間欠時間調整式ワイパーの間欠時間がかわります。
- 低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

  光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

- エンジンスイッチがイグニッションONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が85℃以上または－30℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ワイパーが一時作動しているとき

AUTO を押しても AUTO モードに切りかわりません。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

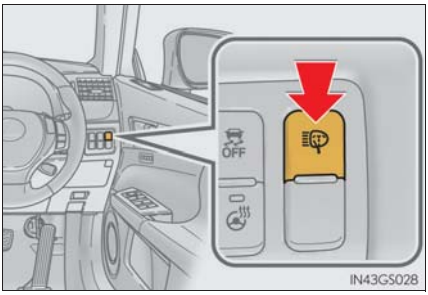
■ワイパーアームを立てるとき（寒冷地仕様車）

ワイパーを積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。(→ P. 259)
停止位置を切りかえずに立てると、ワイパーアームとボンネットが干渉し、傷が付くおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー★

ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。

スイッチを押してヘッドランプを洗浄する



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードでヘッドランプが点灯しているとき

注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチ OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■給油するとき

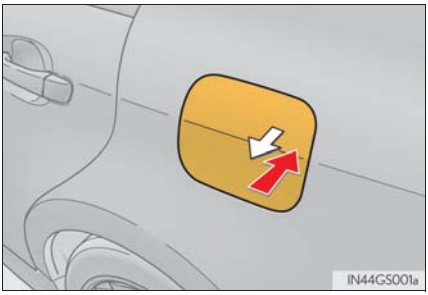
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

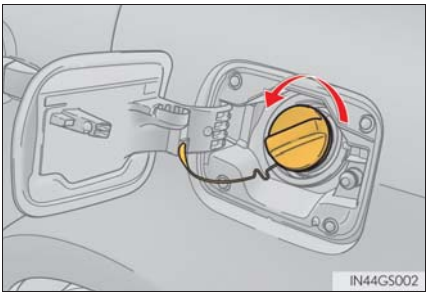
給油口の開け方

1 ドアが解錠された状態で、給油口の車両後端の中央部分を押す

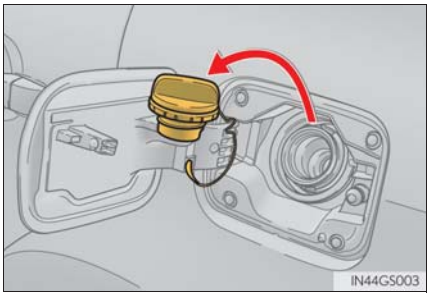
“カチッ”と音がするまで押し、手を離すと給油口が少し開きます。その後、手で全開にします。



2 キャップをゆっくりまわして開ける



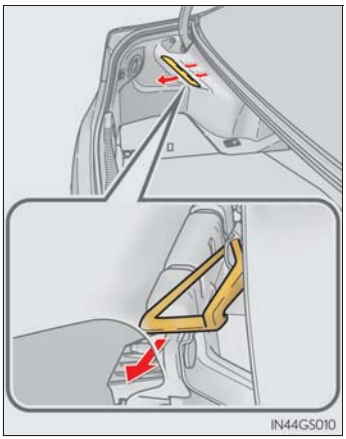
3 キャップをホルダーにはめ込む



知識

■給油口の車両後端の中央部分を押しても給油口が開かないときは

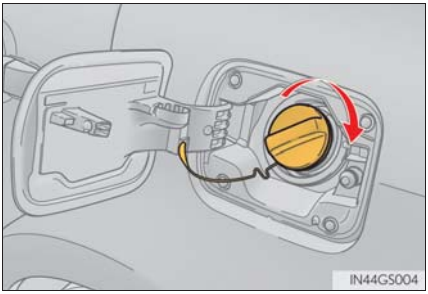
トランク内のカバーを取りはずし、レバーを引きます。



給油口の閉め方

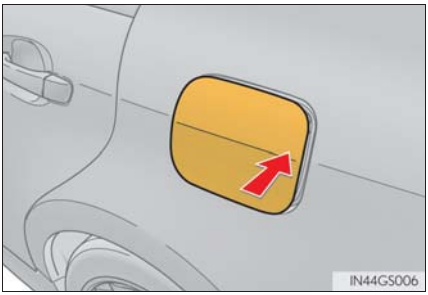
1 キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



2 給油口を閉め、給油口の車両後端の中央部分を“カチッ”と音がするまで押す

ドアを施錠すると給油口も施錠されます。



知識

■給油口の施錠について

次の場合、ドアが施錠されても給油口は施錠されません。

- 室内のドアロックスイッチで施錠したとき
- シフト操作連動ドアロックまたは車速感応オートドアロックで施錠されたとき (→ P. 111)
- ドアを施錠したあとに給油口を閉めたとき

警告

■**キャップが正常に閉まらないとき**

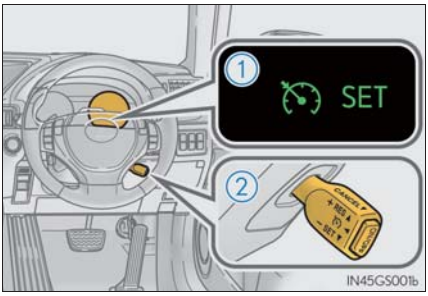
必ずレクサス販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① 表示灯
② クルーズコントロールスイッチ

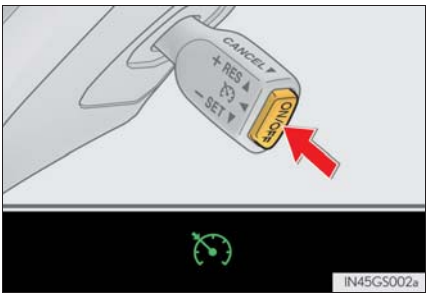


速度を設定する

1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

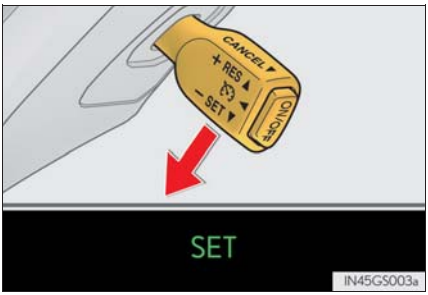
OFF にするには、再度スイッチを押します。



2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

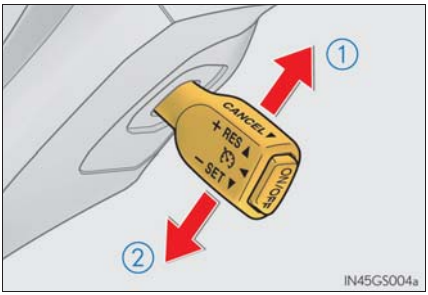
レバーを離したときの速度で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。



① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

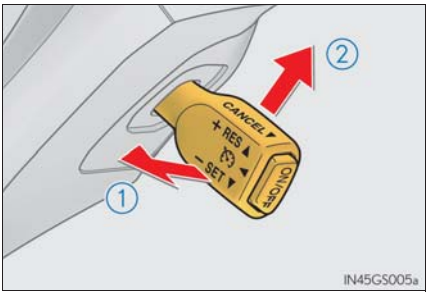
調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：
レバー操作するごとに約 1.6km/h

調整：
レバーを保持するあいだ

定速走行を解除する・復帰させる



① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●パドルシフトで D の 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。

●車速は約 40 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズシステムチェック」が表示されたとき

ON/OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

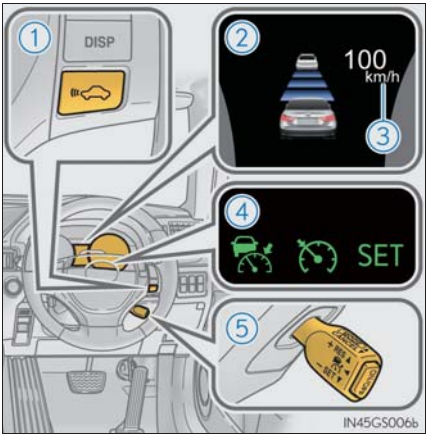
レーダークルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

① 車間距離切りかえスイッチ
② マルチインフォメーションディスプレイ
③ 設定速度
④ 表示灯
⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ



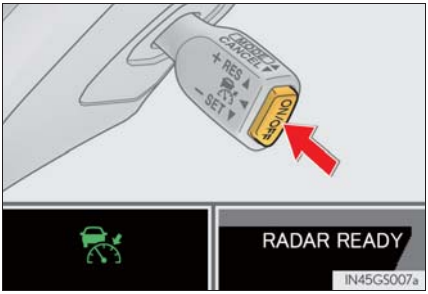
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

車速を設定する

1 ON/OFF スイッチを押してシステムを ON にする

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

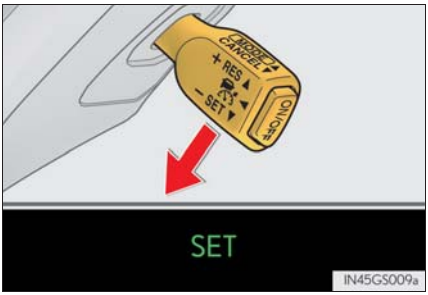
OFF にするには、再度スイッチを押します。



2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。



設定速度をかえる

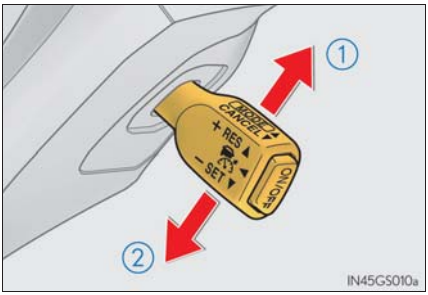
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます。：
微調整：レバー操作するごとに約 1km/h
調整：レバーを保持するあいだ、0.75 秒ごとに約 5km/h

定速制御モード（→ P. 203）では、設定速度は、次のとおりに増減されます。：
微調整：レバー操作するごとに約 1.6km/h
調整：レバーを保持するあいだ

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

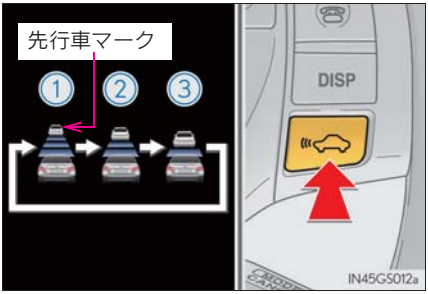
① 長い

② 中間

③ 短い

エンジンスイッチがイグニッションONモードになるたびに①に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（速度 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御を解除する・復帰させる

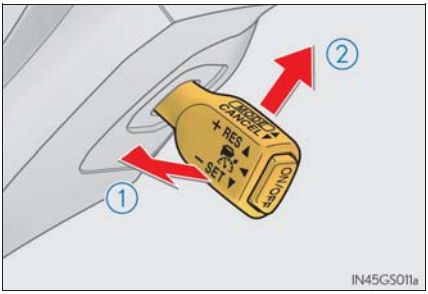
① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。

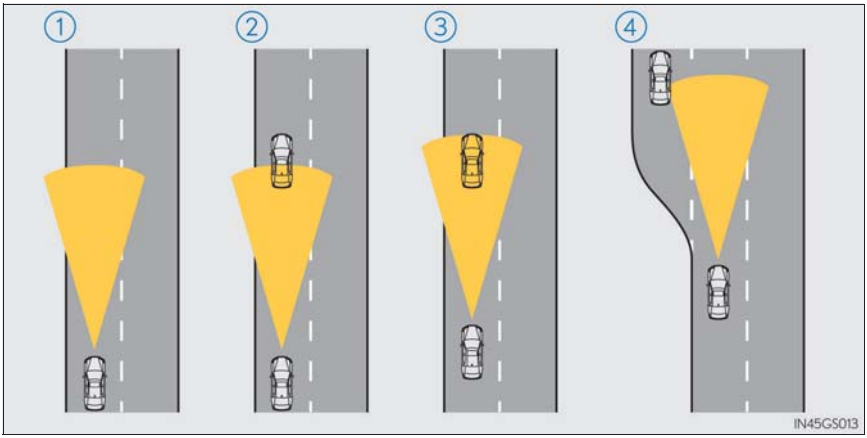
ただし、定速制御モード時は実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



車間制御モードでの走行

レーダーセンサーにより、車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行：
設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

③ 追従走行：
設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

④ 加速走行：
設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

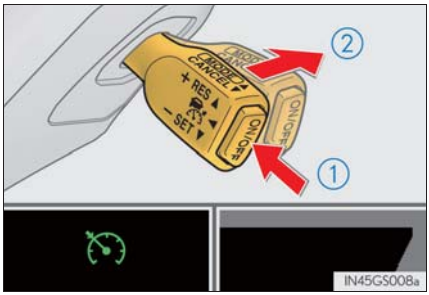
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードは先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の速度で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。



① ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度 ON/OFF スイッチを押します。

② 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、クルーズコントロール表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードにもどすには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードにもどります。

設定速度をかえるには
→ P. 195

制御を解除する・復帰させるには
→ P. 195

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●パドルシフトで D の 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。

●車速は約 50 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。
ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

●車速が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した(ワイパーの設定をAUTOモードまたは高速作動にしたとき)

●走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●車速が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■LKA（レーンキーピングアシスト）使用時について

車間制御モードでレーダークルーズコントロールを使用すると、車線維持支援機能が作動します。

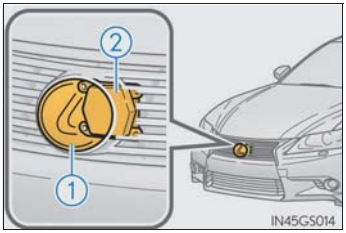
■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

① グリルカバー

② レーダーセンサー



■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。(→ P. 367)

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

⚠ 警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 202）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

⚠ 警告

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですので、はがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

LKA（レーンキーピングアシスト）★

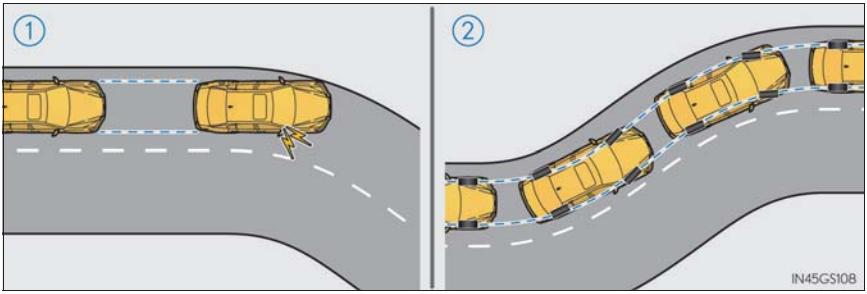
機能概要

白（黄）線の整備された高速道路や急なカーブがない自動車専用道路を走行中に、インナーミラーの上の白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

白線認識用カメラ

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

LKA に含まれる機能



① 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、ブザーや画面表示、体感警報※を用いて注意をうながします。

※ ハンドルに短時間、車線の中央方向への小さな操舵力を与えます。

② 車線維持支援機能

・ 車線逸脱警報機能が作動中に、車速が約 65km/h 以上でレーダークルーズコントロール（→ P. 198）の車間制御モードがセットされたときに、車線維持支援機能が作動します。

・ 小さい操舵力を連続的に与えることにより、車線中央付近を走行しやすいように運転者のハンドル操作を支援します。

車線維持支援機能中に、ハンドルを操作しなかったり、ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたりしたときは、機能が一時的に解除されます。
（→ P. 213）

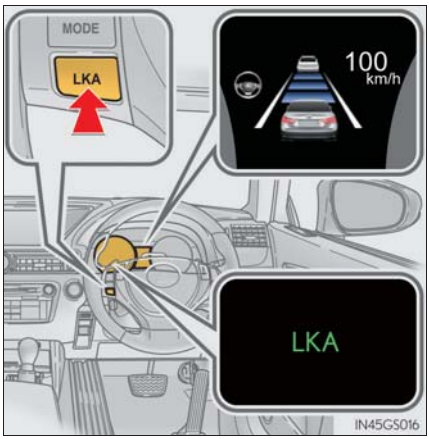
設定のしかた

LKA を使用するにはスイッチを押す

メーター内の LKA 表示灯が点灯します。

解除するには再度スイッチを押します。

LKA はエンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびに解除されます。



各機能の作動条件

■ **車線逸脱警報機能**

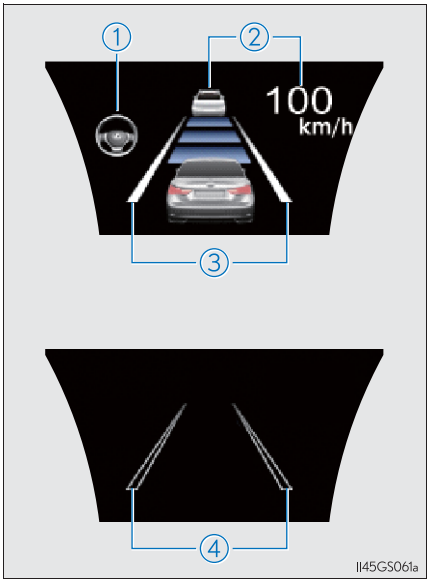
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3.0m 以上のとき
- 直線路または半径 120m よりゆるいカーブを走行しているとき

■ **車線維持支援機能**

- 車速が約 65 ～ 100km/h のとき
- レーダークルーズコントロールの車間制御モードが ON で、設定車速が 65km/h 以上のとき（レーダークルーズコントロールが定速制御モードのときは、作動しません）
- 車線の幅が約 3.0 ～ 4.0m のとき
- 直線路または半径 200m よりゆるいカーブを走行しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。



① 車線維持支援機能の作動表示

ハンドル表示：
機能が作動中であることを示しています。（このときに車線逸脱警報が作動すると、橙色で点滅します）

ハンドル非表示：
機能が作動していないことを示しています。（このとき“ピピッ”というブザーが鳴ります）

② レーダークルーズコントロール表示

③ 車線逸脱警報機能表示（白線の内側が白いとき）：

機能が白（黄）線を認識していることを示しています。（このとき車線逸脱警報が作動すると、橙色で点滅します）

④ 車線逸脱警報機能表示（白線の内側が黒いとき）：

機能が白（黄）線を認識できていない、または機能が一時的に解除されていることを示しています。

知識

■機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき
- システムが手放し運転をしていると判断したとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）
- 方向指示レバーを操作したとき
- 作動条件以外の車速になったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーが鳴ります）
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーが鳴ります）
- ワイパースイッチを高速作動にしたとき、またはAUTOモードにしてワイパーが高速作動したとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）
- 車体のおよそ半分以上が白（黄）線をまたいだとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）
- 車線逸脱警報機能が作動したとき
  車線逸脱警報機能が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。

■車線逸脱警報について

路面状況などにより、体感警報が感じにくい場合があります。

■手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒ハンドルを操作しないと、“ピピッ” とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。
ただし路面状況などにより、作動が中断しない場合があります。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LKA は作動せず、警告メッセージ（→ P. 374）が表示されることがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→ P. 209）の温度が適温になると作動するので、いったん LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■白（黄）線が片側にしかないとき

車線維持支援機能は作動しません。また、白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、LKA が作動しない、または十分な性能が確保できない場合があります。また、白線認識用カメラが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が誤作動したり、車線維持支援機能が正しく作動しないことがありますが、故障ではありません。

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
●急カーブを走行するとき
●車線の幅が極端に狭いときや広いとき
●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
●先行車との車間距離が極端に短くなったとき
●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
●白（黄）線がかすれていたり、キャッツアイや置き石などのとき
●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
●白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
●コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
●照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき
●分岐・合流路などを走行するとき
●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき
●悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
●横風を受けて走行しているとき
●左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき
●舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■タイヤを交換したとき

タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LKA の警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。（→ P. 367, 374）

⚠ 警告

■LKA をお使いになる前に

LKA を過信しないでください。LKA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■誤操作を防ぐために

LKA を使用しないときは、LKA スイッチでシステムを OFF してください。

■LKA を使用してはいけない状況

次の状況では、LKA を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- スタッドレスタイヤ・応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行するとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行するとき
- 高速道路などの本線（走行車線・追いこし車線）以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき

⚠ 注意

■LKA の故障や誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造したり、純正品以外の部品に交換したりしないでください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けないでください。
- サンバイザーを改造したり、純正品以外のものに交換したりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■白線認識用カメラ（→ P. 209）

LKA の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

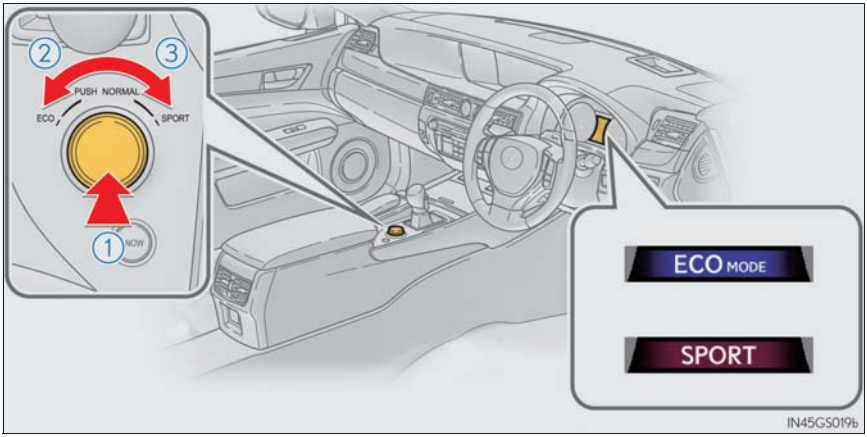
- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
  汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などが付着していたりすると、性能が低下することがあります。
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない
- カメラの近くには、何も取り付けたり、置いたりしない

- インナーミラーがカメラのレンズ前にかからないようにする
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- カメラのレンズ前にアンテナを取り付けない
- フロントウインドウガラスが曇った場合は、フロントデフロスターでガラスの曇りを取る
  寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えることがあります。
- ダッシュボードの上にものを置かない
  フロントウインドウガラスに映り込んだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  カメラのレンズのお手入れは、レクサス販売店にご相談ください。
- カメラの向きは細密に調整されているため、取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

NAVI・AI-AVS 非装着車タイプ



① ノーマルモード

通常の走行に適しています。

エコドライブモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

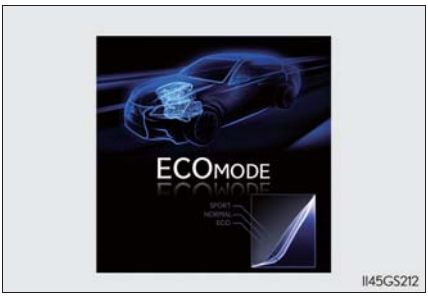
② エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「ECO MODE」と表示されます。

また、サイド画面※にもドライブモード画面が自動で表示されます。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



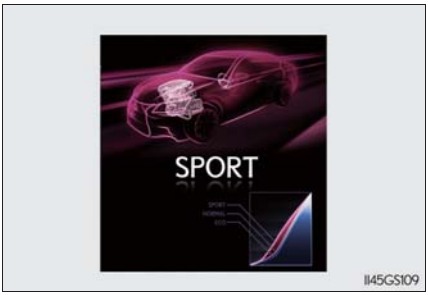
③ スポーツモード

ステアリングの応答性・およびトランスミッションの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。
山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

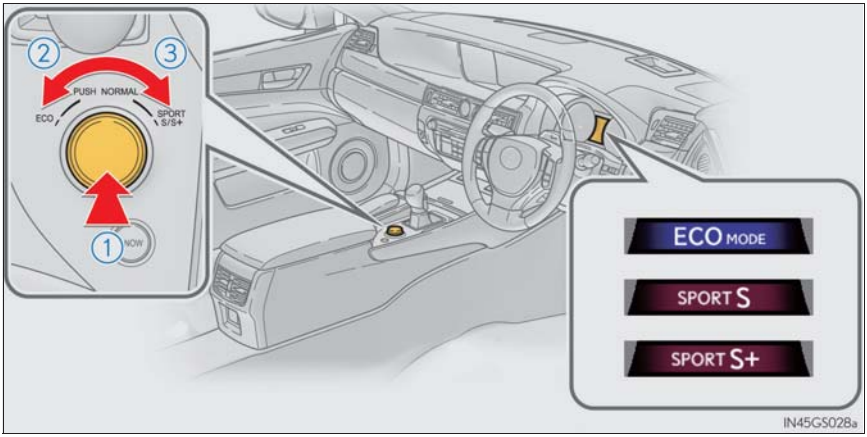
スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT」と表示されます。

また、サイド画面※にもドライブモード画面が自動で表示されます。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



NAVI・AI-AVS 装着車タイプ



① ノーマルモード

通常の走行に適しています。

エコドライブモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

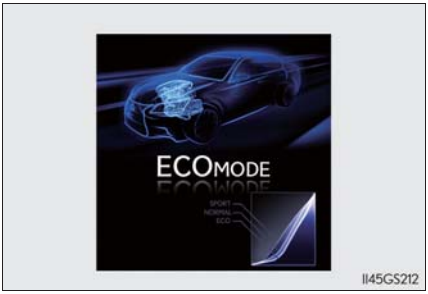
② エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「ECO MODE」と表示されます。

また、サイド画面※にもドライブモード画面が自動で表示されます。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



③ スポーツモード

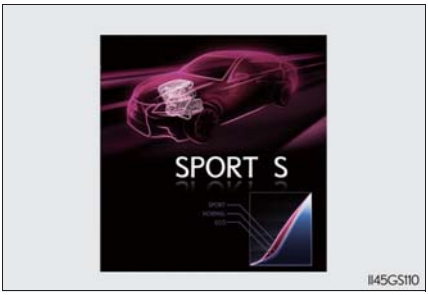
・スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速をしたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S」と表示されます。

また、サイド画面※にもドライブモード画面が自動で表示されます。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



・スポーツ S +モード

トランスミッションに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、スポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S +モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S +」と表示されます。

また、サイド画面※にもドライブモード画面が自動で表示されます。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■エコドライブモード時のシートヒーター自動作動について

寒冷時にエコドライブモードを選択すると、暖房性能を補助するためシートヒーターが自動で作動することがあります。(→ P. 282)

■スポーツモードの自動解除

スポーツモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ ナビ・ブレーキアシスト

ナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。
一時停止を見落としている可能性がある場合に、音声で注意喚起し、その後、運転者の急ブレーキ操作に対して、ブレーキの効きを強める機能です。
別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などでの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に後輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

→ P. 231

◆ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）★

車速やハンドルの動きに合わせて、フロントホイールが切れる角度を調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

◆ DRS（ダイナミックリヤステアリング）★

ハンドル操作に応じて後輪もわずかに切れることより、車両の旋回性や応答性に寄与します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた操縦安定性の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。
また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツ S ＋モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。
（→ P. 220）

◆ LDH（レクサスダイナミックハンドリングシステム）★

VGRS・DRS・EPS を総合的に制御します。ハンドル操作と車速に応じて、前輪・後輪の切れる角度を制御することで、低速では旋回性、中速では応答性、高速では安定性の向上に寄与します。

◆ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・VGRS★・DRS★・トランスミッションを総合的に制御します。すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力・前輪／後輪の切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→ P. 233

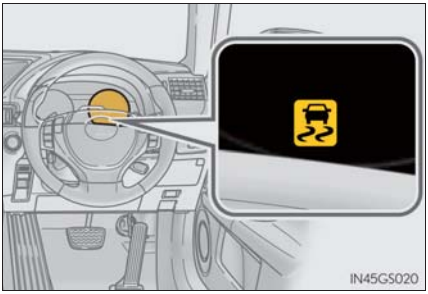
◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC や VSC を停止するには

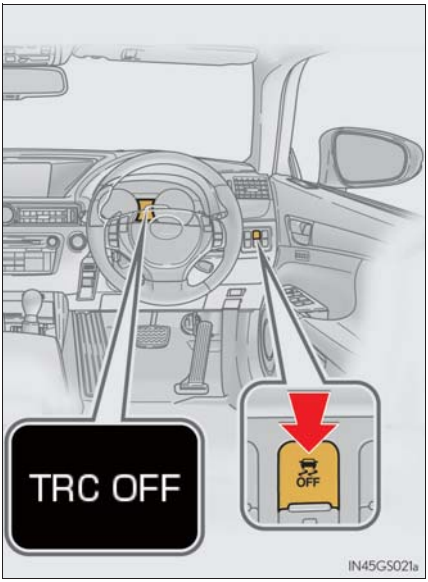
ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。
このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRC を停止するにはスイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

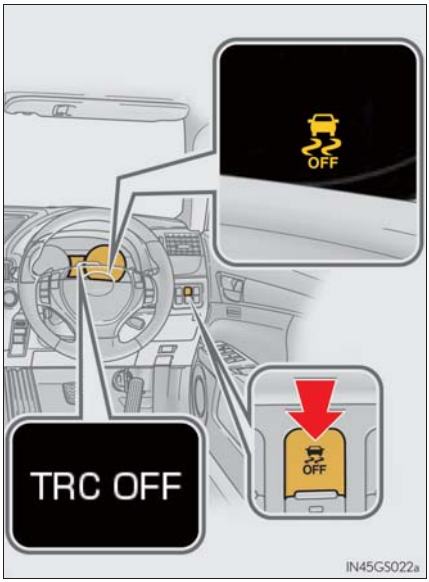


■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持する

スリップ OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■VSC　OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC およびヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■VGRS の作動が停止する場合

次の状況では VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進のハンドル位置がずれることがありますが、システムの復帰と共にもとにもどります。

●停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを操作し続けたとき

●ハンドルをいっぱいに切った状態で、長く力をかけ続けたとき

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで自動的に修正されます。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・VGRS の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・ 車体やハンドルに振動を感じる
・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS・VGRS・DRS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にした場合でも、エンジン停止後に再始動すると、自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。※

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

※ その際、LKA（レーンキーピングアシスト）が作動できない場合もあり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能について

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

⚠ 警告

■TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・銘柄・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 432）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

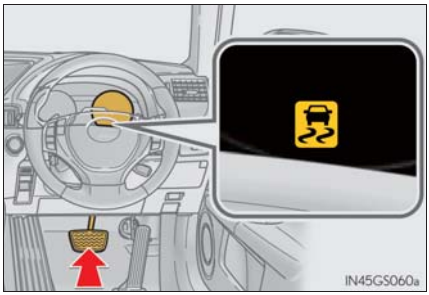
問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面での発進時に、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助します。

車両が完全に停止している状態で、さらにブレーキペダルを踏み込むとヒルスタートアシストコントロールは作動します。

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。



知識

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

●次の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。
・ シフトレバーがP以外のとき
・ パーキングブレーキがかかっていないとき
・ アクセルペダルを踏んでいないとき

●スリップ表示灯が点灯しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。

●ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約2秒間です。

●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください（車両が後退しない程度）。そのあともう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは上記の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると、“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。（シフトレバーが R の位置以外）

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。（シフトレバーが R の位置以外）

・ ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
・ シフトレバーを P の位置にしたとき
・ パーキングブレーキをかけたとき
・ ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
・ ブレーキペダルから足を離さずに約 3 分以上経過したとき

■スリップ表示灯が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

⚠ 警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

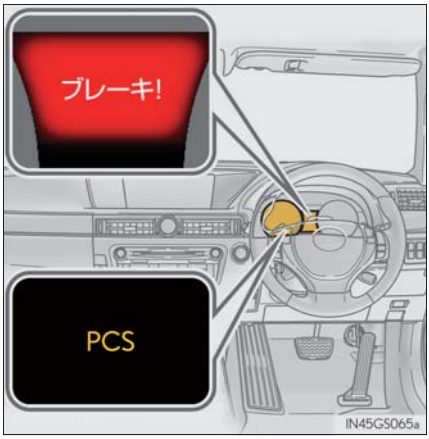
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

必要に応じて、スイッチ操作でプリクラッシュセーフティシステムの ON／OFF を切りかえることができます。（→ P. 235）

◆ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→ P. 29）

◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯・衝突警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。

◆ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いと判断したとき、NAVI・AI-AVS（→ P. 224）の働きを利用して、ショックアブソーバーの減衰力を最適に制御します。

◆ ステアリングコントロール★

衝突の可能性が高く、かつハンドル操作がされたとき、LDH によって前・後輪の切れ角とハンドルの重さを制御し、ハンドル操作に対する応答性を高めます。

◆ ドライバーモニター★

衝突の可能性があり、かつ運転者が正面を向いていない、または運転者の眼が閉じていると判断した場合に、より早い段階で警報し、早期に危険を知らせます。さらに衝突の可能性が高まり、作動条件（→ P. 236）を満たした場合は、警報ブレーキが作動します。

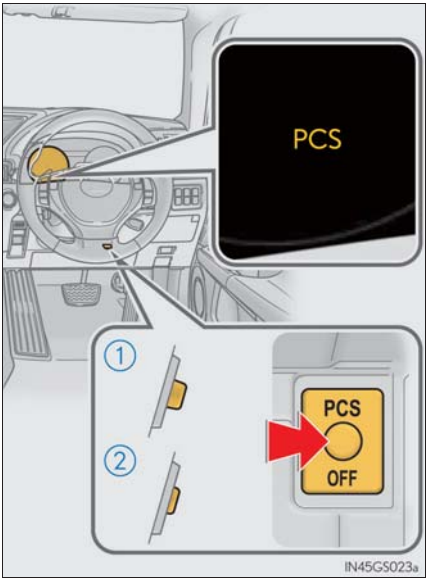
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

プリクラッシュセーフティシステムの切りかえ

① ON

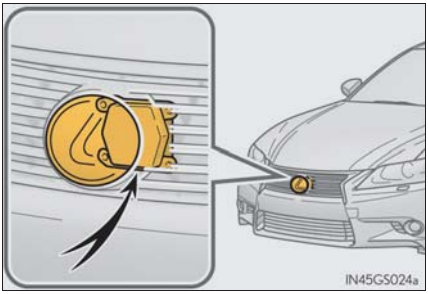
② OFF

OFF にすると PCS 警告灯が点灯します。



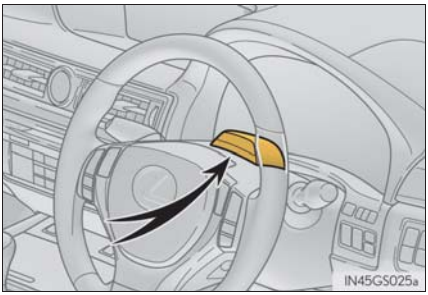
レーダーセンサー

走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度・進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。



ドライバーモニター用カメラ（ドライバーモニター装着車）

運転者の顔の向きと眼の開閉状態を検知し、正面を向いていない、または眼を閉じている状態をシステムが判断します。



知識

■システムの作動条件

PCS OFF スイッチが押されておらず、次の状態のとき、作動します。

●警報の作動条件：
・車速が約 15km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 15km/h 以上

●プリクラッシュシートベルトの作動条件①：
・車速が約 30km/h 以上
・緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
・フロント席の乗員がシートベルトを着用している

●プリクラッシュシートベルトの作動条件②：
・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30km/h 以上
・フロント席の乗員がシートベルトを着用している

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：
・車速が約 30km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件：
・車速が約 15km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 15km/h 以上

●サスペンションコントロールの作動条件：
・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 30km/h 以上

●ステアリングコントロールの作動条件：
・車速が約 30km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30km/h 以上

●警報ブレーキの作動条件（ドライバーモニター装着車のみ）：
・運転者が正面を向いていない、または眼を閉じていると判断したとき
・車速が約 40km/h 以上
・自車から見た先行車との接近速度が約 40km/h 以上
・車両直進状態

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

センサーの前方がさえぎられる次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

●カーブまたは右左折時に対向車とすれ違ったとき

●車両前方の障害物（前方車両・ETC ゲートなど）に急速に接近したとき

●上り坂を走行中など進行方向の道路上方に構造物（看板・低い天井・蛍光灯など）があるとき

●幅が狭い、または天井の低い場所（橋・トンネル・高架下など）を通過するとき

●凹凸のある路面を走行するとき

●路面上に金属物、段差または突起物があるとき

●車高が極端に変化しているとき

●センサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

●カーブの入り口の道路脇に障害物（ガードレールなど）があるとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

●きついカーブや起伏がある場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●車が横すべりしている状態

●車両姿勢が極端に変化している状態

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■システムに異常がある、またはシステムが一時的に使用できないときは

PCS 警告灯が点滅し、警告メッセージが表示されます。（→ P. 359, 366）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 236, 237）によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作と判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですので、はがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

⚠ 警告

■顔向き／眼の開閉判定について（ドライバーモニター装着車）

次のときは正常に顔向き／眼の開閉判定ができない場合があります。

- ●カメラと顔のあいだにさえぎるものがあるとき
  （カメラの前にものを置くなど）
- ●顔の一部が隠れる状況
- ●太陽光などの強い光が、直接顔やカメラにあたる状況
- ●正しい運転姿勢をしていないとき

■ドライバーモニター用カメラの取り扱い（ドライバーモニター装着車）

ドライバーモニターの効果を発揮できるように次のことをお守りください。
お守りいただかないと、故障の原因になったり、顔向き／眼の開閉判定ができないおそれがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●カメラを改造したり、傷付けたり、持ち上げたり、引っぱったりしない
- ●走行中はカメラをさわらない
- ●カメラをぬらしたり、飲料水をかけたりしない
- ●カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない
- ●カメラ前面部に傷・汚れ・シール貼りなどがないようにする
- ●カメラ前面部の前にものを置いたり、覆ったりしない

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。
システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

- ●運転者が見る過程での支援内容
  プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- ●運転者が判断する過程での支援内容
  プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。
- ●運転者が操作する過程での支援内容
  被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

⚠ 注意

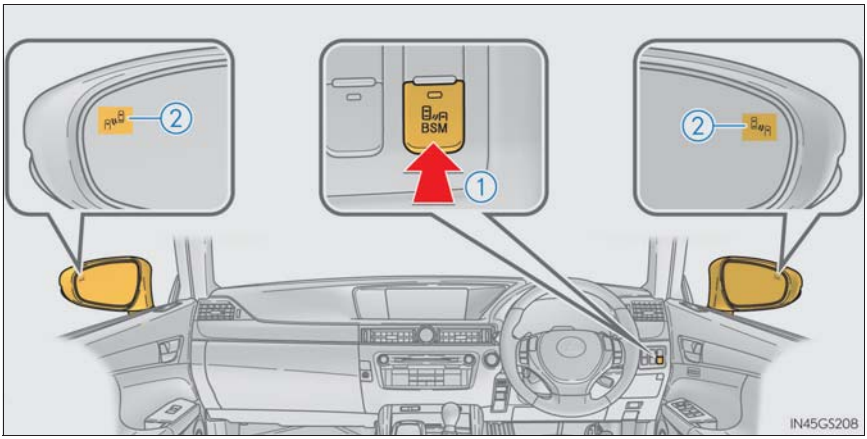
■ ドライバーモニター用カメラのお手入れ時の注意（ドライバーモニター装着車）

- 傷を付けないよう、やわらかい布で軽くふいてください。
- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよくしぼってふき取り、その後、乾いた布でふいてください。
- ベンジン・シンナー・ガラスクリーナー・ワックスなどを使用しないでください。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターは、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

レーダーセンサーにより、隣の車線のドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによって車両の存在を知らせます。



① BSM メインスイッチ

押すごとに ON ／ OFF が切りかわり、ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

② ドアミラーインジケーター

死角領域に車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。

また、方向指示レバーを操作した際に死角領域に車両がいたときは、ドアミラーインジケーターが点滅します。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ブラインドスポットモニターが検知できる範囲

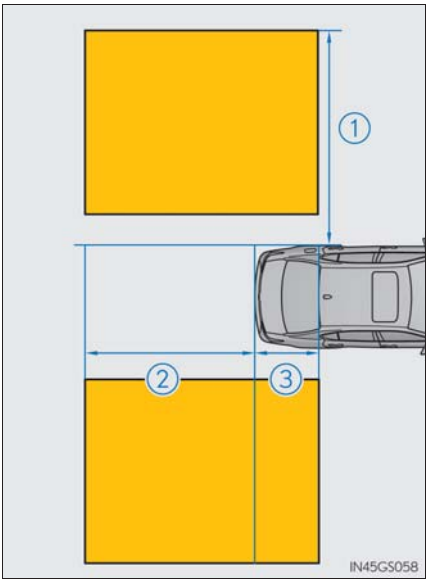
死角領域となる、次の範囲に入った車両を検知します。

① 車両側面から外側に約 3.5m

車両側面から外側に約 0.5m は検知しません

② 車両後端から後方に約 3m

③ 車両後端から前方に約 1m



知識

■ブラインドスポットモニターの作動条件

BSM メインスイッチが ON の状態で、車速が約 16km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車、自転車、歩行者など※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●同じ車線を走行する後続車※

●2 つ隣の車線を走行する他車※

※：状況によっては検知をすることがあります。

■ブラインドスポットモニターが有効に作動しないおそれがある状況

●次のような状況では有効に検知しないおそれがあります。
- 大雨・霧・雪などの悪天候時
- 氷雪・泥等がリヤバンパーに付着したとき
- 水たまりなど濡れた路面を走行するとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- 急勾配の上り・下りが連続した坂道を走行しているとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車線の幅が広く、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- 自車線と隣車線の高さに差があるとき
- BSM メインスイッチを ON にした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ガードレールや壁等との距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- 後続車との車間距離が短いとき
- 車線の幅が狭く、2 つ隣の車線を走行する他車が検知範囲に入ったとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■システムに異常があるときは

次のような原因で異常が検知されたときは、警告表示でお知らせします。
(→ P. 369, 375)

- センサーが故障しているとき
- センサーが汚れているとき
- 極めて高温または低温の環境での使用
- 電圧異常

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

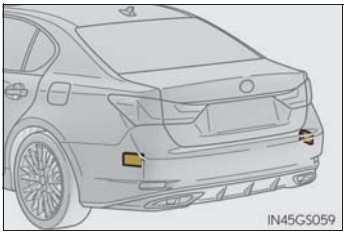
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、死角に入った車両の存在をドライバーに提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

⚠ 警告

■レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両後部に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく
- センサー周辺のバンパーへの強い衝撃を避ける

  センサーの位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のバンパーにステッカーを貼らない
- センサーやセンサー周辺のバンパーを改造しない
- センサーやセンサー周辺のバンパーを塗装しない
- 本製品は各国の電波法に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、剥がさないでください。

  製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 204Y51100100

ナイトビュー（歩行者検知機能付）★

ナイトビューは、夜間の走行を補助するシステムです。

夜間に肉眼では見えにくい前方の歩行者・障害物・道路状況を、投光器から照射した近赤外線の反射光をカメラで撮影・映像化して、ナビゲーション画面に表示します。

また、歩行者検知機能により歩行者の位置を強調表示※します。(→ P. 248)

※ 周囲の状況によっては強調表示しないことがあります。

ナイトビュー画面の表示のしかた

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 ヘッドランプを点灯する

3 ナイトビュースイッチを押す

ナビゲーション画面にナイトビュー画面が表示されます。

もとにもどすには再度スイッチを押します。

ライトセンサー（→ P. 173）が周囲の明るさの状態から夜と判断していないときは、ナイトビュースイッチを押してもナイトビュー画面は表示できません。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

歩行者検知機能について

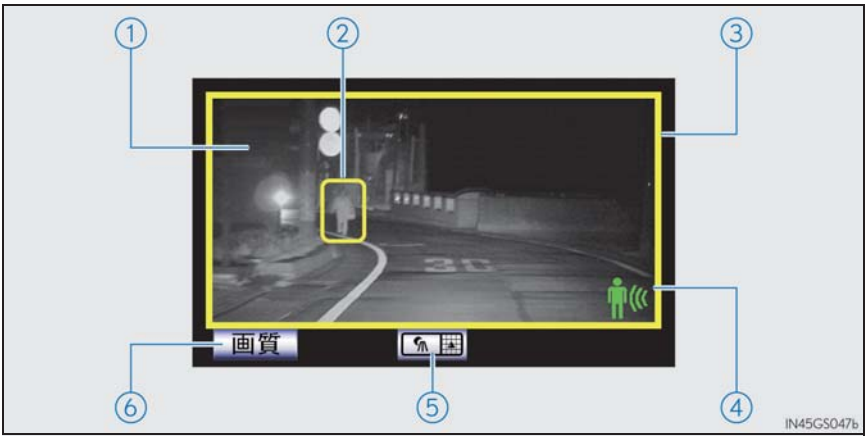
映像から歩行者を検知すると、次のように表示することにより運転者に注意をうながします。

- ヘッドアップディスプレイへ検知表示をする（→ P. 87）
- 画面が 3 回白く点滅する
- 歩行者の位置を黄色の枠で表示する（歩行者検知枠）
- 画面の輪郭を黄色の枠で表示する（注意喚起枠）

歩行者検知機能は、ナイトビュー作動中で車速が約 15 ～ 80km/h のとき、作動します。

ナイトビュー画面表示について

■ メイン画面表示



① ナイトビュー画面

歩行者を検知すると 3 回白く点滅します。

② 歩行者検知枠

・ 歩行者を検知すると注意喚起枠と共に表示されます。
・ 検知された人数分の歩行者検知枠が表示されます。
・ 歩行者が検知されなくなると注意喚起枠と共に表示が消えます。

③ 注意喚起枠

・ 歩行者を検知すると歩行者枠と共に表示されます。
・ 歩行者が検知されなくなると歩行者検知枠と共に表示が消えます。

④ 歩行者検知作動インジケーター

歩行者を検知可能かどうかアイコンで知らせます。

：作動中

：非作動中

⑤ サイド画面※表示切りかえスイッチ

ナイトビューをメイン画面で表示しているとき、リモートタッチ※を使って選択するとサイド画面を地図表示に変更できます。
再度スイッチを選択すると、もとの表示画面にもどります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

⑥ 画質調整表示切りかえスイッチ

リモートタッチ※を使って選択すると表示画面の明るさを調整できます。

お好みの明るさに調整したあと、「完了」を選択してください。

「明」：明るくする

「暗」：暗くする

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ **サイド画面表示**

ナイトビューをメイン画面に表示中、他の画面をメイン画面に表示すると、ナイトビュー画面はサイド画面に表示されます。

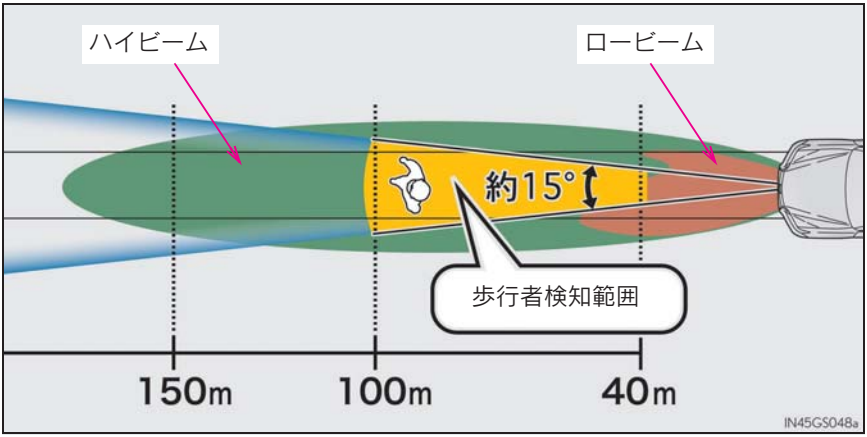
① ナイトビュー画面

メイン画面と同様に、歩行者検知枠・注意喚起枠・歩行者検知作動インジケーターが表示されます。(→ P. 249)

② メイン画面表示スイッチ

ナイトビューを、サイド画面表示からメイン画面表示へ切りかえます。

ナイトビューが映し出せる範囲



■ 映像化できる範囲

ヘッドランプのロービーム照射範囲の先から、ハイビーム照射範囲の先までです。

■ 歩行者検知の範囲

車両前方約 15° 以内、距離は約 40 ～ 100m のあいだまでです。

車両の速度に応じて検知範囲はかわります。

知識

■歩行者検知機能が作動しない環境

●ワイパーが連続で作動したとき

●周囲の明るさが一定以上のとき
ナイトビュー画面を表示可能な周囲の明るさと、歩行者検知機能が作動する周囲のの明るさは異なるため、ナイトビュー画面が表示されても歩行者検知機能が作動しないことがあります。

■ナイトビュー作動中で車速が約 15km/h 以下のとき

近赤外線が照射されなくなるため、ナイトビュー画面に映像は表示されますが、映像化できる範囲や距離に制限があります。

■ナイトビューが作動可能なとき以外にナイトビュースイッチを押したとき

ナビゲーション画面にアドバイス情報が表示されます。表示されたアドバイスに従ってください。

■ナビゲーションシステムの起動完了前

ナビゲーションシステムの起動完了前にナイトビュースイッチを押しても、ナイトビュー画面は表示できません。

■ナイトビュー作動中にシフトレバーを R にしたとき

ナイトビュー画面は次のように切りかわります。

メイン画面：バックガイドモニター画面に切りかわります。
サイド画面：黒色になり映像は表示されません。

⚠ 警告

■ナイトビューをお使いになる前に

ナイトビューを過信しないでください。
ナイトビューは、夜間走行中に見えにくい前方の道路状況、歩行者認知を補助するものです。機能には限界がありますので、使用する場合は次の警告内容をお守りいただいた上で、安全運転に心がけてください。

■ナイトビュー画面について

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 通常の目視のかわりに、ナイトビュー画面のみを見て運転しないでください。
- 運転中にナイトビュー画面を見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。ナイトビューはあくまで運転の補助として使用してください。
- ナイトビューは夜間のカーブの少ない道路を走行するときに運転者の視覚を補助するためのものです。坂道やカーブの多い場所、市街地では使用しないでください。道路形状（カーブの大きさ・勾配など）により表示できない場所があります。
- ナイトビューはすべてのものを明るく映像化できるわけではありません。全体が暗く映ったり、一部が見えにくくなることがあります。ナイトビューを過信せずに、ナイトビューを装着していない車と同様、必ず周囲の安全を確認しながら慎重に運転してください。

  映像に映りにくいもの：
  ・特定の素材の衣類（本革ジャケットなど）
  ・看板の文字
  ・道路案内板の情報など

  映像が映りにくい状況：
  ・雨・霧・降雪・吹雪などの悪天候時
  ・雨上がりの水たまりなど路面反射が大きいとき
  ・カメラ前面のフロントウインドウが曇っているとき・汚れているとき・氷結しているとき
  ・ヘッドランプ付近に氷・雪・泥などが付着しているとき
  ・著しくバッテリーの電圧が低下しているとき
  ・対向する強い光源が前方にあるとき

⚠ 警告

■注意喚起枠について

注意喚起枠は、ナイトビューの歩行者検知機能が歩行者を検知したときに表示され、運転者に注意を促すものです。

- 注意喚起枠が表示された場合は、前方に歩行者がいるおそれがあるため、周囲の安全を十分に確認して運転してください。
- 注意喚起枠が出ても、ナイトビュー画面を見続けないでください。前方の危険を見落とすおそれがあります。
- 天候や道路状況、歩行者の状況により注意喚起するタイミングが遅くなり、歩行者との距離が近くなる場合があります。注意喚起枠が出た場合は、まず直接周囲の安全を十分に確認して運転してください。
- わき見運転の状態では機能を発揮できません。

■歩行者検知機能について

歩行者検知機能には限界があります。機能作動状態でも、次のような歩行者を検知できないおそれのある状況では作動しないことがあります。

- 映像が映りにくい状況
  - ・雨・霧・降雪・吹雪などの悪天候時
  - ・ワイパー作動中および間欠作動時（ワイパー低速作動、高速作動中は歩行者検知機能を停止）
  - ・カメラ前面のフロントウインドウが曇っているとき、汚れているとき、氷結しているとき
  - ・ヘッドランプ付近に氷・雪・泥などが付着しているとき
  - ・著しくバッテリーの電圧が低下しているとき

  など
- カーブや坂道・勾配のある道では、前方に歩行者がいても検知できない場合があります。
- 街路灯・照明・対向車の強いライトなど、強い光のある状態では検知しない場合があります。
- 自車の前方に歩行者が飛び出したときは、正しく検知できない場合があります。
- 歩行者検知範囲内でも、ガードレール・街路樹・柱・停車車両などで歩行者の体の一部が隠れている場合は検知できません。

⚠ 警告

●歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差・形状・大きさで歩行者を判断しているため、機能には限界があります。また次の場合は、正しく検知できない場合があります。

体型・姿勢の影響：
・寝ている人、しゃがんでいる人
・身長 1m 以下、または 2m 以上の人
・連れだって歩く複数の人（ナイトビュー画面で重なって見える場合）
・横向きに立っている人
・手を上げている人

衣服の影響：
・上下で反射率が大きく異なる服を着た人
・近赤外線カメラで暗く映るような近赤外線の反射率の低い服（本革ジャケットなど）を着た人
・コートや着物などで手足のシルエットのような特徴が出にくい服装の人
・反射材のタスキなどを身に付けた人

持ち物の影響：
・傘をさしている人
・大きな荷物・かばんなどを持っている人

その他：
・自転車に乗った人、自転車を押している人
・ベビーカーを押している人
・車いすの人・車いすを押している人
など

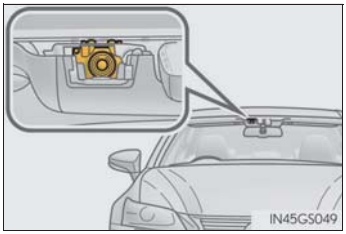
●動物は検知しません。

●歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差・形状・大きさで歩行者を判断しているため、人の形に似ているものがあった場合、誤認識することがあります（看板・植木・テールランプなど）。

⚠ 注意

■近赤外線カメラについて

ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。



- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
  雨滴・結露・氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。内側の汚れが気になる場合は、ガーニッシュの脱着が必要なためレクサス販売店にご相談ください。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、または分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- フロントウインドウガラスが曇ったときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
  寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにシールなどを貼らない

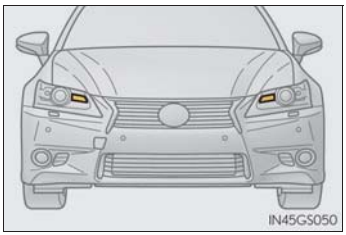
⚠ 注意

■近赤外線投光器について

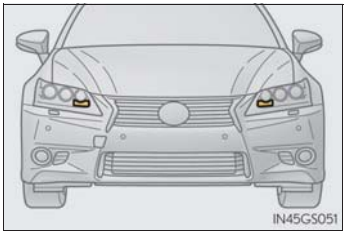
ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください

- ヘッドランプ付近の汚れはナイトビューの性能に影響を与えます。汚れている場合は洗車などを行ってください。
- 近赤外線投光器は目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時では近赤外線は照射されませんが、安全のため、近くで長時間のぞきこまないようにしてください。

▶ディスチャージヘッドランプ装着車



▶LED ヘッドランプ装着車



寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。※

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 310）

※ 前後のタイヤサイズが異なる車両には、タイヤチェーンを取り付けないでください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

ワイパー停止位置の切りかえ（寒冷地仕様車）

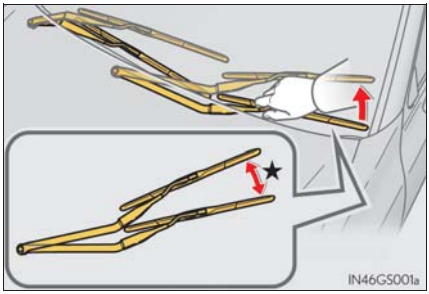
積雪や凍結のおそれがある場合は、あらかじめボンネット下に格納されているワイパーを積雪時の停止位置に切りかえておきます。

ワイパーアームのフック部をしっかり持って、ワイパー停止位置の切りかえを行ってください。

■ 積雪時の停止位置にする

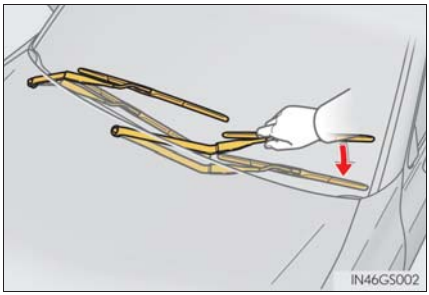
ガラス面にそって引き上げます。

★：10cm 以上



■ 通常の停止位置にもどす

フック上部を手で押します。



知識

■タイヤチェーンについて（前後のタイヤサイズが異なる車両を除く）

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- ●安全に作業できる場所で行う
- ●後 2 輪に取り付ける
- ●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- ●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- ●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- ●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する
- LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用しない

■タイヤチェーン装着時の警告（前後のタイヤサイズが異なる車両を除く）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用しない

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 注意

■ **タイヤチェーンの使用について（前後のタイヤサイズが異なる車両を除く）**

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ **タイヤを修理・交換するとき**

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け･取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
（タイヤについての詳しい説明は P. 310 を参照してください）

■ **タイヤチェーンの装着（前後のタイヤサイズが異なる車両を除く）**

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■ **フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

■ **ワイパーアームを立てるとき（寒冷地仕様車）**

ワイパーを積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。（→ P. 259）

停止位置を切りかえずに立てると、ワイパーアームとボンネットが干渉し、傷が付くおそれがあります。

室内装備・機能 5

5-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 264
・インテリアランプ 265
・パーソナルランプ 265

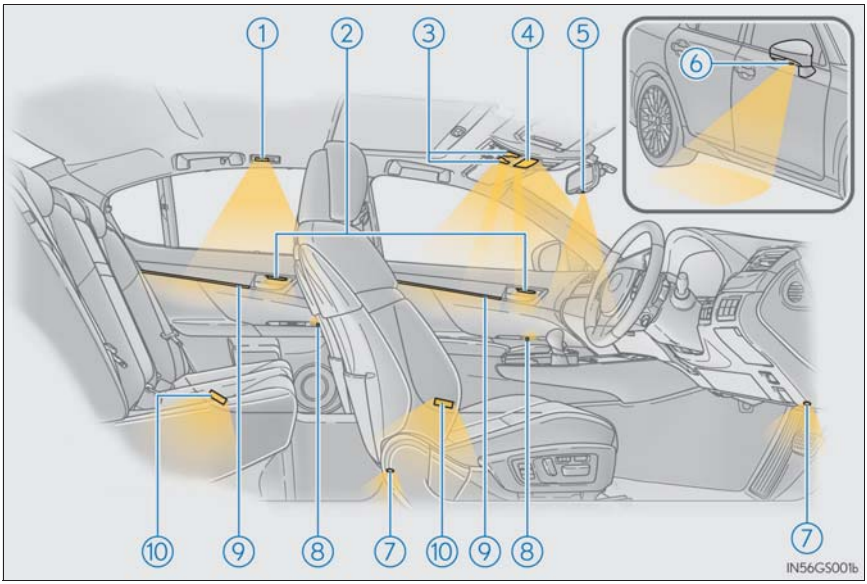
5-2. 収納装備

収納装備一覧 267
・グローブボックス 268
・コンソールボックス 269
・カップホルダー 270
・小物入れ 272
トランク内装備 273

5-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー／
バニティミラー 276
時計 277
灰皿 278
アクセサリーソケット 279
ステアリングヒーター 281
シートヒーター／
シートベンチレーター 282
リヤアームレスト 287
リヤサンシェード／
リヤドアサンシェード 288
トランクスルー 291
コートフック 292
アシストグリップ 293
ユーティリティーフック 294

室内灯一覧



① リヤパーソナルランプ
(→ P. 265)

② ドアハンドル照明※

③ フロントパーソナルランプ
(→ P. 265)

④ インテリアランプ
(→ P. 265)

⑤ シフト照明

⑥ ドアミラー照明

⑦ 足元照明※

⑧ パワーウインドウスイッチ照明

⑨ オーナメント照明※

⑩ ドアカーテシランプ

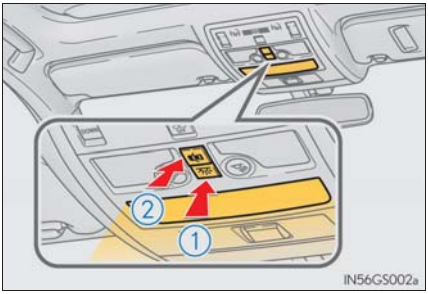
※ 車幅灯が点灯しているときにインストルメントパネル照度調整スイッチ(→P. 72)を最も暗く設定すると、消灯します。

インテリアランプ

① ランプを点灯・消灯する

リヤパーソナルランプも連動して点灯・消灯します。ただし、リヤパーソナルランプが点灯している状態でインテリアランプを点灯したあとに消灯した場合、リヤパーソナルランプは連動して消灯しません。

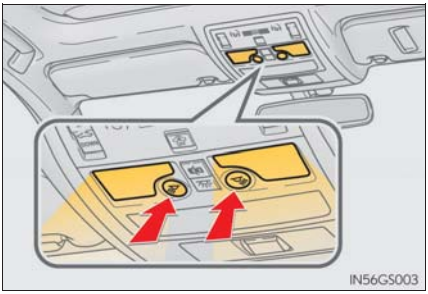
② ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる



パーソナルランプ

■ フロント

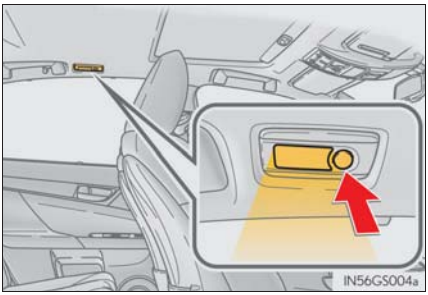
ランプを点灯・消灯する



■ リヤ

ランプを点灯・消灯する

インテリアランプに連動して点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■カスタマイズ機能

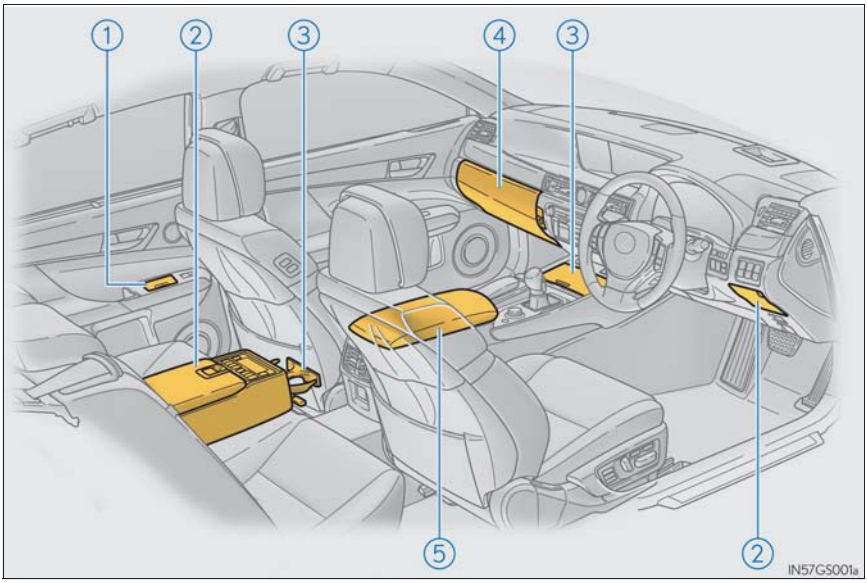
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 434）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① 小物入れ★	(→ P. 272)	③ カップホルダー	(→ P. 270)
灰皿★	(→ P. 278)	④ グローブボックス	(→ P. 268)
② 小物入れ	(→ P. 272)	⑤ コンソールボックス	(→ P. 269)

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

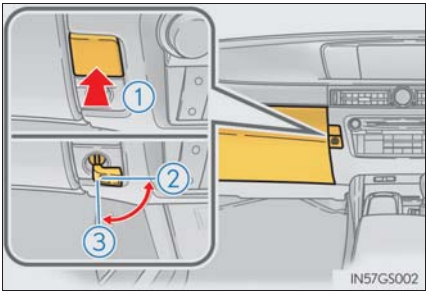
■収納装備を使わないときや走行中の留意事項

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

グローブボックス

① 開ける（ボタンを押す）
② メカニカルキーで解錠
③ メカニカルキーで施錠



知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

■トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。(→ P. 114)

■仕切りの取りはずし

グローブボックス内の仕切りを取りはずして使用することができます。

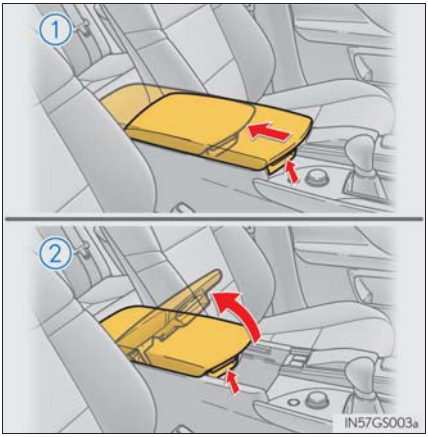
■グローブボックスのドアについて

グローブボックスのドアには、助手席 SRS ニーエアバッグが内蔵されています。(→ P. 33)

コンソールボックス

① 半開で使用する
ノブを握ってロックを解除し、アームレストをいちばんうしろまでスライドさせる

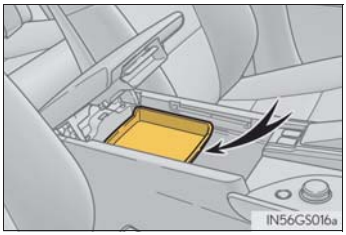
② 全開で使用する
ノブを握ってロックを解除し、開く



知識

■コンソールボックス内のトレイについて

トレイを前後に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。



■コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

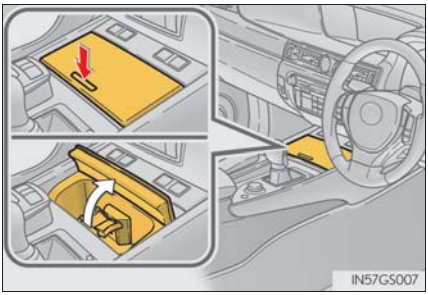
⚠警告

コンソールボックスを半開で使用しているときは、アームレストに過度の負荷をかけないでください。アームレストが破損し、けがをするおそれがあります。

カップホルダー

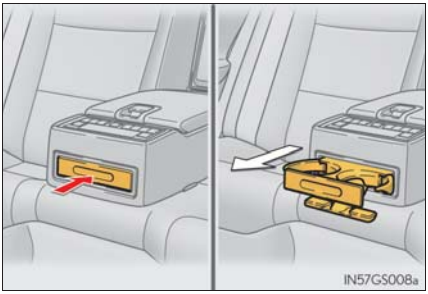
■ フロント

カップホルダーのフタを押して開ける



■ リヤ

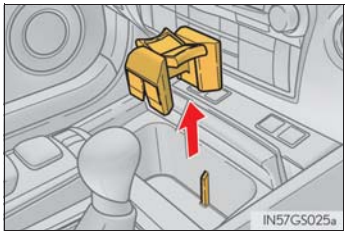
リヤアームレストを引き出し、アームレストのカップホルダーを押して開ける



知識

■仕切りの取りはずし（フロントカップホルダー）

カップホルダー内を清掃するために、仕切りを取りはずすことができます。



■カップホルダーを収納するとき（リヤカップホルダー）

アームレストを倒した状態で収納してください。アームレストを倒した状態にしないと、収納できません。

警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

注意

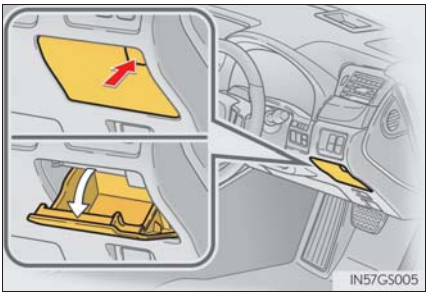
■カップホルダーの破損を防ぐために

リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

小物入れ

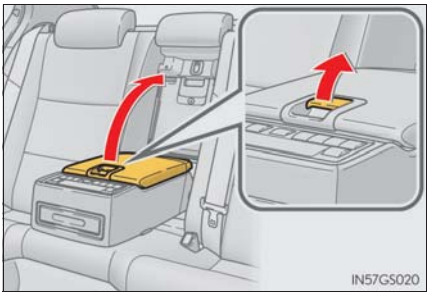
▶ A タイプ

ボタンを押して開ける



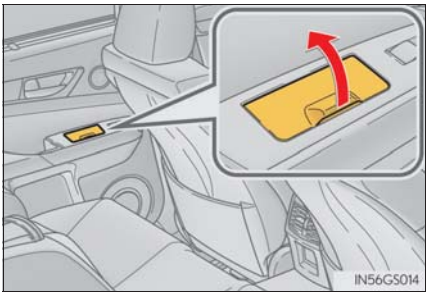
▶ B タイプ

ノブを引いてロックを解除し、フタを持ち上げて開く



▶ C タイプ ★

フタを開ける



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために（C タイプ）

小物入れを灰皿として使用しないでください。

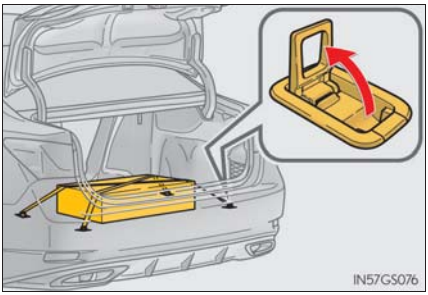
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

トランク内装備

荷物固定用フック

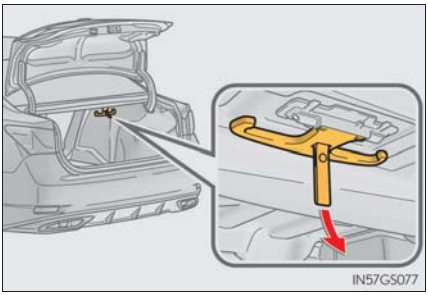
フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。

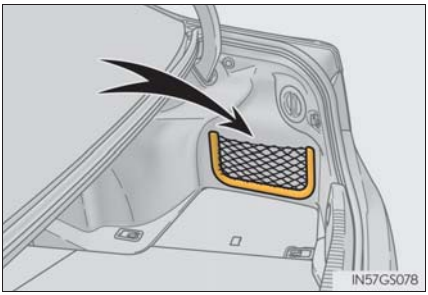


ラゲージフック

ストラップを引いて使用する



救急箱等固定用ネット

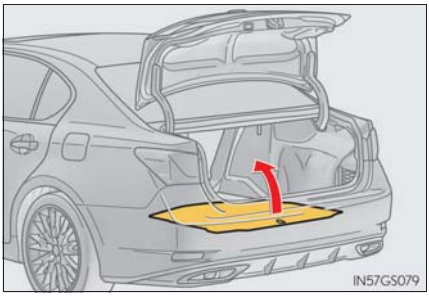


ラゲージマット

■ 中央

▶ 応急用タイヤ装着車

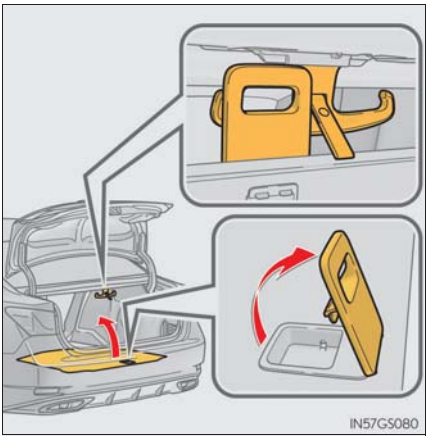
ストラップを持ってラゲージマットを持ち上げます。



▶ タイヤパンク応急修理キット装着車

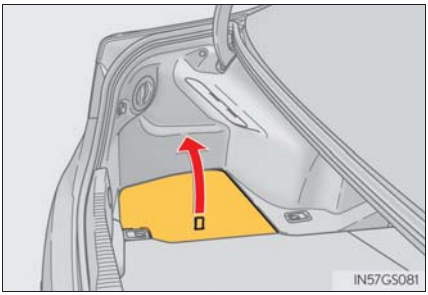
レバーを引き上げ、ラゲージマットを持ち上げます。

レバーはラゲージフックにかけることができます。



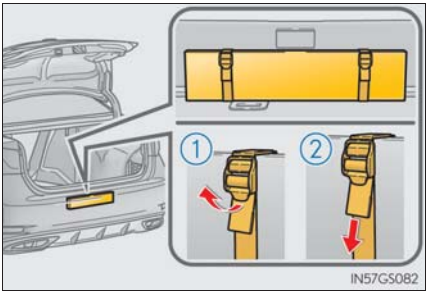
■ 左側

ストラップを持ってラゲージマットを持ち上げます。



三角表示板等固定用バンド

① ベルトをゆるめる
② ベルトを締める



知識

■三角表示板の収納について

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

警告

■荷物固定用フックを使用しないとき

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

■三角表示板を収納するとき

確実に固定されていることを確認してください。
確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ラゲージフックの破損を防ぐために

5kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

■トランクを閉めるとき（タイヤパンク応急修理キット装着車）

ラゲージマットのレバーをラゲージフックにかけたままにしないでください。
ラゲージマットが破損するおそれがあります。

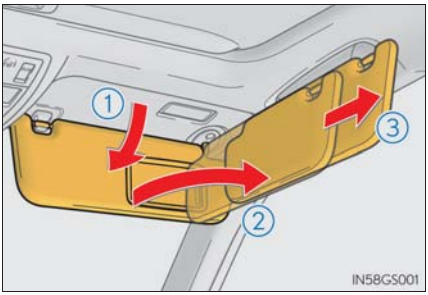
サンバイザー／バニティミラー

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

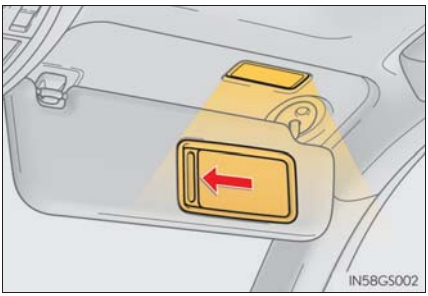
③ エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



⚠ 注意

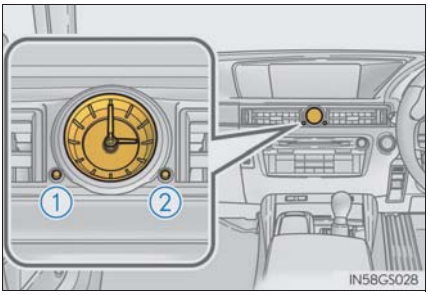
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

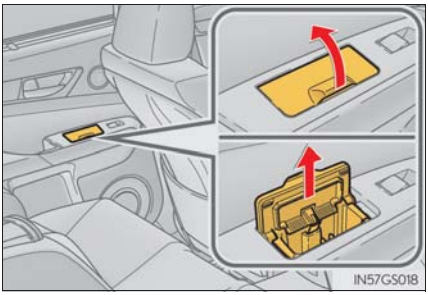
① 針をもどす
② 針を進める



灰皿★

フタを開ける

取りはずすときは、フタを持って引き上げます。



⚠ 警告

■使用しないとき

灰皿のフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いた灰皿が体にあたったり、灰が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■出火を防ぐために

- マッチ･タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

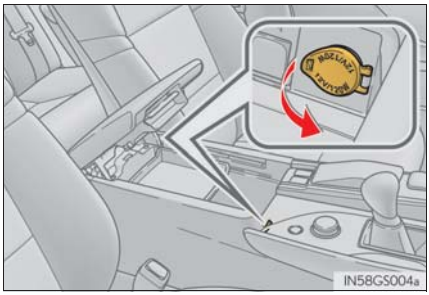
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

アクセサリーソケット

12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

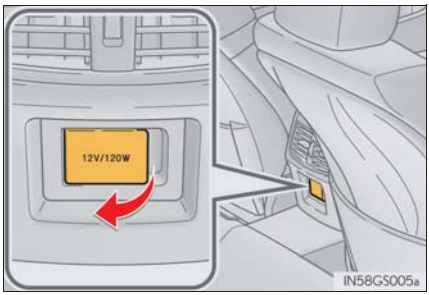
■ フロント

フタを開けて使用する



■ リヤ

フタを開けて使用する



知識

■使用条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

⚠ 注意

■ **ショートや故障を防ぐために**

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ **ヒューズが切れるのを防ぐために**

12V 10A をこえないようにしてください。

■ **バッテリーあがりを防止するために**

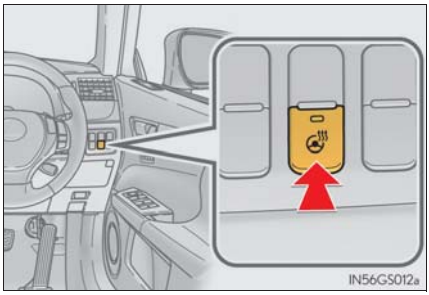
エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

ステアリングヒーター★

ハンドルの左右のグリップ部分を暖めることができます。

システムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■タイマー機能

約 30 分後に自動で OFF になります。

⚠ 警告

■やけどについて

低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がふれないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときは、スイッチを OFF にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

シートヒーター★／シートベンチレーター★

シートを暖めたり、シートから風を出して通気をよくしたりすることができます。

フロントシートヒーター＆ベンチレーター★/リヤシートヒーター★

① シートヒータースイッチ

作動中は、スイッチ上のインジケーター（黄）が点灯します。

② シートベンチレータースイッチ（フロントシートのみ）

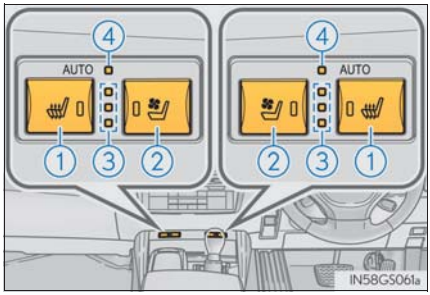
作動中は、スイッチ上のインジケーター（緑）が点灯します。

③ レベルインジケーター

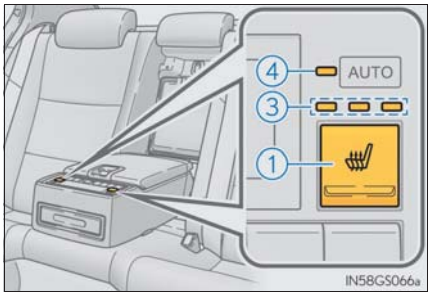
シートヒーターの温度の強弱、またはシートベンチレーター（フロントシートのみ）の風量の強弱を表示します。

④ オートモードインジケーター

▶ フロントシート



▶ リヤシート



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ モードとインジケーター

スイッチを押すことで、モードが切りかわります。

モード	オートモードインジケーター	レベルインジケーター
OFF	消灯	消灯
オート※	点灯	3～1、または消灯
強	消灯	3
中	消灯	2
弱	消灯	1

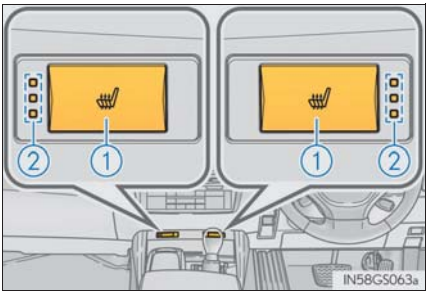
※ オートモードを選択しているときは、エアコンの設定状態に応じて、レベルが自動的に切りかわります。

シートヒーター（シートベンチレーター非装着車）★

① シートヒータースイッチ

② レベルインジケーター

シートヒーターの温度の強弱を表示します。



■ モードとインジケーター

スイッチを押すたびに、次のようにモードが切りかわります。

モード	レベルインジケーター	自動制御※
OFF	消灯	—
強	3	強→中→弱
中	2	中→弱
弱	1	弱

※ 各モードは、時間により自動で切りかわります。切りかわるまでの時間はシートヒーターを作動させたときの室内温度などにより、異なります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■シートヒーターの制御について

シートヒーターが作動中にエンジンスイッチを OFF にした場合、再度イグニッション ON モードにするまでの時間により、作動開始モードが異なります。

現在の作動状態	再度イグニッション ON モードにするまでの時間と作動開始モード	
	0 ～約 15 分	約 15 分～
強	強	強
中	中	強
弱	弱	強

■エコドライブモード時のシートヒーター自動作動について

寒冷時にドライブモードセレクトスイッチをエコドライブモードにすると、暖房の性能を補助するためシートヒーターが自動で作動することがあります。（→ P. 218）

■S-FLOW モード時の自動作動について（オートモード装着車）

オートモードで作動中、S-FLOW モードを ON にすると、フロントシートヒーター＆ベンチレーターまたはリヤシートヒーターが自動で OFF する場合があります。

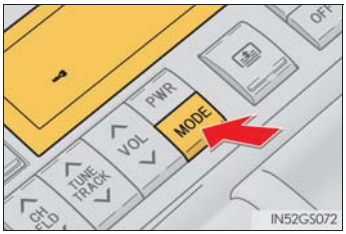
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ボタンロック機能（リヤコントロールパネル装着車）

誤った作動を防止するために、リヤコントロールパネルの操作を禁止することができます。

ロックするには MODE ボタンをブザーが鳴るまで押してください。
もう一度 MODE ボタンをブザーが鳴るまで押すと解除されます。

ボタンロック中は、ディスプレイにインジケーターが表示されます。



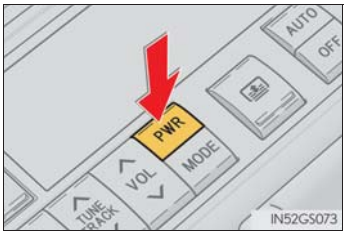
■スイッチ操作ができないときは（リヤコントロールパネル装着車）

ボタンロック機能が解除されているにもかかわらず、リヤコントロールパネルの操作ができないときは、エアコンの後席操作禁止スイッチによって、リヤコントロールパネルの操作を禁止されていないことを確認してください。（別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください）

■画面消灯機能（リヤコントロールパネル装着車）

リヤコントロールパネルの画面を消灯することができます。

画面を消灯するにはPWRボタンをブザーが鳴るまで押してください。
もう一度PWRボタンをブザーが鳴るまで押すと、画面が表示されます。



■カスタマイズ機能

フロントシートヒーター（シートベンチレーター非装着車）の自動制御や、フロントシートヒーター＆ベンチレーターまたはリヤシートヒーターのオート設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 441）

⚠警告

■やけどについて（シートヒーター装着車）

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。
  - 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
  - 皮膚の弱い方
  - 疲労の激しい方
  - 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
  シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
  低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

■ **シートヒーター／シートベンチレーターの故障を防ぐために**

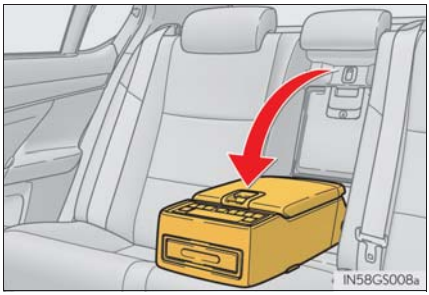
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ **バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止しているときは、シートヒーター／シートベンチレーターを使用しないでください。

リヤアームレスト

手前に倒して使用します。



⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

リヤサンシェード★／リヤドアサンシェード★

リヤサンシェード

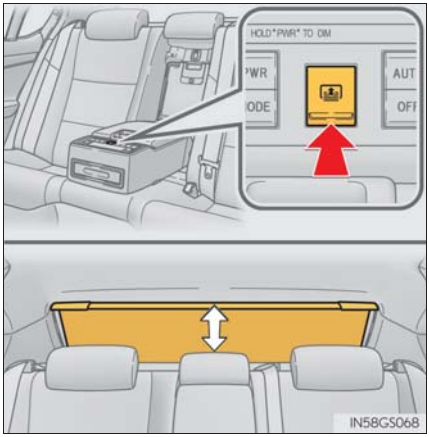
スイッチ操作でリヤサンシェードが上昇／下降します。

■ フロント席からの操作

① ノブを握ってロックを解除する
② アームレストをうしろにスライドさせる
③ 上昇／下降

■ リヤ席からの操作★

上昇／下降

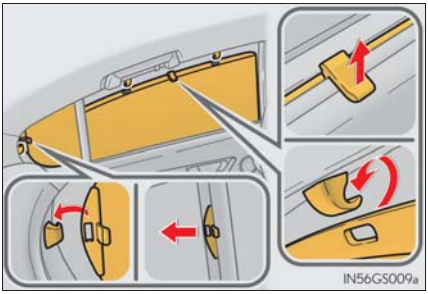


★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

リヤドアサンシェード

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、ゆっくり収納します。



知識

■リヤサンシェードの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチを OFF にしたあと、約 1 分間リヤサンシェードを操作できます。

■リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、次のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す※
- シフトレバーを P に入れる
- シフトレバーを R 以外にし、15km/h 以上で走行する
  リバース連動機能により、リヤサンシェードが下降した状態でエンジンを停止した場合は、再びエンジンを始動させて 15km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

※ スイッチ操作後はリバース連動機能が作動しない場合があります。作動可能状態にするには、再度上記の操作を行ってください。

■ボタンロック機能（リヤコントロールパネル装着車）

誤った作動を防止するために、リヤコントロールパネルのボタン操作を禁止することができます。（→ P. 284）

■画面消灯機能（リヤコントロールパネル装着車）

リヤコントロールパネルの画面を消灯することができます。（→ P. 285）

■カスタマイズ機能

シフトレバーを R にしてからリバース連動機能が働くまでの時間を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 434）

⚠ 警告

■リヤサンシェードが作動しているとき

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンがかかっていない状態では、リヤサンシェードを操作しないでください。

■正常に機能させるために

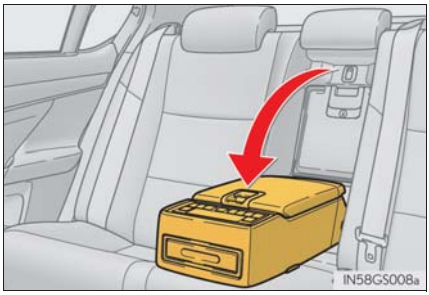
次のことをお守りください。

- リヤサンシェードのモーターや他の部分に負荷をかけすぎない
- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- リヤサンシェード・リヤドアサンシェードにものを貼らない
- 溝をきれいに保つ
- 長時間リヤサンシェードの操作を続けない

トランクスルー

トランクとリヤ席のスペースを利用して、長い荷物を積むことができます。

1 リヤアームレストを倒す

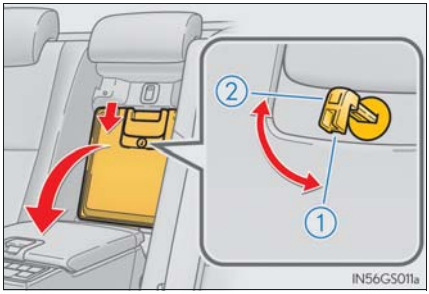


2 ハンドルを押し下げてアームレストドアを開ける

アームレストドアはメカニカルキーを使って施錠／解錠できます。

① 解錠

② 施錠



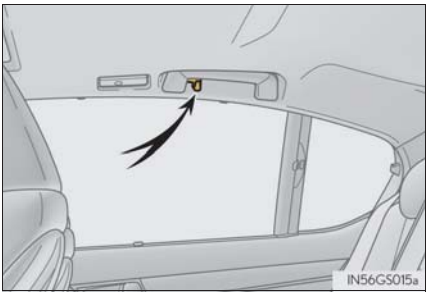
⚠ 警告

■使わないとき

アームレストドアを閉めておいてください。
急ブレーキをかけたときに収納していたものが客室に飛び出したり、けがをするおそれがあります。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



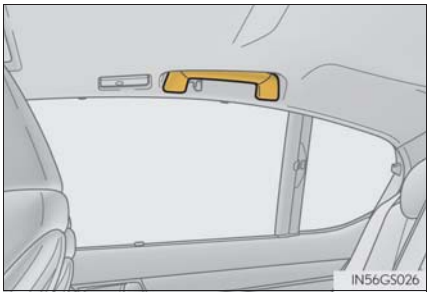
⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

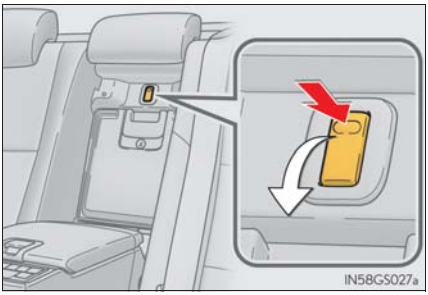
⚠ 注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

ユーティリティーフック★

使用するときは、フックを押します。



⚠ 警告

■使用しないとき

必ずフックをもとの位置に戻しておいてください。

⚠ 注意

■破損を防ぐために

2kg 以上のものや大きいものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 296
内装の手入れ 300
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 303
ガレージジャッキ 305
エンジンルームカバー.....307
ウォッシャー液の補充.....309
タイヤについて 310
電子キーの電池交換.....319
ヒューズの点検・交換.....321
電球（バルブ）の交換.....332

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ・リヤスポイラー★が引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
  近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する
（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー & スタートシステムの作動を停止する（→ P. 102）

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・ 金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

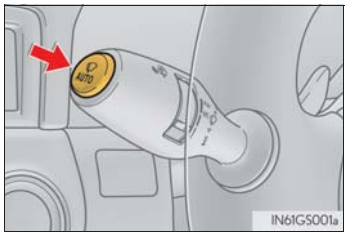
⚠ 警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパーの AUTO モードを OFF にし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。(→ P. 182)
ワイパーが AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管およびデュアルエキゾーストパイプ（バンパー一体ディフューザー付き）について

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。
・ 海岸地帯を走行したあと
・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき

ワイパーの AUTO モードを OFF にし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。（→ P. 182）
ワイパーが AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 33)
  電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは
（LKA［レーンキーピングアシスト］装着車）

白線認識用カメラ（→ P. 209）にさわらないように注意してください。
誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、LKA の誤作動や故障につながるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

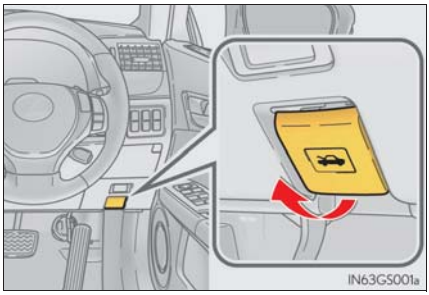
●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

ボンネット

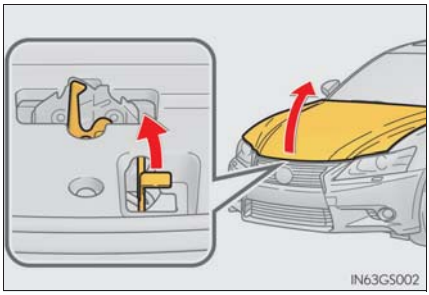
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

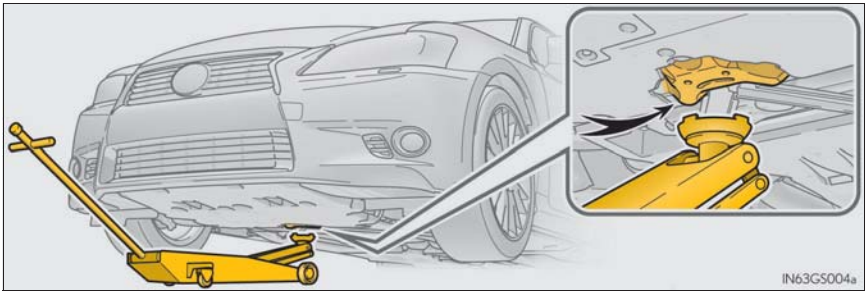
- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ・ロッド部を軍手などでふれない
  - ・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
  - ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

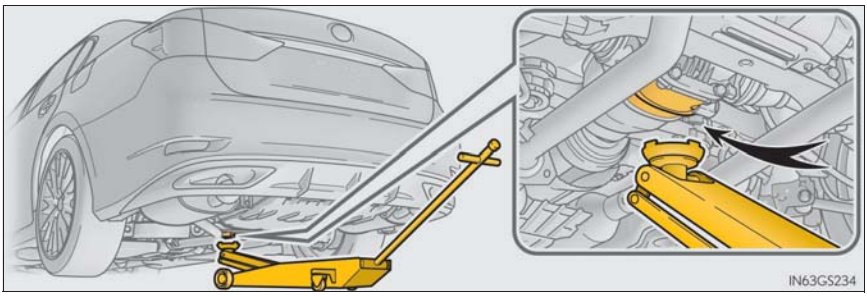
◆ フロント側

▶ FR 車



▶ AWD 車

◆ リヤ側

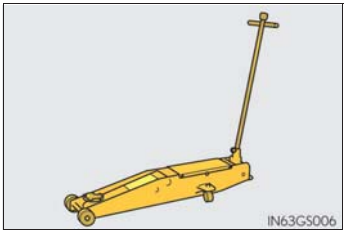


⚠ 警告

■車両を持ち上げるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる



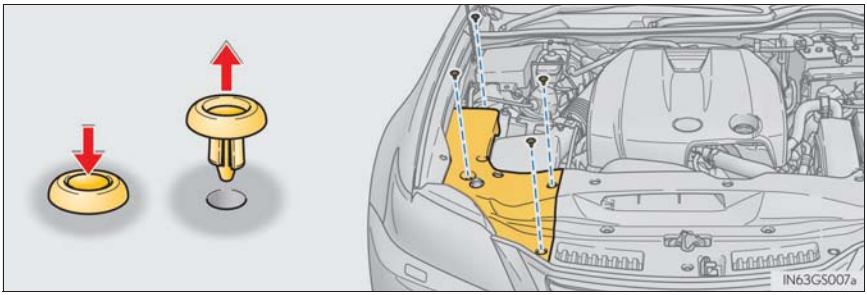
- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する
- 車に搭載されているジャッキを使用しない
  車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない
- 平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にする
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
  ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

エンジンルームカバー

電球（バルブ）の点検・交換やメンテナンスなどを行うときに取りはずします。

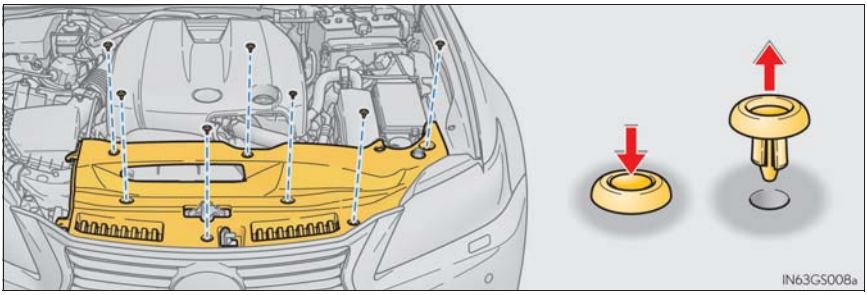
エンジンルームカバーの取りはずし方

▶ 運転席側



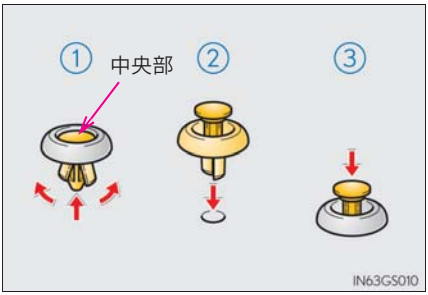
▶ 中央

運転席側エンジンルームカバーをはずしてから行います。



クリップの取り付け方

① クリップの中央部分を押し上げる
② 挿し込む
③ クリップ中央部分を押す



警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

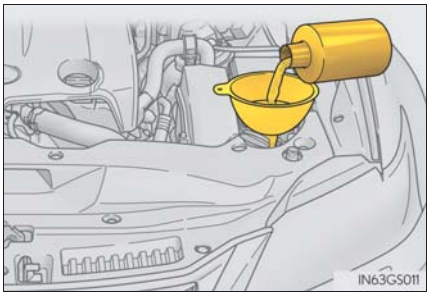
■エンジンルームカバー取り付け後の確認

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を FR 車は 10,000km ごとに、AWD 車は 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

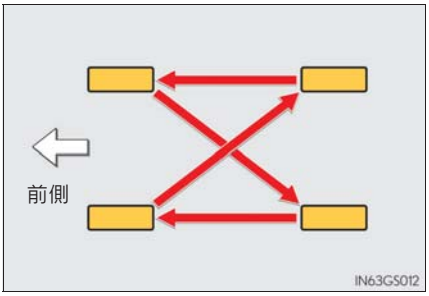
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

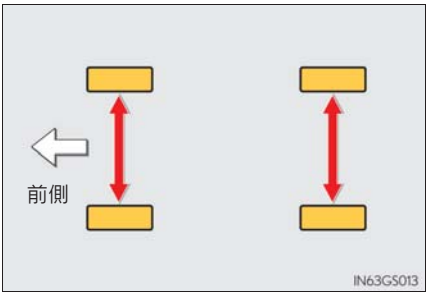
図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

▶ 前後のタイヤサイズが同じ車両



▶ 前後のタイヤサイズが異なる車両



タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

▶ タイヤ空気圧表示機能非装着車

空気圧が一定値をこえて低下している場合、警告灯で警報します。(→ P. 361)

▶ タイヤ空気圧表示機能装着車

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 377)
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。(→ P. 77)

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へご依頼ください。(→ P. 313)

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

走行速度・重量変化などでタイヤ空気圧を変更した場合、およびタイヤローテーションを実施したときは、初期化操作を行ってください。

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

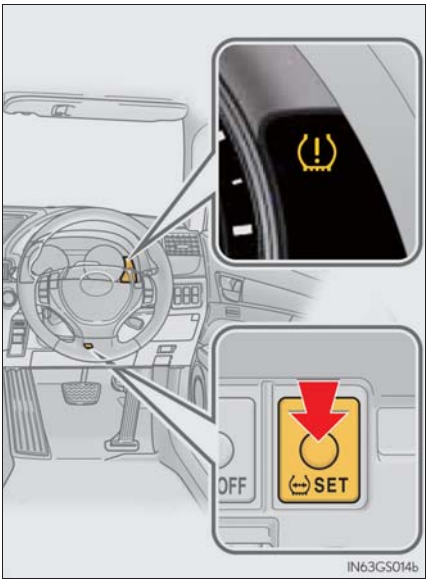
車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する（→ P. 313, 432）

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける



5 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたまま数分※待ち、その後エンジンスイッチを OFF にする

※ 設定が完了するには 2 ～ 3 分かかります。

ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。
ID コードの登録については、レクサス販売店にご依頼ください。

知識

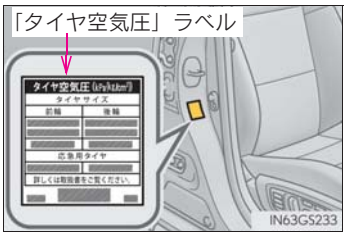
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm²）	
	前輪	後輪
19 インチ以外	230（2.3）	
19 インチ	240（2.4）	250（2.5）

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm²）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■タイヤローテーションを行うとき（タイヤ空気圧表示機能装着車）

必ずエンジンスイッチが OFF の状態で行ってください。イグニッション ON モードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度イグニッション ON モードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

■低偏平タイヤについて（18 インチ／ 19 インチタイヤ装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。（→P. 258）

■低偏平タイヤの空気圧点検（18 インチ／ 19 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
- 純正ホイール以外を使用したとき
- OE タイヤ（純正装着タイヤ）以外に交換したとき
- 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ロックナットを装着しているとき
- 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
- 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
- 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。（タイヤ空気圧表示機能装着車のみ）

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■初期化操作について

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●初期化中にエンジンスイッチをOFFにしてしまった場合は、次回イグニッションONモードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

通常 2、3 分で終了します。ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときは、レクサス販売店にて点検を受けてください。

●スイッチ操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）

●初期化してから約 20 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

■タイヤ空気圧警報システムの警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

■ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。
ID コードの切りかえについては、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ホイールを交換するとき（FR 車の GS350 “F SPORT” グレードのみ）

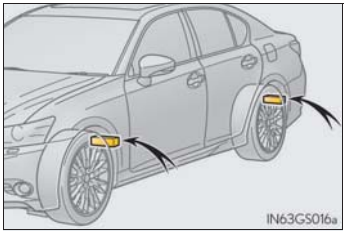
スチールホイールは取り付けないでください。
ホイールの接触面が損傷し、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

■電波がおよぼす影響についての警告（タイヤ空気圧表示機能装着車）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナから約 45cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。



- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

■ **低偏平タイヤについて（18 インチ／ 19 インチタイヤ装着車）**

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■ **走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ **タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換**

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
  レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ **パンク修理剤を使用したとき**

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■ **悪路走行に対する注意**

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

電子キーの電池交換

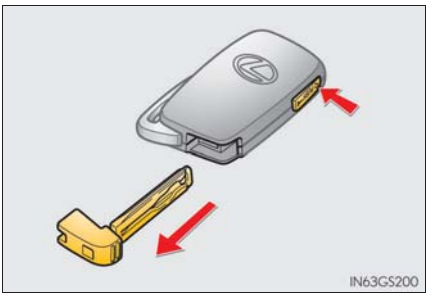
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

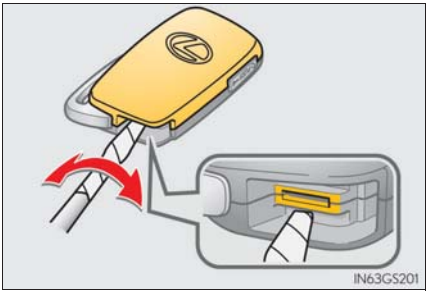
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



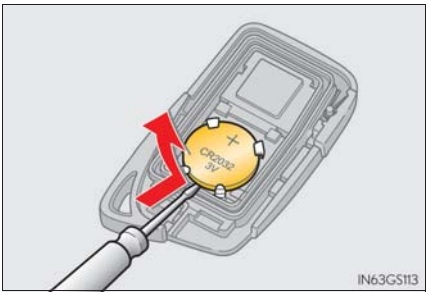
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

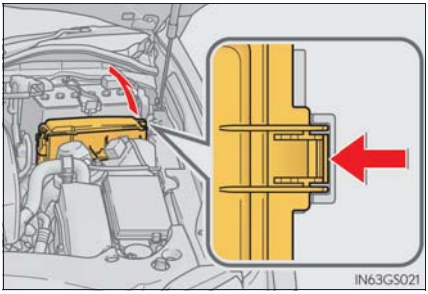
1 エンジンスイッチを OFF にする

2 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」（→ P. 323）で確認する

3 ヒューズボックスを開ける

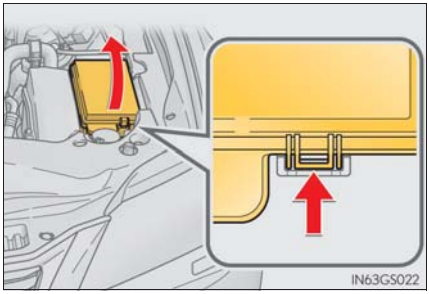
▶ エンジンルーム（1）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



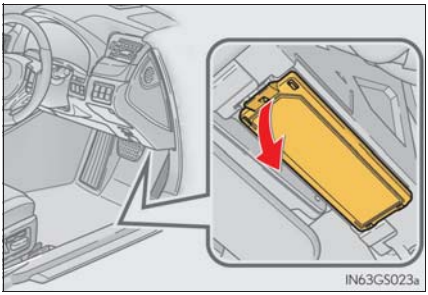
▶ エンジンルーム（2）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



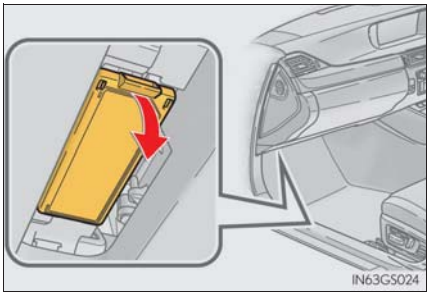
▶ 運転席足元

カバーを取りはずす



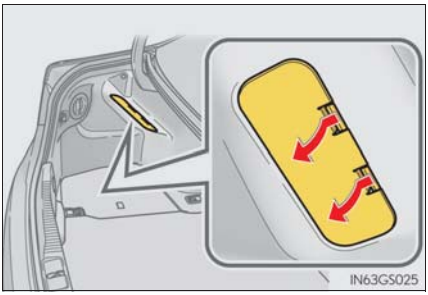
▶ 助手席足元

カバーを取りはずす

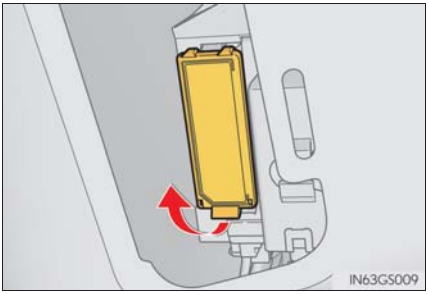


▶ トランク内

ツメを押しながら手前に引いて、カバーを取りはずす

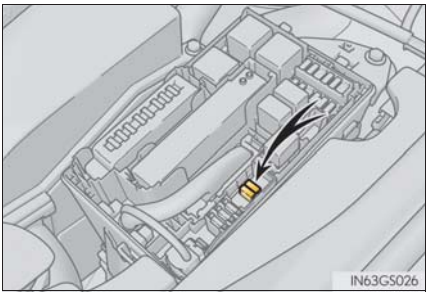


カバーを取りはずす



4 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

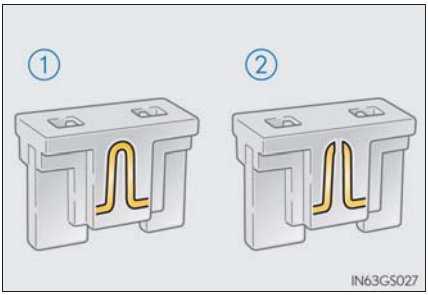


5 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

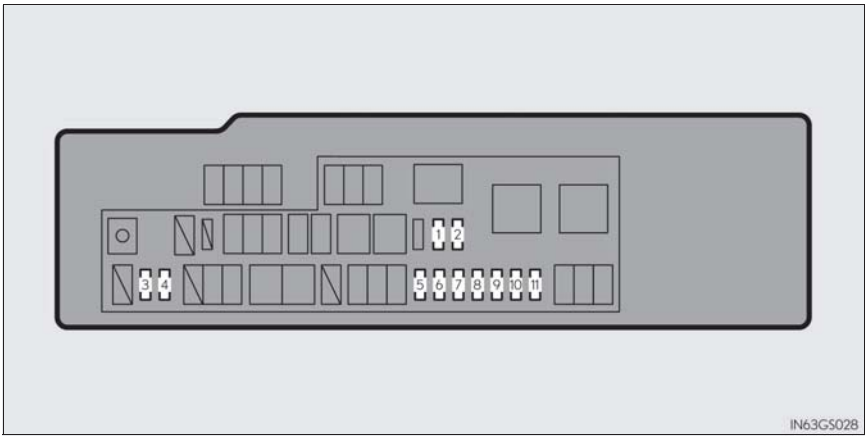
② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



ヒューズの配置と負荷

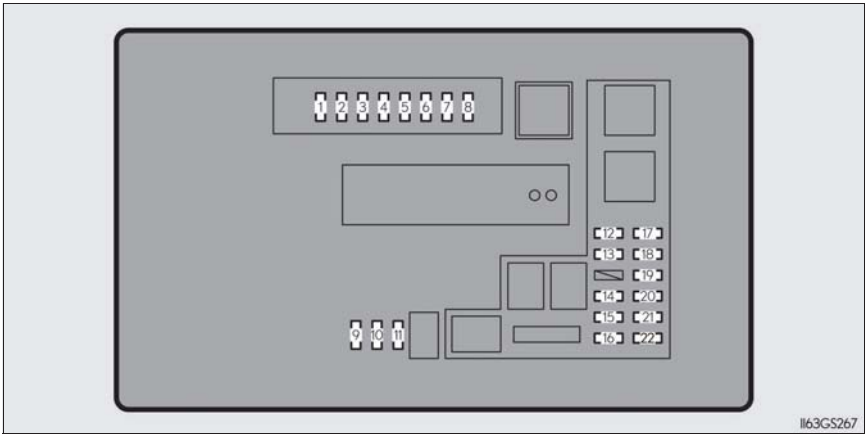
■ エンジンルーム（1）



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	DOME	7.5A	フロントパーソナルランプ、リヤパーソナルランプ、オーナメント照明、トランクランプ、足元照明、ドアカーテシランプ、バニティランプ、ドアハンドル照明、パワートランクリッド
2	MPX-B	10A	スマートエントリー＆スタートシステム、チルト＆テレスコピックステアリング、パワーシート、ヘッドアップディスプレイ、メーター、ステアリングセンサー、パワートランクリッド、時計、オーバーヘッドモジュール、フロントドアECU
3	FILTER	10A	コンデンサー
4	A/C COMP	7.5A	エアコン
5	R/B-B	20A	電動パワーステアリング、TV
6	HORN	10A	ホーン
7	ETCS	10A	燃料噴射システム
8	ALT-S	7.5A	充電制御

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
9	ECU-B	7.5A	スマートエントリー＆スタートシステム
10	DCM	7.5A	DCM
11	D ／ C CUT	30A	室内灯

■ エンジンルーム（2）



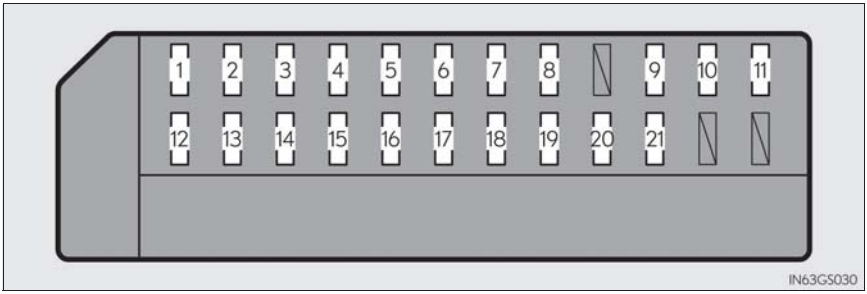
ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	IGN	10A	始動系
2	INJ	10A	燃料噴射システム
3	EFI NO.2	10A	燃料システム、排気システム
4	IG2 MAIN	20A	始動系、メーター、燃料噴射システム、SRS エアバッグ
5	EFI MAIN	25A	燃料噴射システム
6	A/F	15A	吸気系
7	EDU	20A	燃料噴射システム
8	F/PMP	25A	燃料系
9	SPARE	30A	予備ヒューズ
10	SPARE	20A	予備ヒューズ
11	SPARE	10A	予備ヒューズ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
12	H-LP LH-LO	20A	ヘッドランプロービーム（助手席側）※1
13	H-LP RH-LO	20A	ヘッドランプロービーム（運転席側）※1
14	WASH-S	5A	運転支援システム
15	WIP-S	7.5A	ワイパー、パワーマネジメントシステム
16	COMB SW	5A	ワイパー
17	TV	7.5A	ディスプレイ
18	EPS-B	5A	電動パワーステアリング
19	ODS	5A	未使用
20	IG2 NO.1	5A	パワーマネジメントシステム
21	GAUGE	5A	メーター
22	IG2 NO.2※2	5A	燃料系

※1 ディスチャージヘッドランプ装着車の場合、ロービームとハイビームは同一のバルブです。

※2 8速オートマチック車

■ 運転席足元

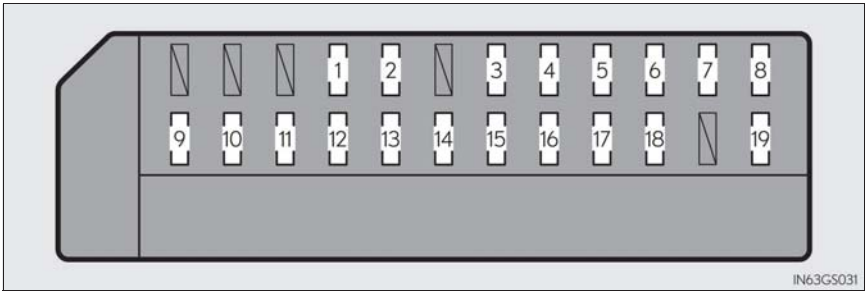


ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	STOP	7.5A	制動灯、ハイマウントストップランプ
2	P/SEAT1 F/R	30A	パワーシート
3	FR P/OUTLET	15A	アクセサリーソケット（フロント）
4	P/W-B	5A	パワーウインドウマスタースイッチ
5	RR P/OUTLET	15A	アクセサリーソケット（リヤ）
6	P/SEAT2 F/R	25A	パワーシート
7	AVS	20A	AVS
8	WIPER	30A	ワイパー
9	WASH	20A	ウォッシャー
10	RH ECU-IG	10A	ナビゲーションシステム、VDIM、VGRS、ナイトビュー、ステアリングヒータースイッチ
11	RH-IG	10A	AWD システム、パワーシート、ヘッドアップディスプレイ、ドライバーモニター、「ナノイー」※、シフトロックシステム、チルト＆テレスコピックステアリング、タイヤ空気圧警報システム、クリアランスソナースイッチ、テンションリデューサー、シートヒーター＆ベンチレータースイッチ
12	DOOR FR	30A	パワーウインドウ（フロント運転席側）、アウターミラー、ミラーヒーター
13	DOOR RR	30A	パワーウインドウ（リヤ運転席側）
14	RAD NO.2	30A	オーディオ
15	STRG LOCK	15A	ステアリングロックシステム

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
16	MULTIMEDIA	10A	ナビゲーションシステム、ETC/DSRC、リモートタッチ
17	RAD NO.1	30A	オーディオ
18	AIR BAG	10A	SRS エアバッグ
19	OBD	7.5A	ダイアグノーシスコネクター
20	TI & TE	20A	チルト＆テレスコピックステアリング
21	ACC	7.5A	ボデー ECU、ETC/DSRC、ヘッドアップディスプレイ､ディスプレイ､ナビゲーションシステム、リモートタッチ、シーケンシャルシフトスイッチ

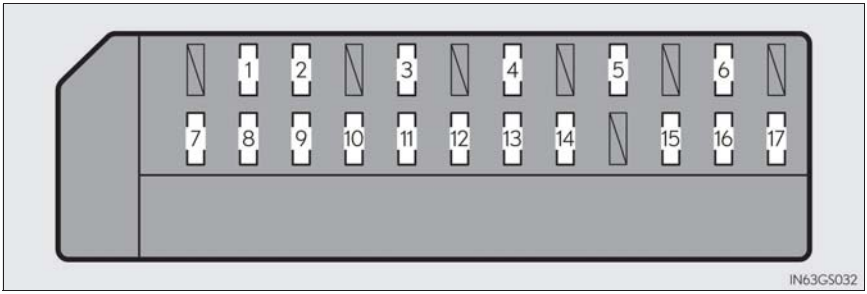
■ 助手席足元



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P/SEAT1 F/L	30A	パワーシート、パワーシートスイッチ
2	D/L NO.1	25A	ドアロックシステム
3	NV-IR	10A	ナイトビューシステム
4	FL S/HTR	10A	シートヒーター＆ベンチレーター
5	STRG HTR	15A	ステアリングヒーター
6	WIPER-IG	5A	ワイパー
7	LH-IG	10A	ボデー ECU、AFS、センターディスプレイ、雨滴センサー、インナーミラー、白線認識用カメラ（LKA）、クリアランスソナー、ムーンルーフ、テンションリデューサー、フロントドア ECU（助手席側）、パワーシート
8	LH ECU-IG	10A	エアコン、VGRS、AFS、運転支援システム
9	DOOR FL	30A	フロントドア ECU
10	CAPACITOR（HV）	10A	未使用
11	AM2	7.5A	パワーマネジメントシステム、スマートエントリー＆スタートシステム
12	D/L NO.2	25A	ドアロックシステム
13	DOOR RL	30A	パワーウインドウ（リヤ助手席側）
14	HAZ	15A	方向指示灯、非常点滅灯スイッチ
15	LH-IG2	10A	燃料噴射システム、制動灯、スマートエントリー＆スタートシステム、ステアリングロックシステム
16	LH J/B-B	7.5A	ボデー ECU

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	S/ROOF	20A	ムーンルーフ
18	P/SEAT2 F/L	25A	パワーシート
19	A/C	7.5A	エアコン

■ トランク内



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	PSB	30A	プリクラッシュシートベルト
2	PTL	25A	パワートランクリッド
3	RR J/B-B	10A	スマートエントリー＆スタートシステム
4	RR S/HTR	20A	シートヒーター（リヤ席）
5	FR S/HTR	10A	シートヒーター＆ベンチレーター（フロント席）
6	RR FOG	10A	リヤフォグランプ
7	DC/DC-S（HV）	7.5A	未使用
8	BATT FAN（HV）	20A	未使用
9	SECURITY	7.5A	SECURITY
10	ECU-B NO.3	7.5A	電動パーキングブレーキシステム
11	TRK OPN	7.5A	パワートランクリッド
12	DCM（HV）	7.5A	未使用
13	AC INV（HV）	20A	未使用
14	RR-IG1	5A	レーダーセンサー
15	RR ECU-IG	10A	パワートランクリッド、電動パーキングブレーキシステム、リヤ側コントロールスイッチ、タイヤ空気圧警報システム、DRS
16	EPS-IG	5A	電動パワーステアリング
17	BACK UP	7.5A	後退灯

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 332)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 433）

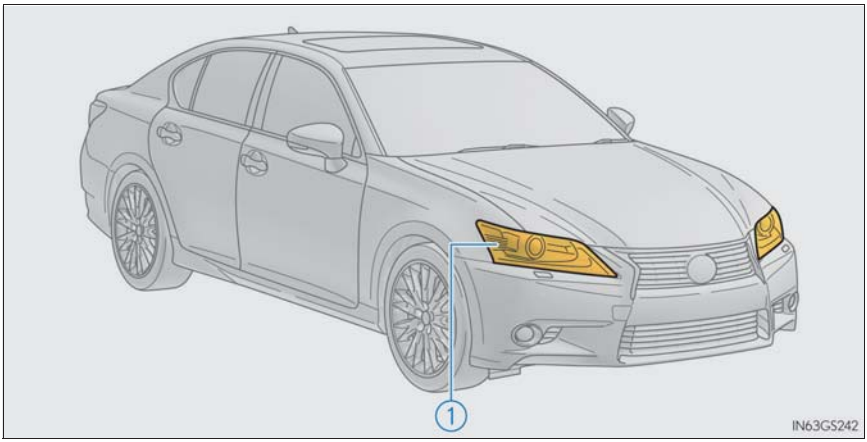
エンジンルームカバーの取りはずし

→ P. 307

バルブ位置

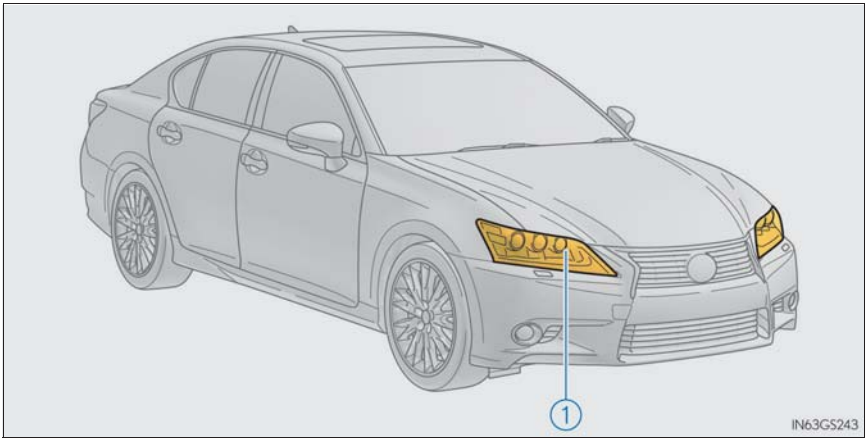
■ フロント

▶ ディスチャージヘッドランプ装着車



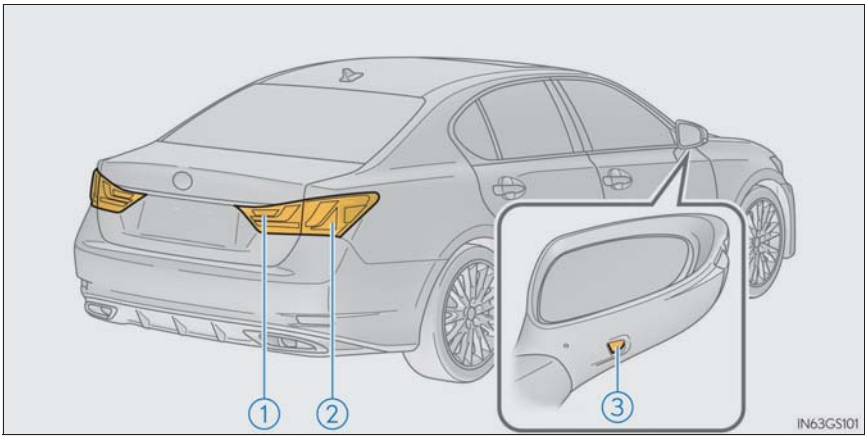
① フロント方向指示灯／非常点滅灯

▶ LED ヘッドランプ装着車



① フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ



① 後退灯※

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

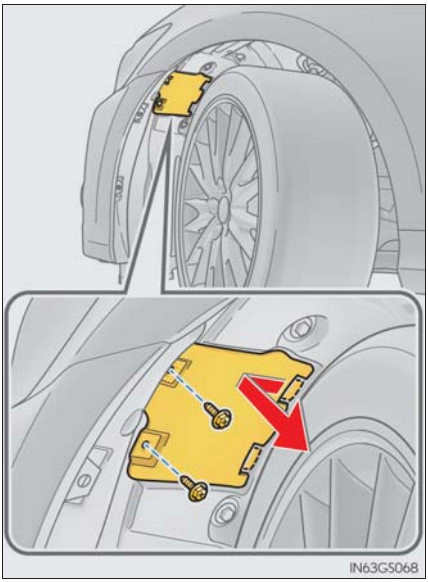
③ ドアミラー照明

※ リヤフォグランプ装着車の場合、後退灯は助手席側のみに装着されます。

電球交換のしかた

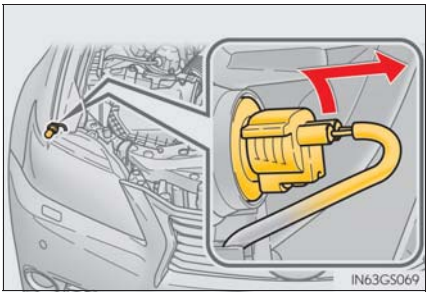
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（ディスチャージヘッドランプ装着車）

1 助手席側を交換するときは、ハンドルを右にいっぱいまでまわしてスペースを広げ、ネジ（2本）を取りはずしてカバーをはずす

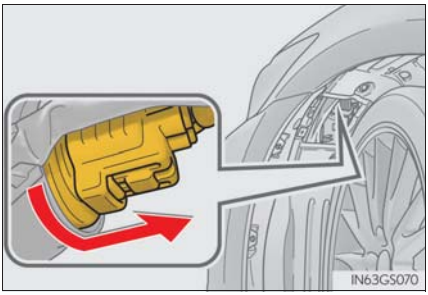


2 ソケットを取りはずす

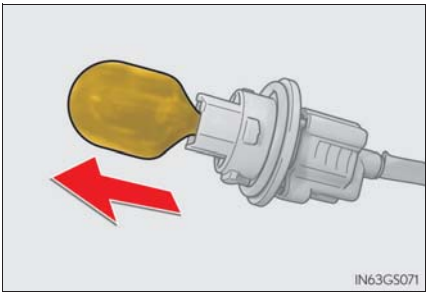
▶ 運転席側



▶ 助手席側



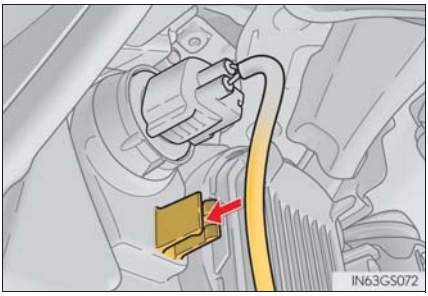
3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

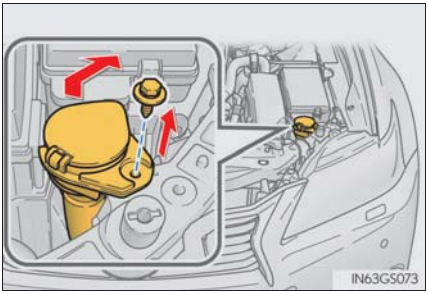
ソケットを取り付けたあとは、クリップでコードを固定し、カバー※をもとどおりに取り付けてください。

※ 助手席側のみ

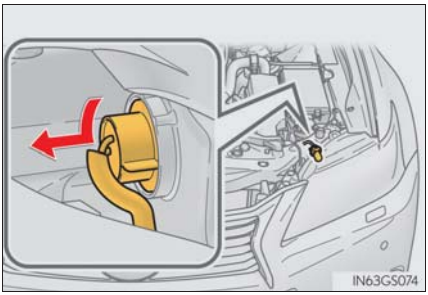


■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED ヘッドランプ装着車）

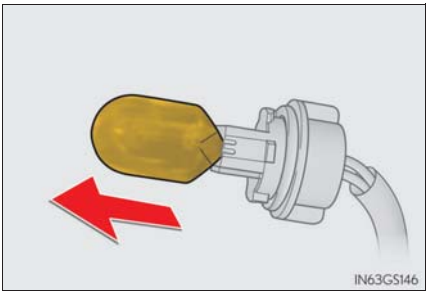
1 助手席側を交換するときは、ネジ（1 本）を取りはずしてウォッシャー液注入口の位置をずらす



2 ソケットを取りはずす



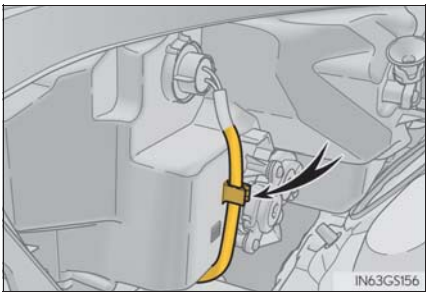
3 電球を取りはずす



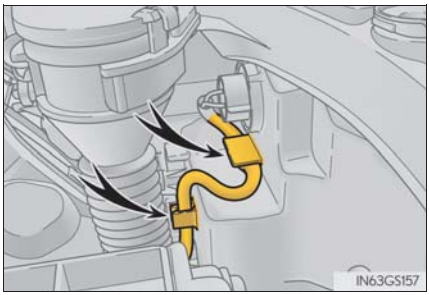
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、クリップでコードを固定してください。また、助手席側の電球を交換したときは、ウォッシャー液注入口の固定ボルトを必ずもとどおりに取り付けてください。

▶ 運転席側

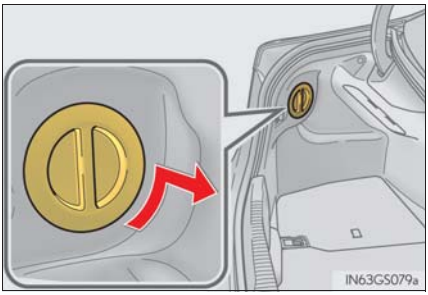


▶ 助手席側

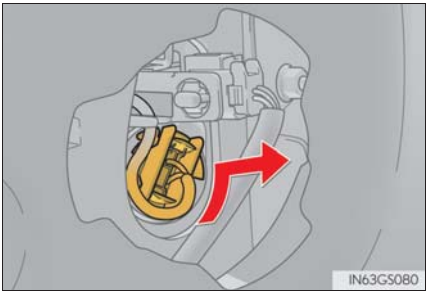


■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

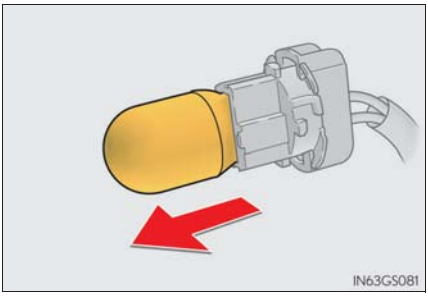
1 トランクを開け、カバーを取りはずす



2 ソケットを取りはずす

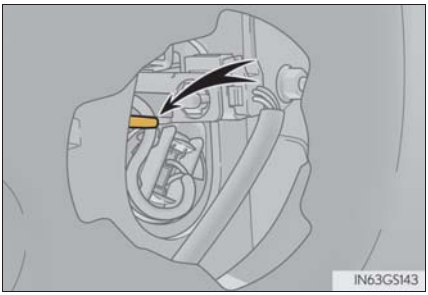


3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、クリップでコードを固定し、カバーをもとどおりに取り付けてください。

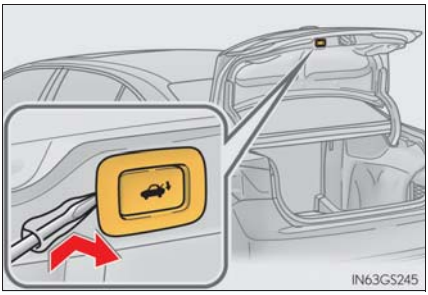


■ 後退灯

1 トランクを開ける

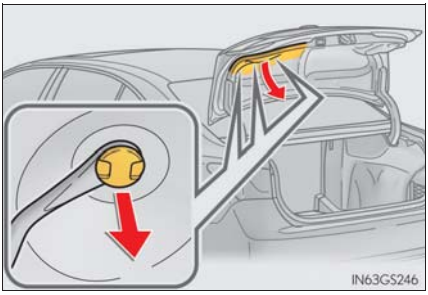
2 助手席側の電球を交換するときは、トランククローズスイッチ本体カバーの側方にマイナスドライバーを挿し込んで、片方ずつ手前に引き出す（パワートランクリッド装着車のみ）

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

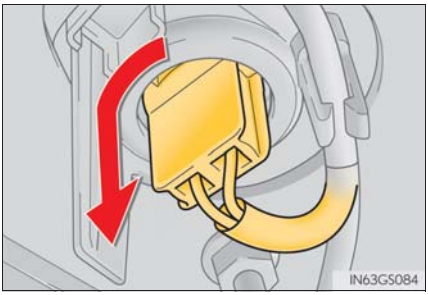


3 交換する側のクリップ（3 個）を取りはずして、トランクリッドのカバーをめくる

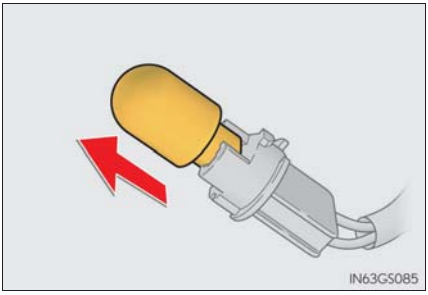
クリップの破損を防ぐため、市販のクリップリムーバーのご使用をおすすめします。



4 ソケットを取りはずす



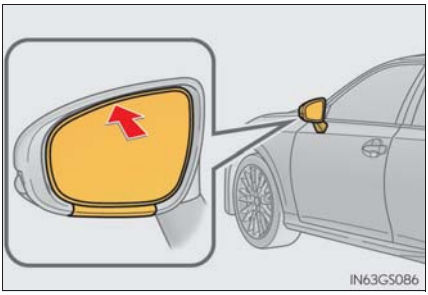
5 電球を取りはずす



6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ ドアミラー照明

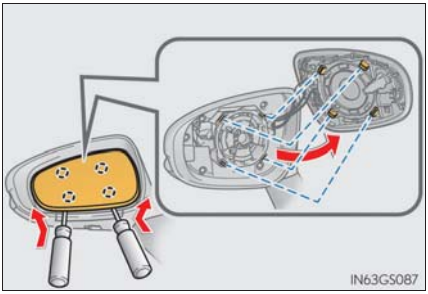
1 ミラーの上端を押して鏡面を上向きにし、ミラーのカバー下部に保護テープを貼り付ける



2 保護テープを巻いたマイナスドライバー（2 本）の先端を挿し込んで、ミラー裏側のツメ（4 か所）をはずす

ミラーを手前に引き出すようにして、2 か所ずつツメをはずします。

ミラーが急に落下しないよう、慎重に作業してください。



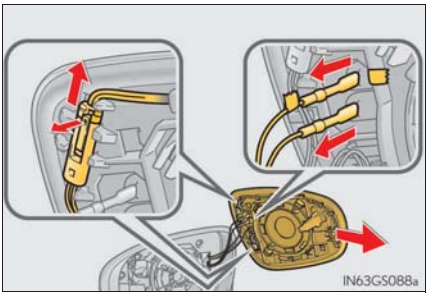
3 裏面にあるコネクター類の接続をはずし、ミラーを取りはずす

細いコネクターをはずすときは、組み付け時に間違えないよう、いずれかの側にテープなどで印を付けておきます。

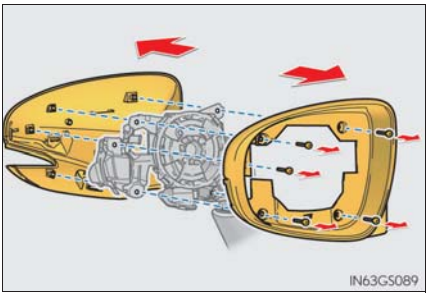
ミラーを落とさないように、慎重に作業してください。

ミラーを持つときは、グリースが塗布してある箇所をつかまないように注意してください。

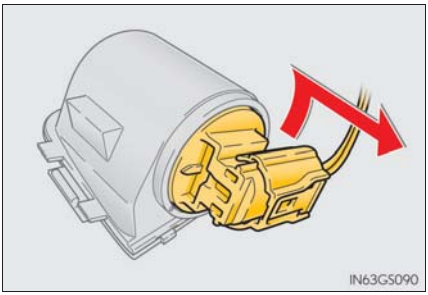
グレード・オプションなどにより、接続されているコネクターの数が異なります。



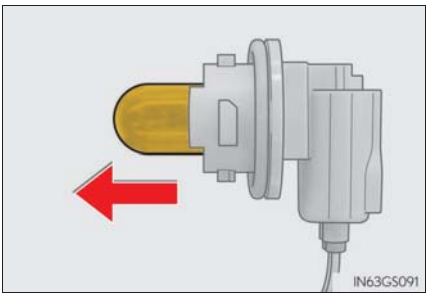
4 ネジ（5 本）をはずして、ミラーのカバー類を取りはずす



5 ソケットを取りはずす

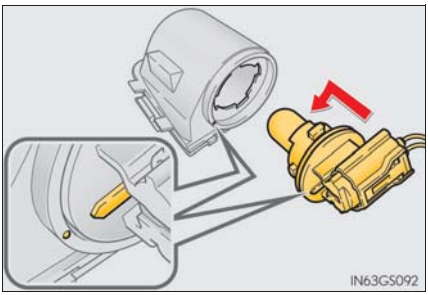


6 電球を取りはずす



7 新しい電球を取り付けてから、ソケットをランプ本体に固定する

ソケットを挿し込むときは、ランプ本体・ソケットそれぞれに刻印されているマークの位置を合わせてください。

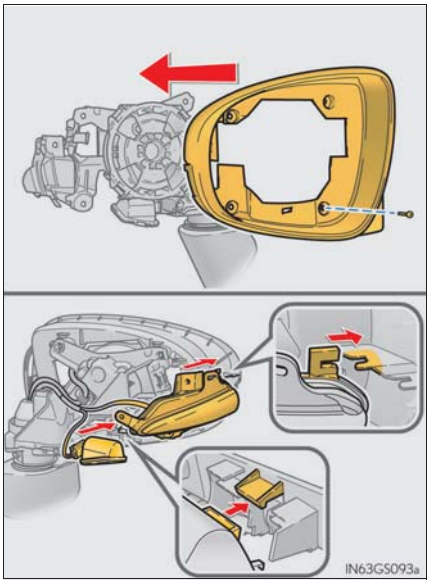


8 鏡面側のカバーをミラーのフレームに取り付けてネジ（1 本）で固定し、サイド方向指示灯と足元照明を取り付ける

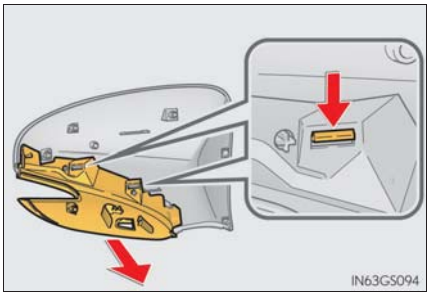
ここでは、図の位置のネジ（1 本）だけを取り付けます。

サイド方向指示灯は、ランプ側とカバー側のツメの位置を合わせて取り付けます。

足元照明は、ランプ本体側の溝とカバー側のツメをかみ合わせて固定します。

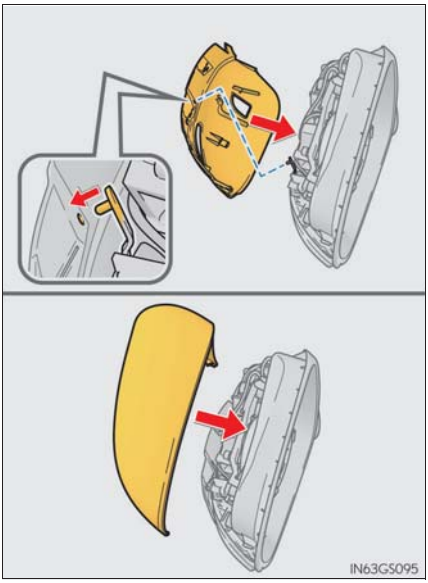


9 ツメをはずして、アウターミラーの後部カバーを上下に分離する



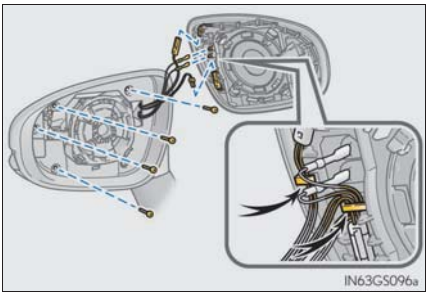
10 下側から上側の順にアウターミラーの後部カバーを取り付ける

下側のカバーを取り付けるときは、サイド方向指示灯のピンをカバーの穴に挿し込んでください。



11 ネジ（4 本）でカバーを固定し、取りはずしたコネクター類をもとどおりに取り付ける

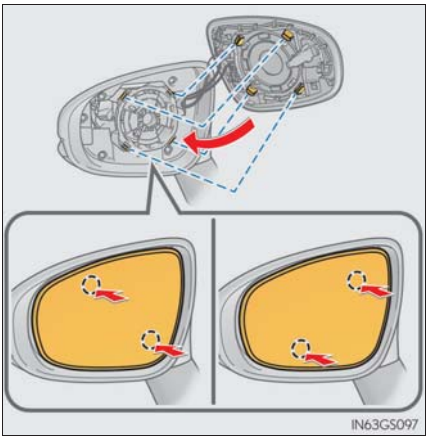
コード類はもとどおりフックにかけて固定します。



12 ツメの位置を合わせ、対角の 2 か所ずつ順番に鏡面を押し込んで、ミラーを固定する

必ず図の順序で 2 か所を同時に押し込み、パチッと音がしてツメが固定されたことを確認してください。

音が確認できないときは、無理に押し込まずにいったんミラーをはずして、ツメの位置が合っているか確認してください。



■ **次の電球を交換するには**

次のランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／ LED デイライト
- フロントフォグランプ ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 尾灯／制動灯
- リヤフォグランプ ★
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■**ディスチャージヘッドランプの作動（ディスチャージヘッドランプ装着車）**

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■**LED ランプについて**

ディスチャージヘッドランプ（前照灯）★・フロントおよびリヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯・ドアミラー照明以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■**レンズ内の水滴と曇り**

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■**電球（バルブ）を交換するとき**

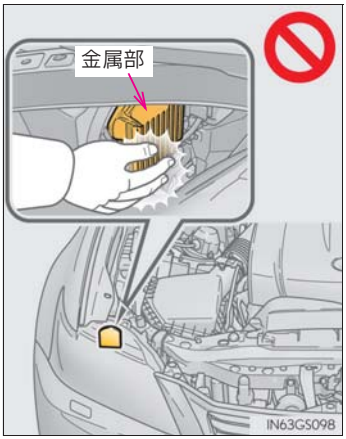
→ P. 331

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- ディスチャージヘッドランプ装着車：
  ヘッドランプの点灯中および消灯直後はヘッドランプ裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
  やけどをすることがあります。



■ディスチャージヘッドランプ★について

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
  瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 電球・ソケット・電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

注意

■ **ドアミラー照明を交換するとき**

工具・体がフロントドアガラスにあたって作業しづらい場合は、ドアガラスを開けて作業スペースを広げてください。無理に作業すると、車両に傷が付く原因になります。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 348
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....349
発炎筒 350
車両を緊急停止するには.....352

7-2. 緊急時の対処法

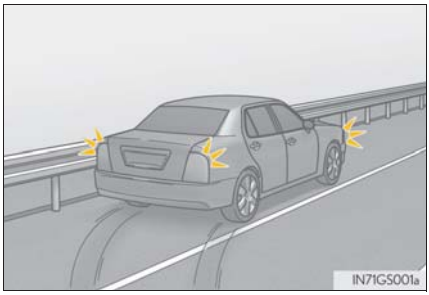
けん引について 353
警告灯がついたときは.....358
警告メッセージが
表示されたときは 364
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....385
パンクしたときは（タイヤパンク
応急修理キット装着車）.....395
エンジンが
かからないときは 411
シフトレバーが
シフトできないときは.....413
パーキングブレーキが
解除できないときは.....414
電子キーが正常に
働かないときは 416
バッテリーが
あがったときは 418
オーバーヒートしたときは.....421
スタックしたときは.....424

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 349）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



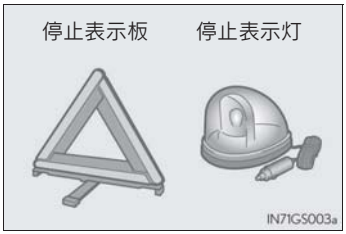
高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 350）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

- ●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- ●停止表示板･停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

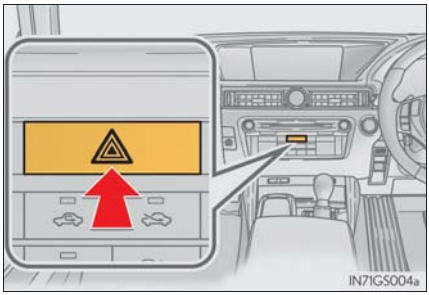


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

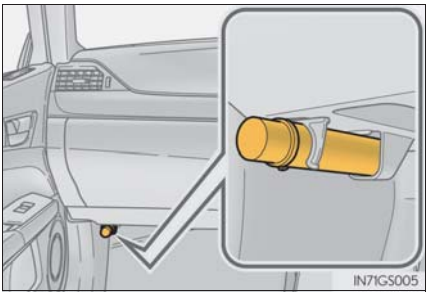
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

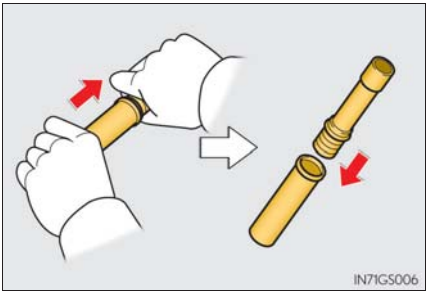
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

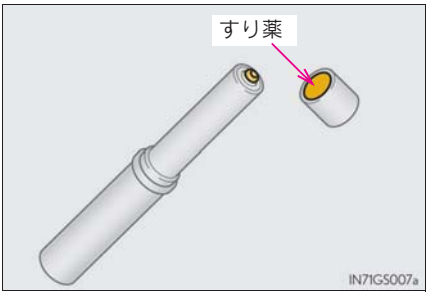


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

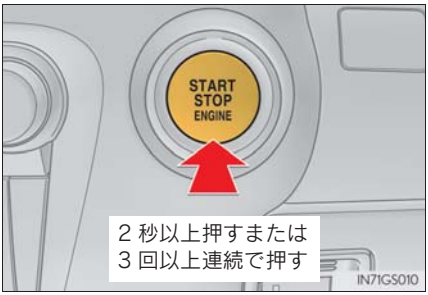
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

けん引される前に

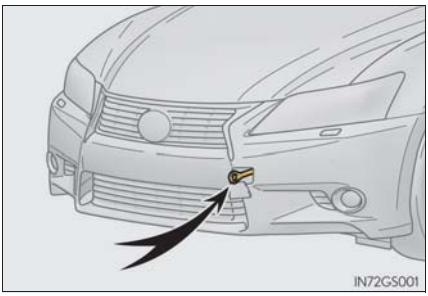
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- エンジンが回っているのに車が動かない
- 異常な音がする

けん引されるとき

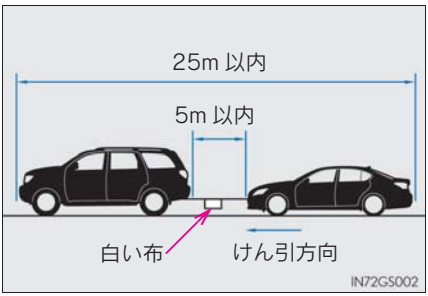
1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。



2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm × 30cm）以上



3 エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしてください。

4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

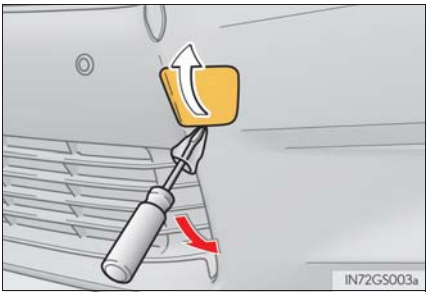
けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

けん引フックの取り付け方

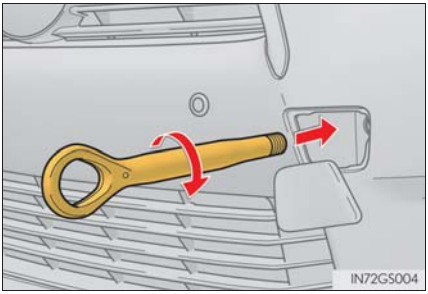
1 けん引フックを取り出す（→ P. 386, 396）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

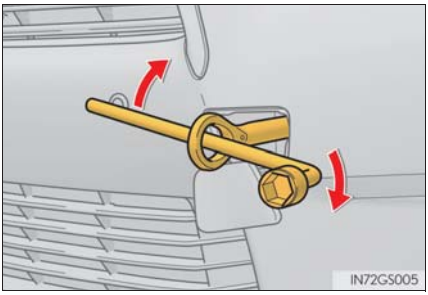
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける



知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引されるときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

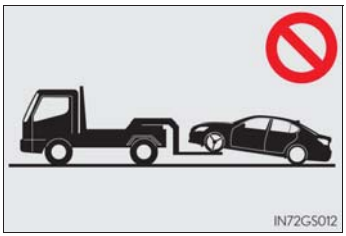
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

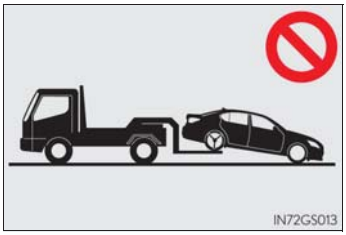
■けん引するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと駆動装置が損傷したり、車が台車から飛び出すおそれがあります。

2WD 車 : 後輪が地面に付いた状態で前からけん引しない



AWD 車 : 前輪または後輪のいずれかの車輪が地面に付いた状態でけん引しない



■けん引中の運転について

- けん引を行うときは、細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進は避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたるおそれがあります。
- エンジンスイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。
・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ倍力系統の異常

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・ エンジンの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ トランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
 （点滅）	**PCS 警告灯★** プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・ システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。（→ P. 233） ・ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にすると点灯します。（→ P. 235） ・ システムが一時的に使用できないときに点滅します。（→ P. 378）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 上記のシステムの作動時には、点滅します。(→P. 225, 231)
 (点滅)	**AFS OFF 表示灯** アダプティブフロントライティングシステムの異常
 (点滅)	**パーキングブレーキ表示灯** パーキングブレーキシステムの異常
	ブレーキ警告灯 パーキングブレーキシステムの異常

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯（警告ブザー※1） いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 9.9L 以下になった	燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2） 運転席・助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→ P. 364
	タイヤ空気圧警告灯	
	警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ・ 自然要因（→ P. 362） ・ タイヤのパンク（→ P. 385，395）	指定された空気圧に調整してください。 調整して数分後に警告灯が消灯します。空気圧を調整しても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
	警告灯が1分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

※1 半ドア走行時警告ブザー：
→ P. 370

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■応急用タイヤに交換した場合

応急用タイヤには空気圧バルブ／送信機は装備されていません。タイヤがパンクした場合、応急用タイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→ P. 314

⚠ 警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯してる場合はタイヤがパンクしている可能性がありますので、確認してください。
  タイヤがパンクしている場合は応急用タイヤに交換するか、タイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤの修理をしてください。
- 急ハンドル・急ブレーキは避けてください。
  もしタイヤの状態が悪化した場合、ハンドル操作またはブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

⚠ 注意

■タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤの種類によっては、純正ホイールを使用していてもバルブ／送信機が正常に作動しないことがあります。（例：スチールフィラー入りタイヤ）
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→ P. 312）では解除できません。

■メーカー指定以外のタイヤを使用した場合

構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用した場合、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告は、ブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
ブレーキ異常	**ブレーキ液の不足** **ブレーキ倍力装置系統の異常** 警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
	AWD システム★の異常
	オートマチックトランスミッションフルードの過熱
（点滅）	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★の異常
	クリアランスソナー★の異常 すべてのソナーが点滅して表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告メッセージ	警告内容
	クルーズコントロールシステム★またはレーダークルーズコントロールシステム★の異常 ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
	LKA（レーンキーピングアシスト）★の異常
（点滅）	**LED ヘッドランプシステム★の異常**
	AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常
	SRS エアバッグ・シートベルトプリテンショナーの異常

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告メッセージ	警告内容
	オートマチックハイビーム★の異常
	ABS・ブレーキアシストの異常
（点滅）	パーキングブレーキシステムの異常
	パーキングブレーキシステムの異常

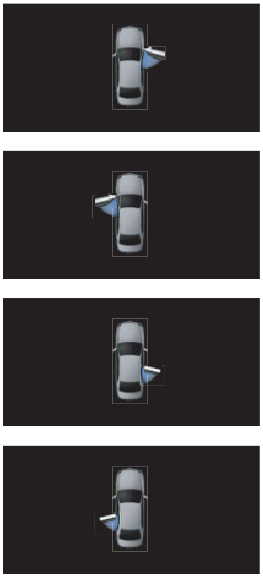
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告メッセージ	警告内容
パワーステアリング システムチェック	パワーステアリングシステムの異常
VGRS システムチェック	VGRS（バリアブルギアレシオステアリング）★の異常
DRS システムチェック	DRS（ダイナミックリヤステアリング）★の異常
BSM システムチェック	BSM （ブラインドスポットモニター）★の異常
スマートエントリー& スタートシステム チェック （点滅）	スマートエントリー＆スタートシステムの異常

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ただちに処置してください。

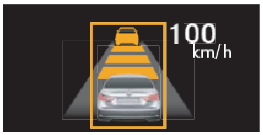
警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	**各ドアが確実に閉まっていない** 開いているドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえたときには が点滅します。	各ドアを閉める
	ボンネットが確実に閉まっていない ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえたときには が点滅します。	ボンネットを閉める

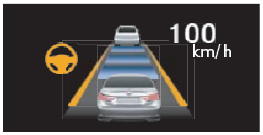
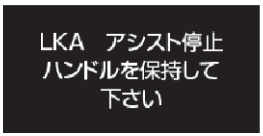
警告メッセージ	警告内容	対処方法
	トランクが確実に閉まっていない トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえたときには が点滅します。	トランクを閉める
  （点滅）	**窓が確実に閉まっていない状態でエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けた**	窓を閉める
  （点滅）	**ムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けた**	ムーンルーフを閉める
  （点滅）	**窓・ムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けた**	窓・ムーンルーフを閉める

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
パーキングブレーキを解除して下さい	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が5km/h をこえたときには が点滅します。	パーキングブレーキを解除する
パーキングブレーキオーバーヒート （点滅） （点滅）	**パーキングブレーキシステムの過熱**	システムが通常温度になるまでしばらく待つ
滑りやすい路面のため1速にできません 	**すべりやすい路面でシフトレバーを M にしてシフトレンジを 1 にした** シフトレンジは 2 のままシフトダウンしません。	2 レンジ以上で走行する
エンジンオイル不足 	**エンジンオイルの不足**	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給する

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	クリアランスソナー★のセンサー部分の汚れ、氷などの付着	汚れおよび氷などを取り除く
	レーダークルーズコントロール★のセンサー部分の汚れ、氷などの付着	汚れおよび氷などを取り除く
	レーダークルーズコントロール★の車間制御の測定不可	・スノーモードを OFF にする ・ワイパーを止めるか、オートまたは高速作動以外にかえる
	**（レーダークルーズコントロール★の車間制御中）衝突の危険性** ヘッドアップディスプレイ★に が点滅表示されます。	ブレーキで減速する

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 PCS（速い点滅）	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム★）** ヘッドアップディスプレイ★に が表示されます。	ブレーキで減速する
 	LKA（レーンキーピングアシスト）★の一時停止 ・白線認識用カメラが作動範囲外の高温状態 ・パワーステアリングシステムの作動制限中	しばらく走行してからLKAを再起動する
	**（LKA［レーンキーピングアシスト］★制御中）車線逸脱警報** 警告ブザーが連続して鳴ります。 白線またはハンドルマークが点滅して表示されます。 ヘッドアップディスプレイ★に が表示されます。（部分点滅）	周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす
 	**（LKA［レーンキーピングアシスト］★車線維持支援機能中）手放し運転警告** 警告ブザーが“ピピッ”と鳴ります。	ハンドルをしっかりにぎる

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	BSM（ブラインドスポットモニター）★のセンサー周辺のバンパーの汚れ、氷などの付着	汚れおよび氷などを取り除く
	燃料の不足	燃料を補給する
（点滅）	エンジン回転中でシフトレバーがP以外のとき、運転席ドアを開けた	シフトレバーをPにする

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■レーダークルーズコントロール★の警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

■LKA（レーンキーピングアシスト）★の車線逸脱警報について

次のような場合は、白（黄）線をまたいでも警告メッセージが表示されません。

- LKA の作動条件以外の車速のとき
- 白（黄）線を認識できていないとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき

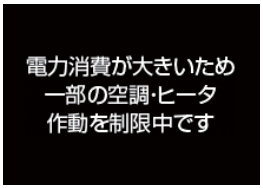
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ただちに処置してください。

次の警告は対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	ヘッドランプがロービームの状態でオートマチックハイビームスイッチ★を押した	ヘッドランプをハイビームに切りかえてから、オートマチックハイビームスイッチを押す
	ウォッシャー液が残りわずか	ウォッシャー液を補充する
	タイヤ空気圧の低下★	タイヤ空気圧を点検・調整する
	タイヤ空気圧警告システムの異常★	安全な場所に停車し再度イグニッションONモードにする タイヤ空気圧警告灯が1分間点滅し、その後点灯した場合はシステム異常です。レクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	タイヤの情報が電波状況などにより認識できていない★	しばらく走行して表示が更新されるか確認する 電波状況などが改善されると、通常の表示にもどる場合があります。数分走行しても空気圧が表示されない場合は、安全な場所に停車し、エンジンスイッチを一度OFFにしてから再度、走行してください。 数回くり返しても空気圧が表示されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
  （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が現在機能していない** システムの過熱保護のため一時的に機能していない場合にも表示されます。	・グリルまたはレーダーセンサーの汚れを取り除く ・システムの過熱保護のために表示された場合は、システムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。
 （点滅）	**電力消費が大きいため、エアコンやシートヒーター★などの作動を一時制限した**	警告メッセージが消えるまで、不要な電装品の使用をやめ、電力消費を控える 警告メッセージがひんぱんに表示される場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	（点滅）	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンを始動しようとした	電子キーを携帯してエンジンを始動する
1回	3回	（点滅）	エンジンスイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトレバーがP の状態でエンジンスイッチをOFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	エンジンスイッチをOFFにするまたは電子キーを車内にもどす

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	連続音	 （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがP の状態でエンジンスイッチをOFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	エンジンスイッチをOFFにしたあと、再度施錠する
9回	なし	 （点滅）	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	 （点滅）	シフトレバーがP以外の状態で、エンジンスイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーをPにする

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい キーが見つかりません （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがP以外の状態でエンジンスイッチをOFFにせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを車内に入れる
1回	連続音	車室内にキーがあります （点滅）	・車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした ・車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	 （点滅）	・メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・エンジンスイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーでエンジンスイッチにふれる
1 回	なし	始動時はPレンジに 入れて下さい （点滅）	エンジン始動不可能なシフトレバー位置でエンジンを始動しようとしている	シフトレバーを P にしてからエンジンを始動させる
なし	なし	バッテリー保護の為 自動電源OFFしました	自動電源 OFF 機能が作動した	次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし		電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→ P. 319)
1回	なし	(点滅)	エンジンスイッチがOFFの状態で運転席のドアを開閉してからエンジンを始動せずにエンジンスイッチをアクセサリーモードに2回した	ブレーキを踏んでエンジンスイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときのエンジンの始動の方法(→ P. 417)でエンジンスイッチに電子キーをふれた	ブザーが鳴ってから10秒以内にエンジンスイッチを押す
1回	なし	(点滅)	エンジンスイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを押す

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	（点滅）	シフトレバーがP または N 以外の状態でエンジンスイッチをOFF にした	シフトレバーをP にする
1 回	なし	（点滅）	シフトレバーがP 以外でエンジンスイッチをOFF にしたあとシフトレバーをP にした	エンジンスイッチをOFF にする

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 310 を参照してください）

⚠ 警告

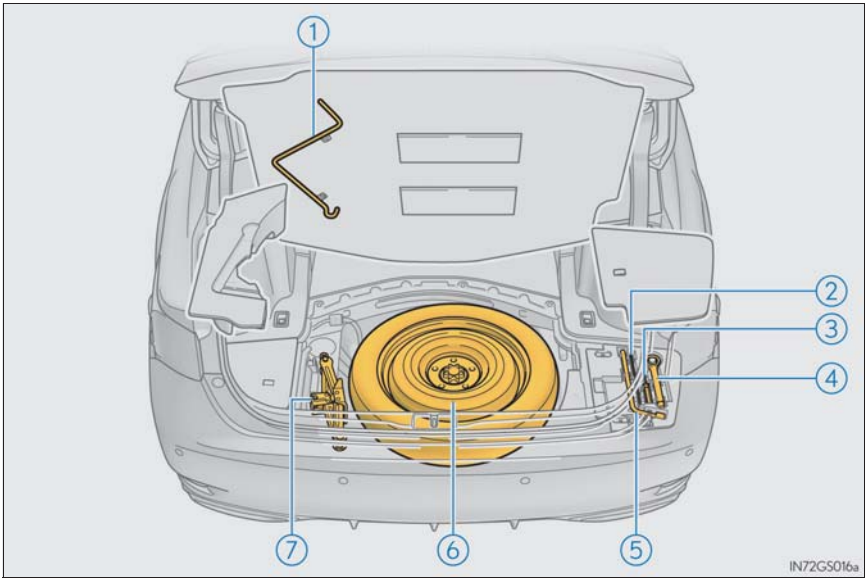
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



① ジャッキハンドル
② パーキングブレーキ解除ツール
③ ドライバー
④ けん引フック
⑤ ホイールナットレンチ
⑥ 応急用タイヤ
⑦ ジャッキ

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

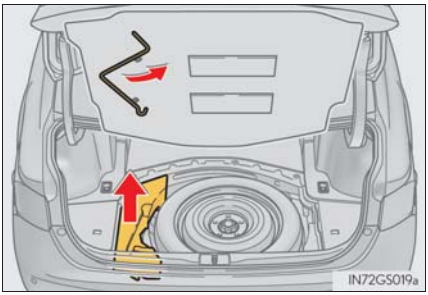
次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

1 ラゲージマットを取りはずす（→ P. 274）

2 スペーサーを取り出し、ジャッキハンドルをラゲージマットの裏から取りはずす

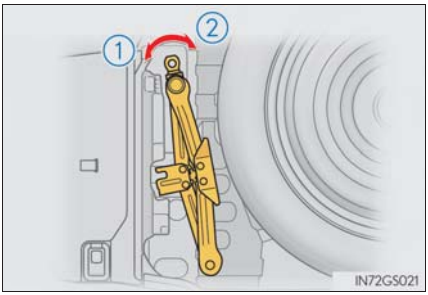


3 ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

ジャッキを収納するときは、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。

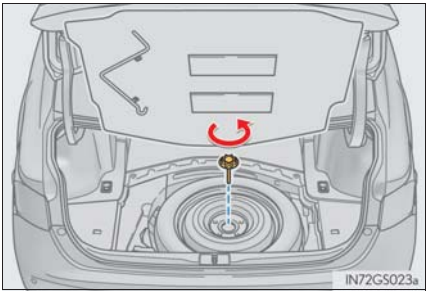


応急用タイヤの取り出し方

1 ラゲージマットを取りはずす（→ P. 274）

2 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す

スペアタイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のレンチを使用してください。（タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください）



⚠ 警告

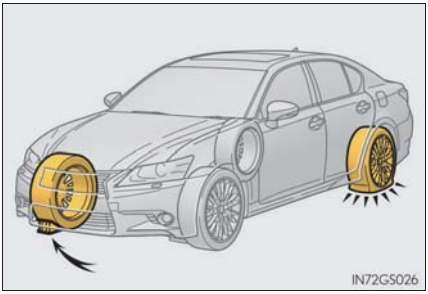
■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

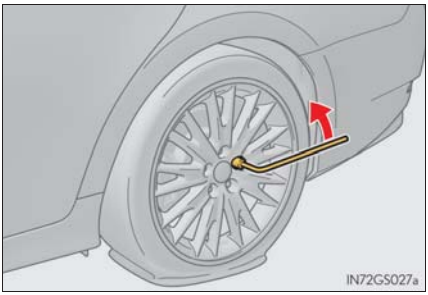
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

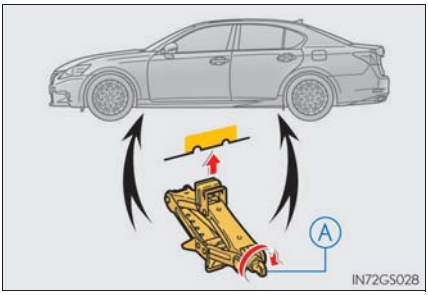


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

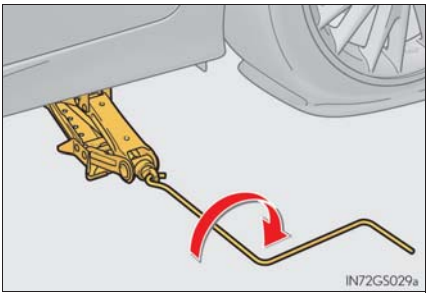
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

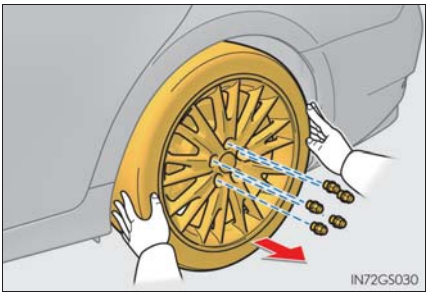


4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

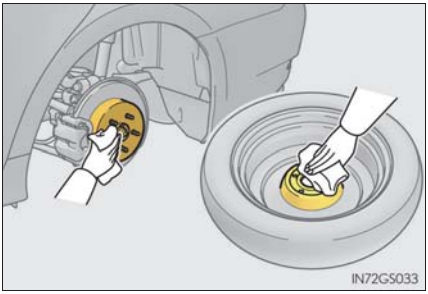
■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ねじ部にオイルやグリースを塗らない
    ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
  - ホイールの交換後は、すぐに 103N・m (1050kgf・cm) の力でナットを締める
  - タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
  - ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

応急用タイヤの取り付け

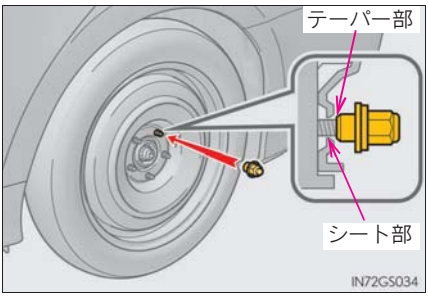
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

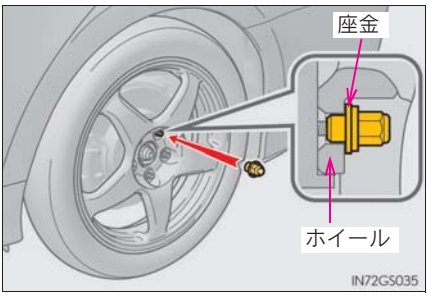


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

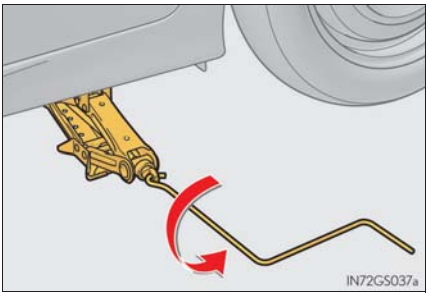
アルミホイールからスチールホイールにかえるとき：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



アルミホイールからアルミホイールにかえるとき：
ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

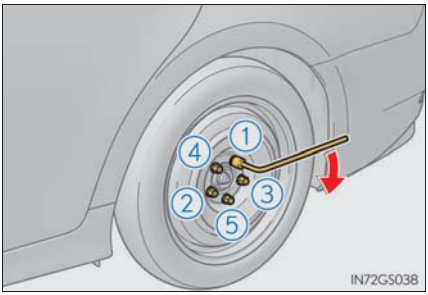


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面にTEMPORARY USE ONLYと書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。(→ P. 432)

■応急用タイヤを使用するとき

応急用タイヤにはタイヤ空気圧バルブ／送信機が装着されていません。指定の通常タイヤに交換し、正しい空気圧に調整するまではタイヤ空気圧警告灯は消灯しません。

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で後輪がパンクしたとき（前後のタイヤサイズが異なる車両を除く）

1 前輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした後輪をはずした前輪に交換する

3 タイヤチェーンを後輪に装着する

⚠ 警告

■応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- LKA（レーンキーピングアシスト）★
- NAVI・AI-AVS★
- レーダークルーズコントロール★
- クルーズコントロール★
- VGRS★
- DRS★
- LDH★
- TRC
- VDIM
- PCS★
- AFS
- GPS ボイスナビゲーション
- タイヤ空気圧警報システム
- EPS

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

■タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→ P. 318

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■パンクしたままの走行について

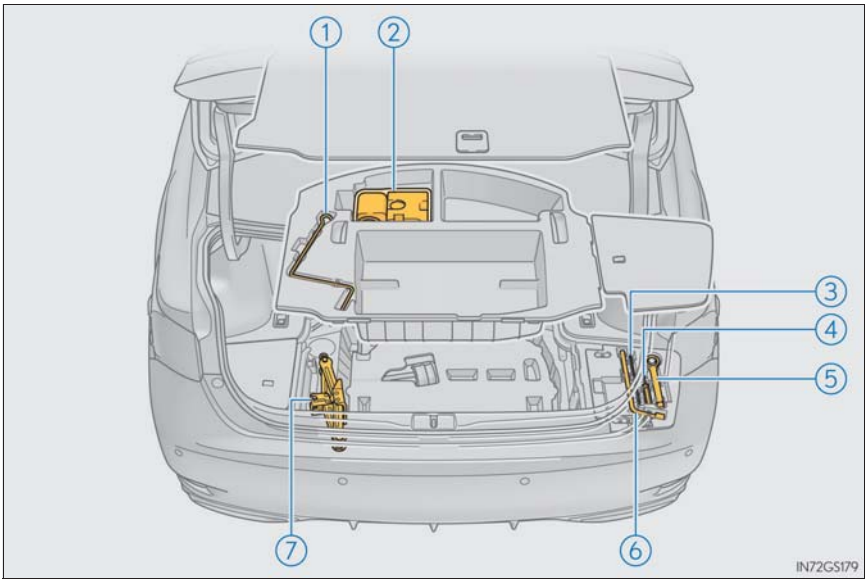
タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P. 349）

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

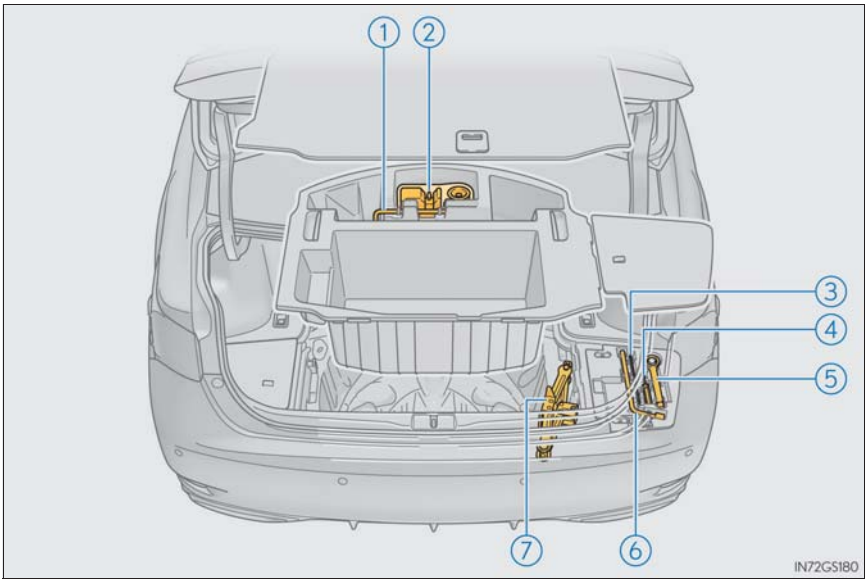
▶ A タイプ



① ジャッキハンドル
② タイヤパンク応急修理キット
③ パーキングブレーキ解除ツール
④ ドライバー
⑤ けん引フック
⑥ ホイールナットレンチ
⑦ ジャッキ※

※ ジャッキの使い方（→ P. 389）

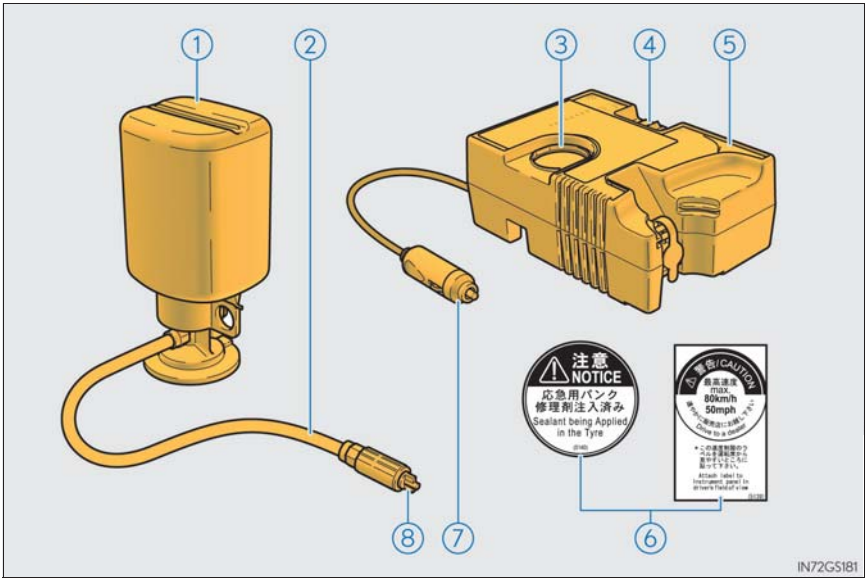
▶ B タイプ



① ジャッキハンドル
② タイヤパンク応急修理キット
③ パーキングブレーキ解除ツール
④ ドライバー
⑤ けん引フック
⑥ ホイールナットレンチ
⑦ ジャッキ※

※ ジャッキの使い方（→ P. 389）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



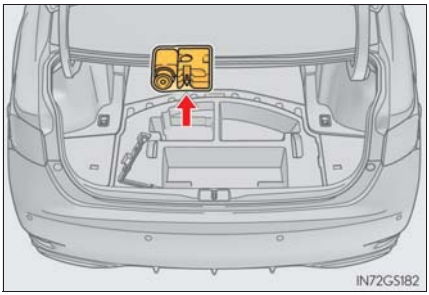
① パンク補修液
② ホース
③ 空気圧計
④ 電源スイッチ
⑤ コンプレッサー
⑥ ラベル
⑦ 電源プラグ
⑧ 空気逃がしキャップ

応急修理キットの取り出し方

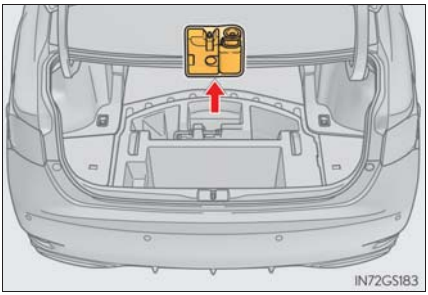
1 ラゲージマットを取りはずす（→ P. 274）

2 応急修理キットを取り出す

▶ A タイプ



▶ B タイプ

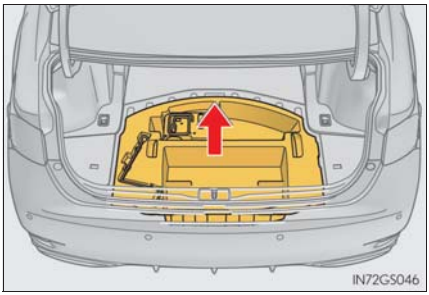


ジャッキの取り出し方

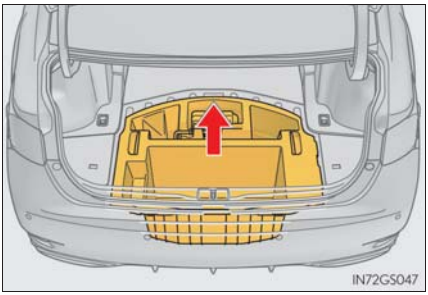
1 ラゲージマットを取りはずす（→ P. 274）

2 ラゲージトレイを取りはずす

▶ A タイプ



▶ B タイプ

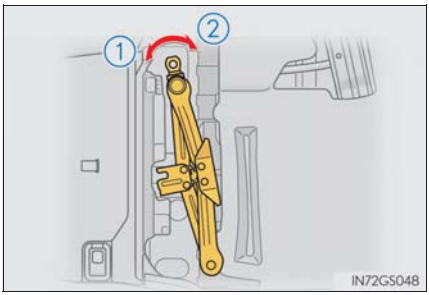


3 ジャッキを取りはずす

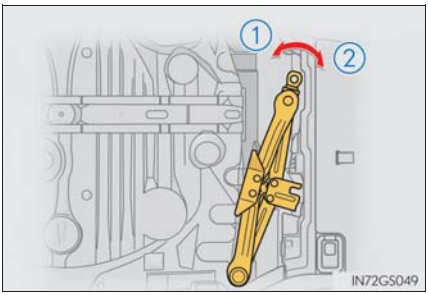
① 締まる

② ゆるむ

▶ A タイプ



▶ B タイプ



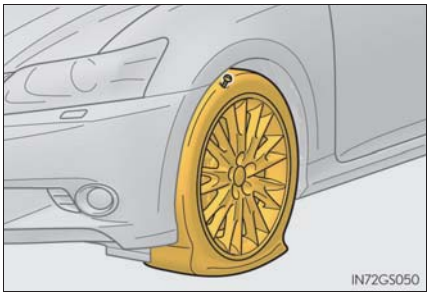
応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

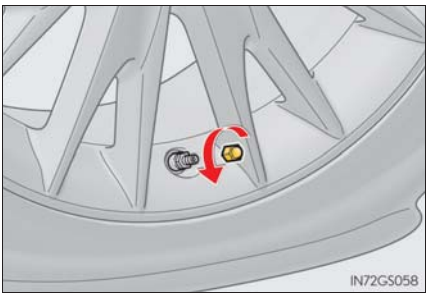
・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



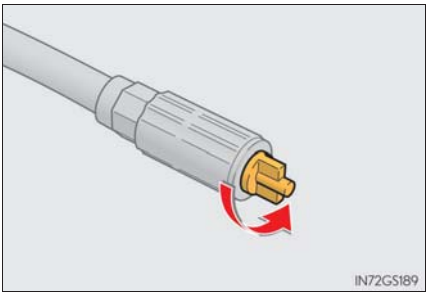
応急修理するとき

1 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



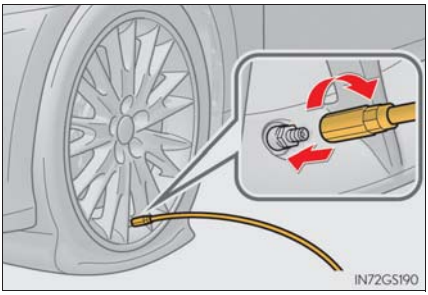
2 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

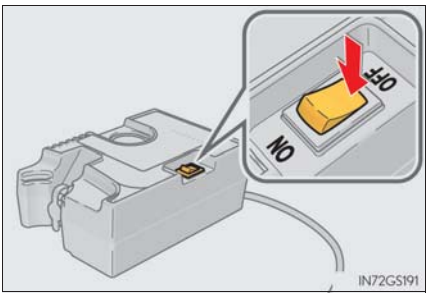


3 ホースをバルブに接続する

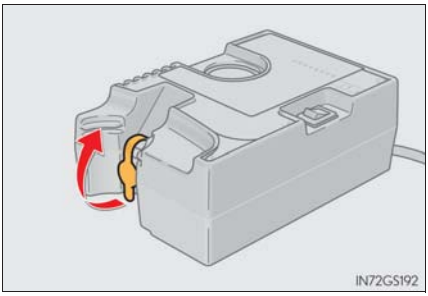
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



4 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する

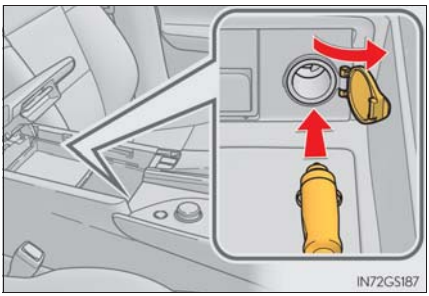


5 コンプレッサーのゴム栓をはずす

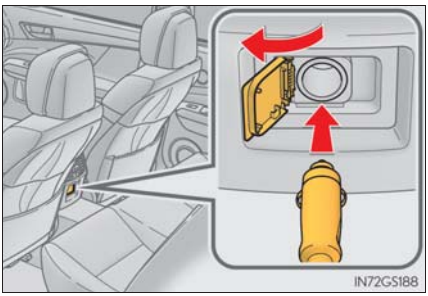


6 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む

▶ フロント

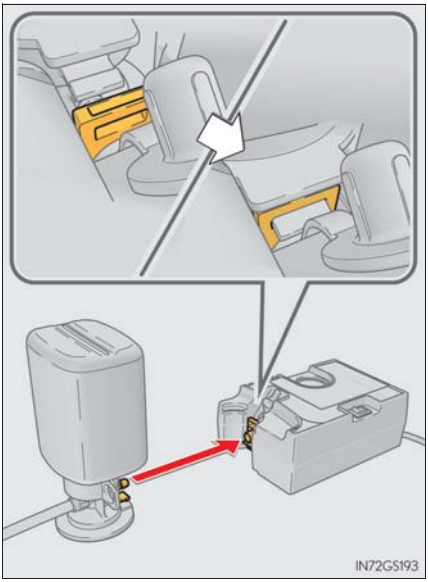


▶ リヤ



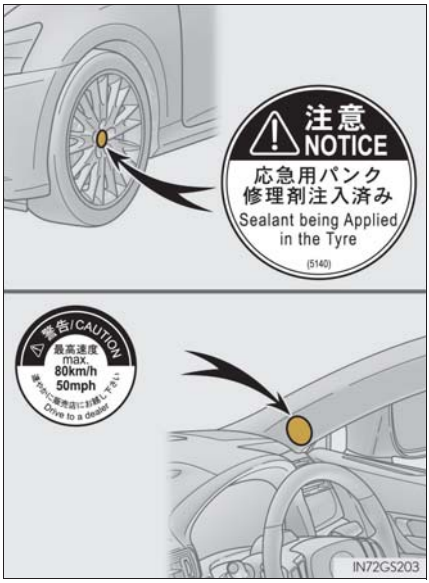
7 ボトルをコンプレッサーに接続する

しっかりと接続されているか確認してください。



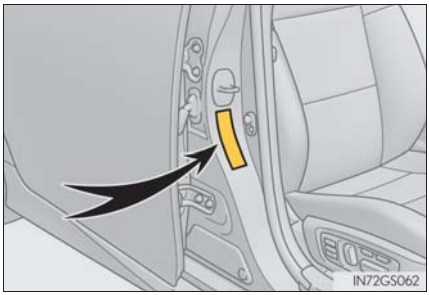
8 付属のラベル２枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、レクサス販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。



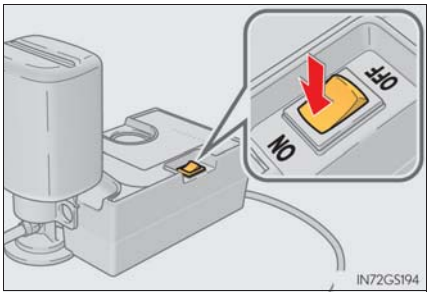
9 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 432）



10 エンジンを始動する（→ P. 153）

11 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



12 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa (3.0 ～ 4.0kg/cm^2) まで上昇し、徐々に減少します。

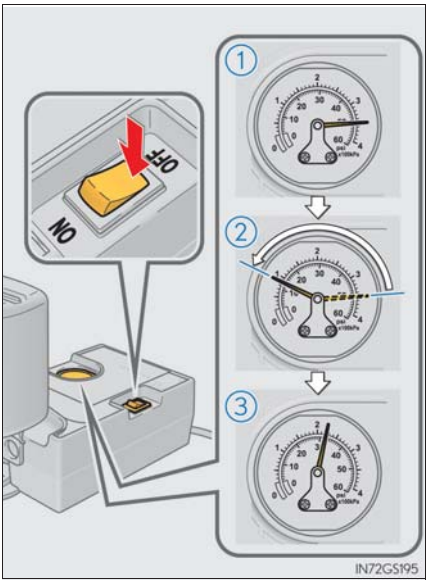
② スイッチを ON にしてから 1 分程度（低温の場合は 15 分程度）で実際の空気圧表示になります。

③ 指定空気圧になるまで充填する

・ コンプレッサーのスイッチを OFF にして空気圧を確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

・ 10 分以上（低温の場合は 35 分以上）充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にしてレクサス販売店にご連絡ください。

・ 空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→ P. 408, 432)



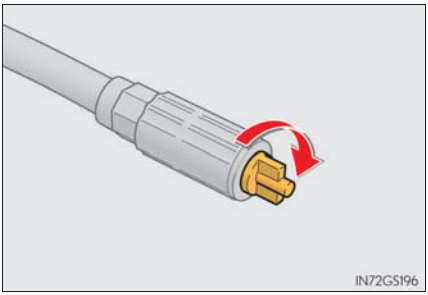
13 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

14 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

15 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

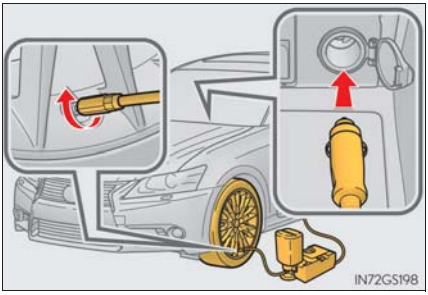
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



16 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

17 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに5 km 程度、速度 80 km/h 以下で安全に走行する

18 走行後、平坦で安全な場所に停車し、再度コンプレッサーを接続する

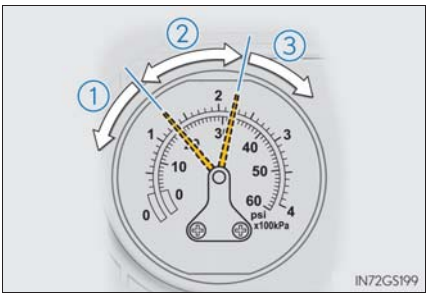


19 コンプレッサーのスイッチをONにして数秒間経過後、スイッチをOFFにして空気圧を確認する

① 空気圧が130kPa(1.3 kg/cm^2)未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

② 空気圧が130kPa(1.3 kg/cm^2)以上、指定空気圧未満の場合：手順 20 へ

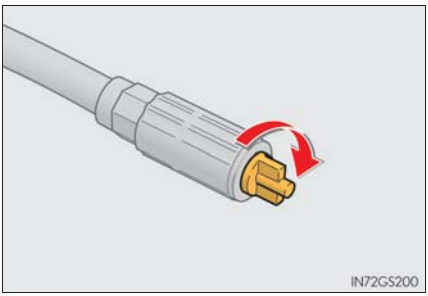
③ 空気圧が指定空気圧(→P. 432)の場合：手順 21 へ



20 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて手順 18 から実施する

21 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



22 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納します

23 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、100km 以内、速度 80 km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に走行する

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限がきれているとき

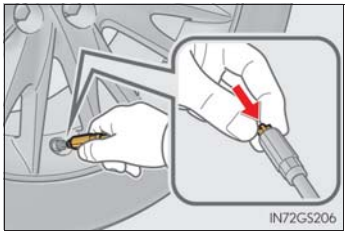
■応急修理キットについて

- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーはくり返し使用できます。
- 外気温度が− 40 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

●応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

●応急修理キットを使用したときは、タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限がきれたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

⚠ 警告

■応急修理キットについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。応急修理が完全に行われないおそれがあります。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。35 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・ 空気圧を確認してください。130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはトランクに収納してください。
  急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損するおそれがあります。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 153）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 153）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
  （→ P. 57）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 418）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 412）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 418）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

  対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 エンジンスイッチをアクセサリーモードにする

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

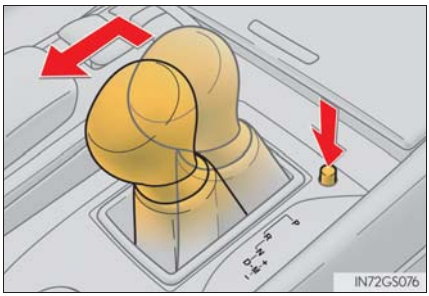
1 パーキングブレーキをかける

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードにする

3 ブレーキペダルを踏む

4 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



パーキングブレーキが解除できないときは

バッテリーがあがったときや、パーキングブレーキスイッチを操作してもパーキングブレーキが解除されないときは、次の手順で手動解除することができます。緊急時などでパーキングブレーキを解除する必要があるときのみ行ってください。バッテリーが正常のときにスイッチ操作で解除できない場合は、パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

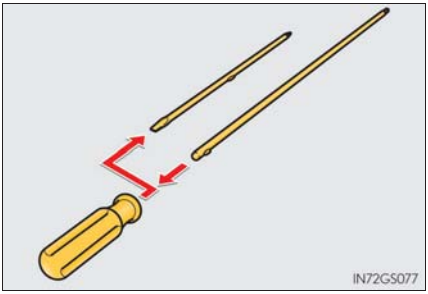
手動解除する前に

- シフトレバーを P にする
- エンジンスイッチを OFF にする
- パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認する
- 輪止めをする

手動解除の方法

1 パーキングブレーキ解除ツールと車載ドライバーをトランクから取り出す（→ P. 386, 396）

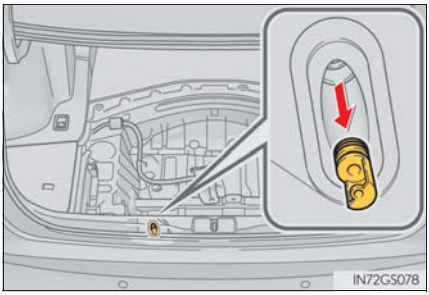
車載ドライバーのハンドルに専用工具を取り付けます。



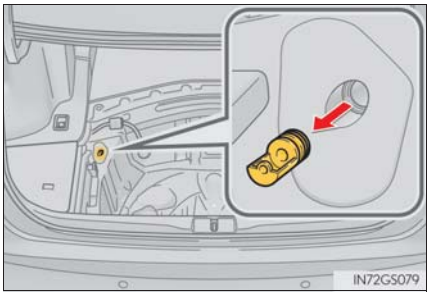
2 応急用タイヤ装着車：スペアタイヤを取り出す（→ P. 388）
タイヤパンク応急修理キット装着車：ラゲージトレイを取りはずす（→ P. 399）

3 キャップを取りはずす

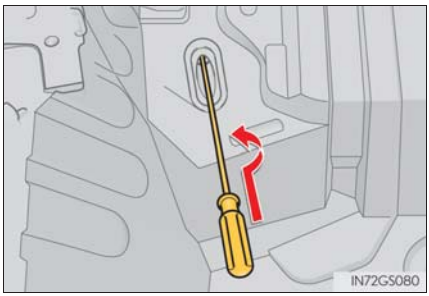
▶ A タイプ



▶ B タイプ



4 工具を挿し込み、強く押しあてながら左へ止まるまでまわす



知識

■手動操作について

パーキングブレーキを手動でかけることはできません。

⚠ 警告

■手動解除するときの警告

- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずシフトレバーを P にして輪止めで固定してください。
  車両が動き出すおそれがあるため、特に注意してください。
- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずエンジンスイッチを OFF にして、パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
  エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときに手動解除を行うと、システムが作動して挿し込んだ工具が回転し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

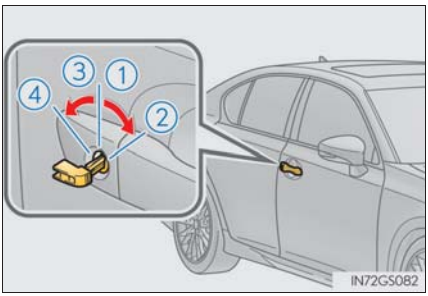
電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 102）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

■ ドア

メカニカルキー（→ P. 93）を使って次の操作ができます。



① 全ドア施錠

② ドアガラスとムーンルーフが閉まる（まわし続ける）※

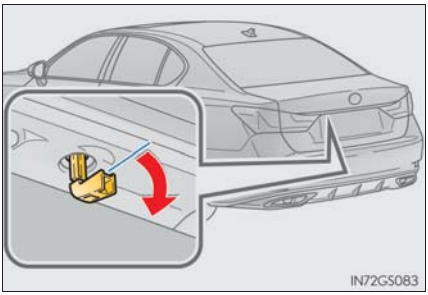
③ 全ドア解錠

④ ドアガラスとムーンルーフが開く（まわし続ける）※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 434）

■ トランク

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける



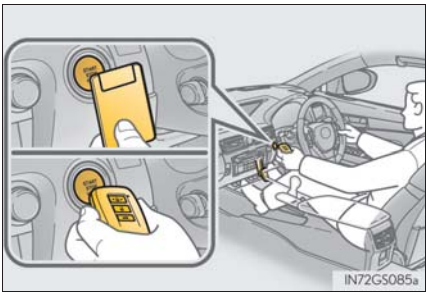
エンジン始動の方法

1 シフトレバーがPの状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 319)

■モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。
(→ P. 154)

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 434)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。(→ P. 102)

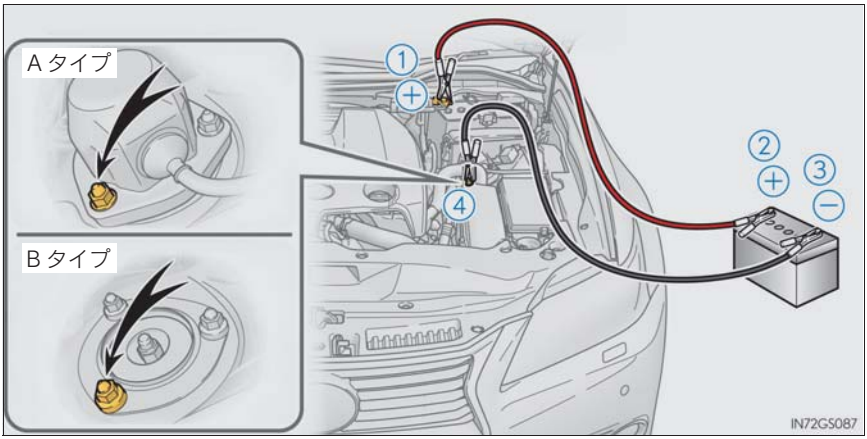
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 ボンネットを開ける（→ P. 303）

2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する

6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラームが作動するとキーが車内に閉じ込められるおそれがあります。(→ P. 59)

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンがかからないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

⚠ 警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

⚠ 注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 71）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する (スピードが出ないなど)
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

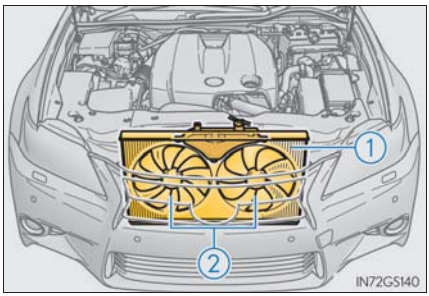
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



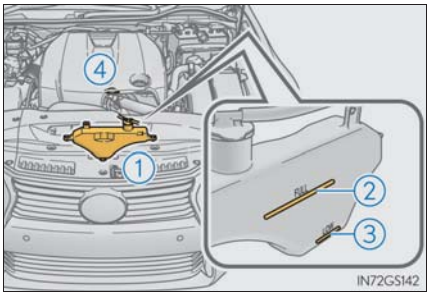
4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

② “FULL”（上限）

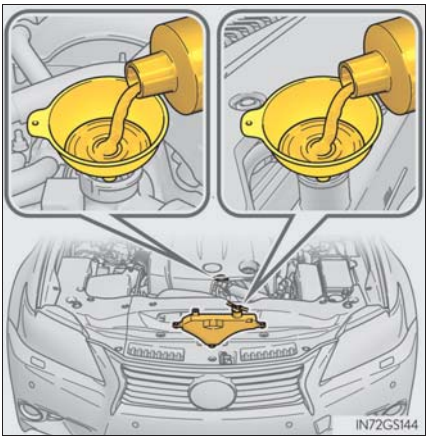
③ “LOW”（下限）

④ 冷却水注入口のキャップ



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する

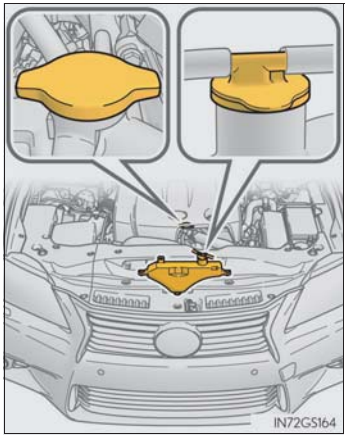
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップや冷却水注入口のキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。



⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

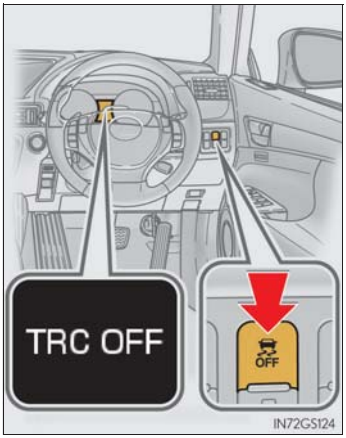
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
3 後輪の下に木や石などをあてがう
4 エンジンを再始動する
5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください。
(→P. 225)



⚠ 警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）....428
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧 434
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....444

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	66

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）		
	駆動方式	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20	FR 車	5.9	6.2
弊社純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	AWD 車	6.0	6.4

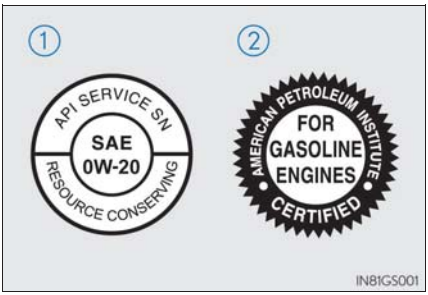
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

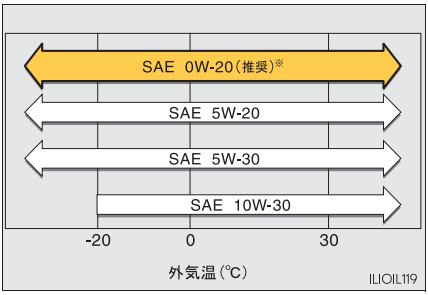
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または高負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	GS250	11.0
	GS350	9.7

トランスミッション

指定銘柄	車種		容量［L］（参考値※）
弊社純正オートフルード　WS	GS250		7.5
	GS350	2WD 車	9.5
		AWD 車	10.0

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

フロントディファレンシャル（AWD 車のみ）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
弊社純正ハイポイドギヤオイル SX （API GL-5 SAE 85W-90）	0.7

リヤディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	車種	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5 SAE 75W-85）	GS250	1.15
	GS350	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］	
遊び	1 ～ 2	
踏み込んだときの床板とのすき間※	2WD 車	115
	AWD 車	126

※ エンジン回転時に 500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しないことを確認する。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	225/50R17 94W	17 × 7 1/2J	230（2.3）	
	235/45R18 94Y	18 × 8J		
	235/40R19 92Y	19 × 8J	240（2.4）	250（2.5）
	265/35R19 94Y	19 × 9J	–	
応急用タイヤ★	T155/70D17 110M	17 × 4T	420（4.2）	
	T145/70D18 107M	18 × 4T		

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ディスチャージヘッドランプ★ （バルブタイプ：D4S） ロービーム／ハイビーム	35
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	ドアミラー照明	5
車内	ドアカーテシランプ	5
	バニティランプ	8
	トランクランプ	3.8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
GS250	GRL11	4GR-FSE （2.5L ガソリン）	FR（後輪駆動）
GS350	GRL10	2GR-FSE （3.5L ガソリン）	
	GRL15		AWD（4 輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサス用 G-BOOK ユーザーサイトのご利用、またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

設定変更のしかた

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1 ナビゲーションシステム画面に「設定・編集」画面を表示し、「車両」を選択する

ナビゲーションシステムの操作方法については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

2 設定を変更したいカテゴリーを選択する

ここでは「ドアロック設定」を選択した場合を例に説明します。

「ドアロック設定」に関する設定項目が一覧で表示されます。

3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

ここでは「車速感応オートドアロック」を選択した場合を例に説明します。

機能の作動内容を選択するメニューが表示されます。

4 機能の作動内容を選択する

作動･非作動を変更できる機能では、「する」（作動）･「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整し、「完了」を選択します。

5 画面右下の「完了」を選択する

設定変更中画面が表示されます。
この画面が表示されているあいだは、他の操作を行わないでください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイで設定するには**

→ P. 78

■ **G- カスタマイズ機能で設定するには（G-Link サービスご契約のお客様のみ）**

→別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

② マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

③ レクサス販売店で設定変更可能

④ G- カスタマイズ機能で設定変更可能
（レクサス用 G-BOOK ユーザーサイトによる設定変更）

⑤ G- カスタマイズ機能で設定変更可能
（レクサス販売店への依頼による設定変更）

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
オートアラーム（→ P. 58）	メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	あり	なし	—	—	○	—	—
マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 74）	言語	日本語	英語	—	○	—	—	—
	ECO ランプ	有（自動点灯）	無	—	○	—	—	—
			常時点灯					
	ドライブモニター	外気温	給油後平均燃費	—	○	—	—	—
			航続可能距離					
	ランプの明るさ	標準	明るい	—	○	—	—	—
	SPORT ランプ	ON	OFF	—	○	—	—	—
	初期設定	しない	する	—	○	—	—	—

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
ドアロック（→ P. 109, P. 416）	メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○	○	○
	車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○	○	○
	シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○	○	○
	シフトレバーをＰにしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○	○	○
	運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○	○	○
	全ドア解除したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	—	—	○	○	○
スマートエントリー & スタートシステム（→ P. 97）、ワイヤレスドアロック（→ P. 107） 共通	作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF レベル 1 ～ 7	○	—	○	—	○
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○	—	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒 120 秒	—	—	○	—	○
	半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○	—	○

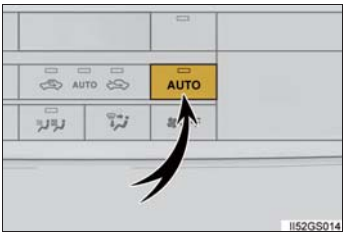
項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 97）	スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○	—	—
	解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○	○	○
	連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○	○	○
ワイヤレスドアロック（→ P. 107）	ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○	—	—
	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○	○	○
	トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	—	○	○	○
			2 回押し					
			1 回押し続ける（長）					
			禁止					
フロントシート（→ P. 120）	降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	—	○	○	○
			少なめ					
	メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○	○	○
ドアミラー（→ P. 133）	オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○	○	○
			エンジンスイッチと連動					

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
パワーウインドウ（→ P. 136）、ムーンルーフ★（→ P. 139）共通	ドアキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○	○	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○	○	○
	ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○	—	—
方向指示灯（→ P. 167）	方向指示灯の点滅中に、点滅している側へ方向指示レバーを一段階操作したときの作動	点滅したまま	消灯	—	—	○	—	—
ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 171）	ライトセンサーの感度調整	標準	－2～2	○	—	○	○	○
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○	○	○
	LED デイライト	あり	なし	—	—	○	○	○
クリアランスソナー★（別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照）	フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○	—	—
	リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○	—	—
	ブザー音量	レベル3	レベル1～5	○	—	○	—	—
	ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	○	—	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
エアコン（別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照）	AUTO スイッチ※がON のとき、連動して外気導入と内気導入を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○	○	○
	AUTO スイッチ※をON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○	○	○
	排ガスセンサー感度調節	標準	− 3 ～ 3	○	—	○	○	○

※ エアコンのオートモードを ON ／ OFF するスイッチで、内外気切りかえスイッチではありません。



項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
フロントシートヒーター（シートベンチレーター非装着車）★（→ P. 282）	フロントシートヒーターの自動制御	する（AUTO）	しない（OFF）	—	—	○	—	—
フロントシートヒーター＆ベンチレーター★／リヤシートヒーター★（→ P. 282）	フロントシートヒーター＆ベンチレーターAUTO モード時の温度または風量調整（各席個別調整可能）	レベル3（標準）	レベル1（弱め）～レベル5（強め）	○	—	○	○	○
	リヤシートヒーターAUTO モード時の温度調整（各席個別調整可能）	レベル3（標準）	レベル1（弱め）～レベル5（強め）	○	—	○	○	○
	エンジンスイッチがイグニッション ON モード時のリヤシートヒーター始動状態（各席個別調整可能）	しない（OFF）	する（AUTO）	○	—	○	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
イルミネーション (→ P. 264)	室内照明の点灯制御	あり	なし	—	—	○	—	—
	室内灯の消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	○	—	○	○	○
			30 秒					
	エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	—	○	○	○
	解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○	○	○
	接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—	○
	足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○	○	○
	ドアミラー照明の点灯制御	あり	なし	—	—	○	—	—
	ドアミラー照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○	○	○
			7.5 秒					
			30 秒					
	接近時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—	○
	解錠時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	—	○	○	○
リヤサンシェード★ (→ P. 288)	リバース連動機能	あり	なし	—	—	○	—	—
	リバース連動機能が作動するまでの時間	約 0.7 秒	約 0 秒	—	—	○	—	—
			約 0.9 秒					
			約 1.2 秒					

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応オートドアロック」と「シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）」を両方とも「あり」にした場合、次のように作動します。
・ シフトレバーを P 以外に入れると全ドアが施錠されます。
・ 全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・ 発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

●「スマートエントリー＆スタートシステム」の設定が「なし」の場合、「解錠されるドアの選択」の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	走行速度・重量変化などでタイヤ空気圧を変更した場合、またはタイヤローテーションを行ったあと	P. 312

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....446
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....450
アルファベット順さくいん 452
五十音順さくいん.....454

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- エアコン・デフォッガー
- ミラーヒーター
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- クリアランスソナー
- ETC システム
- ハンズフリー
- G-Link

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 94）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→ P. 95）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P. 319）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→ P. 154）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 102）

リヤドアが開かない

● チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 110）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

● キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→ P. 115）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

● ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？ （→ P. 153）

● シフトレバーは P になっていますか？ （→ P. 157）

● キーが車内の検知される場所にありますか？ （→ P. 99）

● ステアリングロックされていませんか？ （→ P. 158）

● キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→ P. 417）

● バッテリーがあがっていませんか？ （→ P. 418）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● エンジンスイッチはイグニッション　ON　モードになっていますか？

エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき　（→ P. 413）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 157）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 136）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 156）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 450）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 358、364 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 385）

● タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 395）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 424）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 58
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 381
	シフトポジションがP以外になっている	P. 381
	窓・ムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P. 137 P. 141
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 58
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 115
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 319
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 100
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 379
	シフトポジションがP以外になっている	

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドア・トランクを解錠する、またはエンジンスイッチをイグニッションONモードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 370
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 372
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 361
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 165
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 148
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P. 202
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 233
車線からはずれそうになったとき	LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用している	P. 210

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）※
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 223, 359, 368
AFS
（アダプティブフロントライティングシステム）. 172, 360, 367
AHB
（オートマチックハイビーム）. 174, 368, 377
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）. 218
AWD
（オールホイールドライブ）. 366, 433
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 242
DISP
（ディスプレイ）. 75
DRS
（ダイナミックリヤステアリング）. 224, 369
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 224
FR
（フロントエンジンリヤドライブ）. 433
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 429
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 42, 50
LDH
（レクサスダイナミックハンドリングシステム）. 224
LKA
（レーンキーピングアシスト）. 209, 367, 374, 374

PCS
（プリクラッシュセーフティシステム）. 233, 359, 366, 378
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 33, 359
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）. 223
TRC
（トラクションコントロール）. 223
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）. 224
VGRS
（バリアブルギヤレシオステアリング）. 223, 369

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 418
アームレスト（リヤアームレスト）..... 287
アウターミラー（ドアミラー）..... 133
　操作..... 133
　ブラインドスポットモニター（BSM）..... 242
　リバース連動機能..... 134
アクセサリーソケット..... 279
アクセサリーモード..... 154
アシストグリップ..... 293
足元照明..... 264
アダプティブフロントライティングシステム（AFS）..... 172
アラーム..... 58
　オートアラーム..... 58
　音さくいん..... 450
　警告ブザー..... 358, 364
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 223
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 99

い

イージークローザー（トランク）..... 115
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 153
位置交換（タイヤローテーション）..... 310
イベントデータレコーダー（EDR）.... 8
イモビライザーシステム..... 57
イルミネーテッドエントリーシステム..... 266
インジケーター（表示灯）..... 68
インテリアランプ..... 265
インナーミラー..... 131

う

ウインカー（方向指示灯）..... 167
　電球（バルブ）の交換..... 332
　方向指示レバー..... 167
　ワット数..... 433
ウインドウ..... 136
　ウォッシャー..... 182
　パワーウインドウ..... 136
　リヤウインドウデフォッガー※
ウインドウロックスイッチ..... 136
ウォーニングランプ（警告灯）..... 358
ウォッシャー..... 182
　液の補給..... 309
　スイッチ..... 182
　タンク容量..... 431
　冬の前の準備・点検..... 258
動けなくなったときは（スタック）..... 424
雨滴感知式ワイパー..... 182
運転..... 144
　運転を補助する装置..... 223
　寒冷時の運転..... 258
　正しい運転姿勢..... 26
　手順..... 144
運転席シートポジションメモリー..... 123

え

エアコン・デフォッガー※
エアバッグ..... 33
SRS エアバッグ警告灯..... 359
作動条件..... 37
配置..... 33
ECO ランプ..... 71
LED デイライト..... 173
エレクトリック
パワーステアリング（EPS）..... 224
機能..... 224
パワーステアリング警告灯 359
エンジン
エンジンイモビライザー
システム..... 57
エンジン回転計
（タコメーター）..... 71
エンジンがかからない
（エンジンが始動できない）.... 411
エンジン警告灯 359
エンジンスイッチ..... 153
エンジンの始動方法..... 153
エンジンルームカバー..... 307
オーバーヒート 421
ボンネット 303
エンジンオイル..... 428
警告メッセージ 365, 372
冬の前の準備・点検..... 258
メンテナンスデータ 428
エンジンスイッチ..... 153
エンジンフード（ボンネット）..... 303
開け方..... 303
警告メッセージ 370
エンジンルーム..... 307
エンジンルームカバー..... 307
エンジンルームから
蒸気が出ている 421

お

オーディオ※
オートアラーム..... 58
オートドアロック・
アンロック機能..... 111
オートマチックハイビーム 174
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 173
オーバーヒート..... 421
オープナー
トランク 113
ボンネット 303
オイル（エンジンオイル）..... 428
応急用タイヤ..... 385
空気圧 432
交換方法 385
お子さまを乗せるとき 41
ウインドウロックスイッチ 136
お子さまの安全のために 41
子供専用シート..... 42
シートベルトの着用..... 29, 30
チャイルドシートの取り付け 50
チャイルドプロテクター..... 110
オドメーター..... 71
機能..... 71
表示の切りかえ・
リセットボタン 72

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

か

カーテンシールドエアバッグ 33
カードキー..... 92
カーペット..... 300
　洗浄 301
　フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示..... 75
外装の電球（バルブ）..... 332
　交換要領 332
　ワット数 433
カスタマイズ機能..... 434
型式 433
カップホルダー..... 270
カメラ
　オートマチックハイビーム 179
　近赤外線カメラ
　（ナイトビュー）..... 256
　ドライバーモニター用カメラ
　（PCS）..... 235
　白線認識用カメラ（LKA）..... 217
ガラスの曇り止め
（リヤウインドウデフォッガー）※
ガレージジャッキ..... 305
冠水路走行..... 151
寒冷時の運転..... 258

き

キー 92
　エンジンが始動できない 417
　カードキー 92
　キーナンバープレート 92
　キーの構成 92
　キーレスエントリー..... 97, 107
　キーをなくした..... 94, 95
　正常に働かない..... 416
　施錠・解錠ができない..... 416
　電子キー 92
　電池が切れた 319, 416
　メカニカルキー..... 93
　ワイヤレスリモコン..... 107
キーレスエントリー 97
　スマートエントリー&
　スタートシステム 97
　ワイヤレスドアロック..... 107
救急箱等固定用ネット 273
給油 189
　給油口が開けられない..... 191
　給油のしかた 189
給油後平均燃費..... 75
緊急時シートベルト固定機構..... 30

緊急時の対処
エンジンが始動できない..... 411
オーバーヒートした..... 421
キーの電池が切れた..... 319, 416
警告灯がついた 358
警告メッセージが
表示された 364
けん引 353
故障したときは 348
シフトレバーが
シフトできない 413
車両を緊急停止する..... 352
スタックした 424
電子キーが正常に働かない..... 416
パーキングブレーキが
解除できない 414
発炎筒 350
バッテリーがあがった..... 418
パンクした 385, 395

く

空気圧（タイヤ）..... 432
タイヤ空気圧警告灯..... 361
タイヤ空気圧警報システム..... 311
メンテナンスデータ..... 432
区間距離計（トリップメーター）..... 71
機能 71
切りかえ・リセットボタン..... 72
曇り取り※
ミラーヒーター※
リヤウインドウデフォッガー※
クラクション（ホーン）..... 170
クリアランスソナー※
警告メッセージ 366, 373
操作※
クリアランスランプ（車幅灯）..... 171
スイッチ 171
電球（バルブ）の交換..... 343
クリップ
エンジンルームカバー..... 307
フロアマット 24
クルーズコントロール 194
クルーズコントロール..... 194
警告メッセージ..... 367, 373
レーダークルーズ
コントロール 198
グローブボックス 268
グローブボックスランプ 268

け

警音器（ホーン）..... 170
計器類（メーター）..... 71
照度調整 72
ヘッドアップディスプレイ 82
マルチインフォメーション
ディスプレイ 74
メーター 71

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

警告灯 67
ABS ＆ブレーキアシスト 359
SRS エアバッグ 359
アダプティブフロント
ライティングシステム
（AFS） 360
エンジン 359
シートベルト非着用 361
充電 358
スリップ表示灯 360
タイヤ空気圧 361
燃料残量 361
パーキングブレーキ 360
パワーステアリング 359
半ドア 361
PCS 359
プリテンショナー 359
ブレーキ 358, 360
マスターウォーニング 361
警告ブザー
シートベルト非着用 361
シフトダウン制限 165
接近警報（レーダークルーズ
コントロール） 202
手放し運転警告（LKA） 213
パーキングブレーキ
未解除走行時 372
半ドア 100, 108
半ドア走行時 370
ブレーキ 364
窓開 137
ムーンルーフ開 141
リバース 165
警告メッセージ 364
化粧ミラー（バニティミラー） 276
けん引 353
けん引のしかた 353
フック 354

こ

交換
キーの電池 319
タイヤ 385
電球（バルブ） 332
ヒューズ 321
工具（ツール） 386, 396
航続可能距離 76
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 332
ワット数 433
コートフック 292
子供専用シート 42
選択方法 42
取り付け方 50
小物入れ 272
コンソールボックス 269
コンソールボックスランプ 269
コンライト
（自動点灯・消灯装置） 171

さ

サイドエアバッグ 33
サイド方向指示灯 167
　電球（バルブ）の交換 343
　方向指示レバー 167
　ワット数 433
サイドミラー（ドアミラー） 133
　操作 133
　ブラインドスポットモニター（BSM） 242
　リバース連動機能 134
サスペンションコントロール（PCS） 234
サンシェード
　ムーンルーフ 140
　リヤ 288
　リヤドア 289
サンバイザー 276

し

シート 120
　子供専用シート 42
　正しい運転姿勢 26
　調整 120
　手入れ 300
　ドライビングポジションメモリー 123
　パワーイージーアクセスシステム 123
　ヘッドレスト 128
　メモリーコール機能 126
シートヒーター 282
シートベルト 28
　お子さまの着用 29, 30
　緊急時シートベルト固定機構 30
　シートベルト非着用警告灯 361
　高さ調整 28
　正しく着用するには 28
　着け方・はずし方 28
　手入れ 301
　妊娠中の方の着用 31
シートベルトコンフォートガイド 29
シートベルト非着用警告灯 361
シートベルトプリテンショナー 29
　機能 29
　プリテンショナー警告灯 359
シートベンチレーター 282
シートポジションメモリー 123
室内灯（インテリアランプ） 264
始動のしかた 153
シフト照明 264
シフトポジション 162

シフトレバー 161
シフトレンジの切りかえ 161
シフトロックシステム（解除ボタン） 413
操作 161
リバース警告ブザー 165
シフトレバーがシフトできないときは 413
締め付けトルク（ホイール） 392
ジャッキ
ガレージジャッキ 305
車載ジャッキ 386, 396
ジャッキハンドル 386, 396
車幅灯 171
電球（バルブ）の交換 343
ランプスイッチ 171
車両型式 433
車両仕様（スペック） 428
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 352
ジュニアシート 43
瞬間燃費 75
仕様（車両仕様） 428
衝撃感知ドアロック解除システム 111
初期化
（タイヤ空気圧警報システム） 312
侵入センサー（オートアラーム） 61

す

水温計 71
スイッチ
イグニッション 153
ウインドウロック 136
ウォッシャー 182
AFS OFF 172
LKA 211
エンジンスイッチ 153
オーディオ※
オートマチックハイビーム 174
クリアランスソナー※
クルーズコントロール 194,198
シート調整 120
シートヒーター 282
シートベンチレーター 282
シートポジションメモリー 123
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール） 200
助手席側面スイッチ 121
侵入センサー OFF 61
ステアリングヒーター 281
スノーモード 162
DISP 75
電話※
ドアミラー 133
ドアロック 109
トーク※
ドライビングポジションメモリー 123
ドライブモードセレクト 218
トランクオープナー 113
トランクオープナーメイン 114
トランククローズ 114
ナイトビュー 247
パーキングブレーキ 168
パドルシフト 163

パワーウインドウ..... 136
ハンドル位置調整..... 130
PCS OFF 235
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 349
VSC OFF 225
フォグランプ 180
ブラインドスポットモニター
（BSM)..... 242
ヘッドアップディスプレイ 82
ヘッドランプクリーナー..... 188
方向指示レバー 167
ホーン（警音器）..... 170
ムーンルーフ 139
ランプ 171
リセット（タイヤ空気圧警報
システム)..... 312
リヤウインドウデフォッガー※
リヤサンシェード..... 288
レーダークルーズ
コントロール 198
ワイパー 182
スタック..... 424
ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール（S-VSC）..... 223
ステアリングヒーター 281
ステアリングホイール
（ハンドル）..... 130
位置調整 130
ステアリングヒーター..... 281
ドライビングポジション
メモリー 123
ステアリングロック 157
解除できないとき..... 158
警告メッセージ..... 383
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル..... 224
電球（バルブ）の交換 343
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 258
スピードメーター 71
スペアタイヤ（応急用タイヤ）..... 385
空気圧 432
交換方法 385
スペック（車両仕様）..... 428
SPORT ランプ..... 73
スマートエントリー&
スタートシステム..... 97
アンテナの位置..... 99
エンジンの始動 153
カスタマイズ設定..... 434
警告ブザー 100
警告メッセージ..... 369
作動範囲 99
正常に働かないとき..... 416
節電機能 101
電波がおよぼす影響について ... 106
ドアの解錠・施錠..... 98
トランクの解錠..... 98
スモールランプ（車幅灯）..... 171
電球（バルブ）の交換..... 343
ランプスイッチ..... 171

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

せ

清掃 296, 300
アルミホイール 297
外装 296
シートベルト 301
ドライバーモニター用カメラ ... 241
内装 300
レーダーセンサー 208
制動灯
緊急ブレーキシグナル..... 224
電球（バルブ）の交換..... 343
積算距離計（オドメーター）..... 71
機能 71
表示の切りかえ・
リセットボタン 72
セキュリティインジケーター ... 57, 58
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 202
センサー
インナーミラー 132
雨滴感知センサー..... 186
オートマチックハイビーム 179
湿度センサー※
侵入センサー 61
ライトセンサー 173
レーダーセンサー..... 205, 235
洗車 296
前照灯（ヘッドランプ）..... 171
電球（バルブ）の交換..... 343
ライトセンサー 173
ランプ消し忘れ防止機能..... 173
ランプスイッチ 171

そ

走行モード
（ドライブモード）..... 162, 218
送信機
（タイヤ空気圧警報システム）..... 311
速度計（スピードメーター）..... 71

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 167
電球（バルブ）の交換..... 332
方向指示レバー..... 167
ワット数 433
タイヤ..... 310
応急用タイヤ 385
空気圧 432
交換 385
締め付けトルク..... 392
低偏平タイヤ 314
点検 310
パンク応急修理キット 395
パンクしたときは..... 385, 395
ホイールサイズ..... 432
ローテーション（位置交換）.... 310
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 424

タイヤ空気圧警報システム 311
ID コードの登録・選択..... 313
アンテナの位置 317
機能について 311
空気圧バルブ／
送信機について 311
空気圧表示画面 77
警告画面 377
初期化 312
タイヤ空気圧警告灯..... 361
電波が及ぼす影響について 317
タイヤチェーン..... 258

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 258
チャイルドシート 42
ISOFIX バーでの取り付け 52
シートベルトでの固定..... 51
選択方法 42
チャイルドプロテクター 110
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 168
解除できないとき..... 414
警告メッセージ 368, 372, 372
操作 168
パーキングブレーキ警告灯 360
未解除走行時警告ブザー..... 372
メンテナンスデータ..... 431

つ

通算平均燃費..... 76
ツール（工具）..... 386, 396

て

ディスチャージヘッドランプ
オートレベリングシステム 173
電球（バルブ）の交換..... 343
ランプスイッチ..... 171
ディファレンシャル 430
低偏平タイヤ..... 314
手入れ..... 296, 300
アルミホイール..... 297
外装 296
シートベルト 301
ドライバーモニター用カメラ ... 241
内装 300
レーダーセンサー..... 208
テールランプ（尾灯）..... 171
電球（バルブ）の交換..... 343
ランプスイッチ..... 171
デフォッガー（リヤウインドウ
デフォッガー）※
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 332
ワット数 433
点検基準値
（メンテナンスデータ）..... 428
電子キー..... 92
作動範囲 99
正常に働かないとき..... 416
節電機能 102
電池が切れた 416
電池交換 319
電池交換（キー）..... 319
電話スイッチ※

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

と

ドア 109
オートドアロック・アンロック機能 111
警告メッセージ 370
衝撃感知ドアロック解除システム 111
スマートエントリー&スタートシステム 97
チャイルドプロテクター 110
ドアガラス 136
ドアロックスイッチ 109
半ドア警告灯 361
半ドア走行時警告ブザー 370
ロックレバー 109
ワイヤレスリモコン 107
ドアカーテシランプ 264
位置 264
ワット数 433
ドアハンドル照明 264
ドアミラー 133
操作 133
ブラインドスポットモニター（BSM） 242
リバース連動機能 134
ドアミラー照明 264
電球（バルブ）の交換 332
ワット数 433
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 57
オートアラーム 58
トークスイッチ※
時計 277
トップテザーアンカー 50
ドライバーモニター 234
ドライビングポジションメモリー 123
パワーイージーアクセスシステム 123
ポジションメモリー 124
メモリーコール機能 126
トラクションコントロール（TRC） 223
トランク 113
イージークローザー 115
オープナー 113
キー閉じ込み防止機能 115
クローズスイッチ 114
警告メッセージ 371
電子キーが正常に働かないとき 416
トランクオープナーを使用できなくするには 114
トランク内の装備 273
パワートランクリッド 113
メインスイッチ 114
トランクスルー 291
トランクランプ 115
トランスミッション 161
シフトダウン制限警告ブザー ... 165
操作 161
パドルシフトスイッチ 163
メンテナンスデータ 430
トリップインフォメーション（マルチインフォメーションディスプレイ） 75
トリップメーター 71
機能 71
切りかえ・リセットボタン 72

な

内装
収納装備 267
手入れ 300
ナイトビュー 247
「ナノイー」※
ナビゲーションシステム※

に

ニーエアバッグ 33
荷物
積むときの注意 152
トランク 113
荷物固定用フック 273

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック） ... 424

ね

燃料 428
給油 189
種類 428
燃料残量警告灯 361
容量 428
燃料計 71

は

パーキングブレーキ 168
解除できないとき 414
警告メッセージ 368, 372, 372
操作 168
ブレーキ警告灯 360
未解除走行時警告ブザー 372
メンテナンスデータ 431
パーソナルランプ 265
排気ガス 56
灰皿 278
ハイビーム（ヘッドランプ） 171
オートマチックハイビーム 174
電球（バルブ）の交換 343
ランプスイッチ 171
ワット数 433
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 343
ハザードランプ（非常点滅灯） 349
スイッチ 349
電球（バルブ）の交換 332
ワット数 433
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 136
パワートランクリッド 116
ムーンルーフ 140
発炎筒 350
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 332
ワット数 433
バッテリーがあがった 418
パドルシフトスイッチ 163
バニティ（化粧用）ミラー 276
バニティミラーランプ 276
装備について 276
ワット数 433

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

バリアブルギヤレシオ
ステアリング（VGRS）..... 223
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 332
ワット数 433
パワーイージーアクセス
システム 123
パワーウインドウ 136
ウインドウロックスイッチ 136
閉めることができないときは ... 137
操作 136
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能 137
挟み込み防止機能..... 136
パワーステアリング 224
警告メッセージ 369
パワーステアリング警告灯 359
パワートランクリッド 113
パンクした
応急用タイヤ装着車..... 385
タイヤパンク応急修理キット
装着車 395
番号灯
（ライセンスプレートランプ）..... 171
電球（バルブ）の交換..... 343
ランプスイッチ 171
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 130
位置調整 130
ステアリングヒーター..... 281
ドライビングポジション
メモリー..... 123

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 223
ビークルダイナミクス
インテグレイテッド
マネージメント（VDIM）..... 224
ヒーター
エアコン・デフォッガー※
シートヒーター..... 282
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 349
スイッチ 349
電球（バルブ）の交換..... 332
ワット数 433
尾灯（テールランプ）..... 171
電球（バルブ）の交換..... 343
ランプスイッチ 171
ヒューズ..... 321
表示灯..... 68
日よけ（サンバイザー）..... 276
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 231

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方..... 418
フォグランプ..... 180
スイッチ 180
電球（バルブ）の交換..... 343
ワット数 433

ブザー
シートベルト非着用警告 361
シフトダウン制限警告 165
接近警報（レーダークルーズコントロール） 202
手放し運転警告（LKA） 213
パーキングブレーキ未解除走行時警告 372
半ドア走行時警告 370
ブレーキ警告 364
窓開警告 137
ムーンルーフ開警告 141
リバース警告 165
フック
けん引フック 354
コートフック 292
荷物固定用フック 273
フロアマット固定フック 24
ユーティリティーフック 294
ラゲージフック 273
フューエルメーター（燃料計） 71
フューエルリッド（給油口） 189
給油口が開かない 191
給油のしかた 189
冬の前の準備（寒冷時の運転） 258
冬用タイヤ 258
ブラインドスポットモニター（BSM） 242
プリクラッシュセーフティシステム（PCS） 233
機能 233
PCS OFF スイッチ 235
PCS 警告灯 359
ブレーキ
警告ブザー 364
警告メッセージ 364
パーキングブレーキ 168
ブレーキ警告灯 358, 360
メンテナンスデータ 431
ブレーキアシスト 223
ABS &ブレーキアシスト警告灯 359
機能 223
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる 148
ブレーキフルード 431
フロアマット 24
フロントシート 120
シートヒーター 282
シートベンチレーター 282
シートポジションメモリー 123
正しい運転姿勢 26
調整 120
手入れ 300
ドライビングポジションメモリー 123
ヘッドレスト 128
フロントパーソナルランプ 265
フロントフォグランプ 180
スイッチ 180
電球（バルブ）の交換 343
ワット数 433
フロント方向指示灯 167
電球（バルブ）の交換 332
方向指示レバー 167
ワット数 433

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

へ

平均車速..... 76
平均燃費..... 76
ヘッドアップディスプレイ 82
ヘッドランプ..... 171
　クリーナー 188
　電球（バルブ）の交換..... 343
　ライトセンサー 173
　ランプ消し忘れ防止機能..... 173
　ランプスイッチ 171
ヘッドランプオートレベリング
　システム 173
ヘッドレスト..... 128
ベビーシート..... 43
ヘルプネットスイッチパネル※
ベンチレーター
　（シートベンチレーター）..... 282

ほ

ホイール
　交換（タイヤ）..... 385
　メンテナンスデータ..... 432
方向指示灯..... 167
　電球（バルブ）の交換..... 332
　方向指示レバー 167
　ワット数 433
ホーン（警音器）..... 170
保証 9
ボンネット..... 303
　開け方 303
　警告メッセージ 370

ま

マスターウォーニング 361
マルチインフォメーション
　ディスプレイ..... 74
　警告メッセージ..... 364
　トリップインフォメーション 75

み

ミラー
　インナーミラー..... 131
　ドアミラー 133
　バニティミラー..... 276

む

ムーンルーフ..... 139
　警告メッセージ..... 371
　操作 139
　ドアロック連動ムーンルーフ
　　開閉機構 140
　挟み込み防止機能..... 136

め

メーター（計器類）..... 71
　警告灯 358
　照度調整 72
　表示灯 68
　ヘッドアップディスプレイ 82
　マルチインフォメーション
　　ディスプレイ 74
　メーター 71
メカニカルキー..... 93
メモリーコール機能 126
メンテナンスデータ 428

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 434
ユーティリティーフック 294
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 424
油脂類 428

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 171
電球（バルブ）の交換..... 343
ランプスイッチ 171
ラゲージフック..... 273
ラゲージマット..... 274
ラゲージルーム
（トランク）..... 113, 273
ラジエーター
オーバーヒート 421
メンテナンスデータ 430
ランプ
室内灯 264
電球（バルブ）の交換..... 332
パーソナルランプ..... 265
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 349
フロントフォグランプ..... 180
ヘッドランプ（前照灯）..... 171
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 167
ライトセンサー 173
ランプ消し忘れ防止機能..... 173
リヤフォグランプ..... 180
ワット数 433
ランプ消し忘れ防止機能 173

り

リバース連動機能
ドアミラー 134
リヤサンシェード..... 289
リモートタッチ※
リヤアームレスト 287
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ※
リヤサンシェード 288
リヤシートヒーター 282
リヤドアサンシェード 289
リヤパーソナルランプ 265
リヤフォグランプ..... 180
スイッチ 180
電球（バルブ）の交換 343
リヤ方向指示灯 167
電球（バルブ）の交換..... 332
方向指示レバー..... 167
ワット数 433

る

ルームミラー（インナーミラー）... 131
ルームランプ（室内灯）..... 264

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

れ

レーダークルーズコントロール..... 198
警告メッセージ 367, 373
接近警報 202
レーダーセンサー..... 205
レーンキーピングアシスト
(LKA)..... 209
警告メッセージ 367, 374, 374
操作 211
冷却水 430
水温計 71
冬の前の準備 258
メンテナンスデータ 430
冷却装置（ラジエーター）..... 430
オーバーヒート 421
メンテナンスデータ 430
レバー
シフト 161
方向指示 167
ボンネット解除 303
ロック（ドア）..... 109

ろ

ロック
ウインドウロック..... 136
シフトロック 413
スマートエントリー&
スタートシステム 97
チャイルドプロテクター..... 110
ドア 109
ワイヤレスリモコン..... 107

わ

ワイパー & ウォッシャー 182
ワイパー停止位置の切りかえ..... 259
ワイパーブレード（寒冷地用）..... 260
ワイヤレスリモコン 107
作動の合図 108
操作 107
電池の交換 319
半ドア警告ブザー..... 108
ワックス..... 296
ワット数..... 433

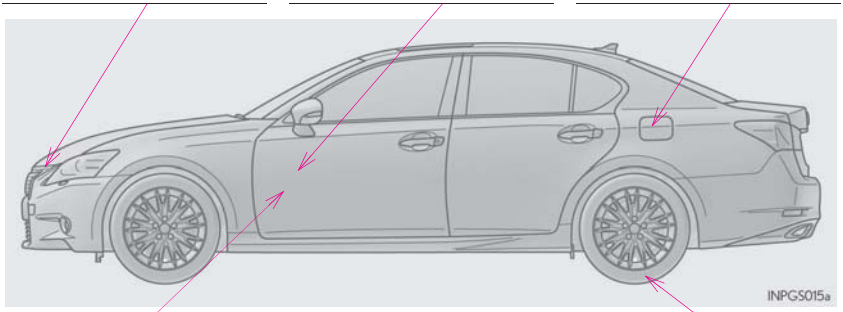
ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック
P. 303

トランクオープナー
P. 113

給油口
P. 190



ボンネット解除レバー
P. 303

タイヤ空気圧
P. 432

燃料の容量（参考値）	66L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）　P. 428
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ： kPa(kg/cm^2) タイヤサイズ / 前輪 / 後輪 225/50R17 94W：230（2.3） 235/45R18 94Y：230（2.3） 235/40R19 92Y：240（2.4） 265/35R19 94Y：− 後輪：250（2.5） 応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）
エンジンオイル容量（参考値）	FR 車 / AWD 車 オイルのみ交換時：5.9L / 6.0L オイルとフィルター交換時：6.2L / 6.4L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・ SN 5W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・ SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30） ・ SN 10W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

「個人情報保護方針」については、http://lexus.jp にて掲載しております。

ア-14

M30D36
01999-30D36
II-2013年10月10日
2013年10月17日初版

GS350 / GS250